

アカバヒゲボソキノコムシ *Parabaptistes reitteri*

朽木や枯れ木などをたたくと落ちてくる。各地に多い普通種。

ウスグロヒゲボソキノコムシ *Parabaptistes lewisi*

チャイロヒゲボソキノコムシ *Parabaptistes irregularis*

2.1.8.18.26. ツツキノコムシ科

ダルマツツキノコムシ *Nipponapterocis brevis*

カワウソタケなどに見られるが、かなり少ない種である。

オオツツキノコムシ *Cis boleti polypori*

平地から山地にかけて、種々のキノコに見られる。もっとも多い普通種である。

ミヤマツツキノコムシ *Cis niponicus*

ハバビロツツキノコムシ *Cis brevipennis*

Cis rufocastaneus Nakane et Nobuchi, 1955

どういうわけか和名がない。少ない種と思われる。

ゴマフツツキノコムシ *Cis hieroglyphicus*

あまり多くない種である。

ミツウナツツキノコムシ *Cis seritulus*

カワラタケなどに見られる。

コウノツツキノコムシ *Cis konoi*

神奈川県未記録種である。

ニッコウツツキノコムシ *Cis nikkoensis*

少ない種と思われる。

フタツノツヤツツキノコムシ *Euxestocis bicornutus*

マダラツツキノコムシ *Orthocis ornatus*

平地に普通に見られる。

フタツノツツキノコムシ *Neoenearthron bicarinatum*

カワウソタケなどに見られるが、少ない。

クロエグリツツキノコムシ *Eunearthron mohrii*

チュウジョウエグリツツキノコムシ *Eunearthron chujoi*

各地に多い普通種。

ミツノツツキノコムシ *Odontocis denticollis*

ツヤツツキノコムシ *Octotemnus laminifrons*

ツツキノの中ではもっとも多い普通種。

カタキバツツキノコムシ *Octotemnus japonicus*

ヒメツヤツツキノコムシ *Octotemnus parvulus*

オオツヤツツキノコムシ *Octotemnus glabriculus*

2.1.8.18.27.キノコムシダマシ科

2.1.8.18.27.1.コキノコムシダマシ亜科

クロコキノコムシダマシ *Pisenus rufitarsis*

あまり多くない種である。

アカバコキノコムシダマシ *Pisenus insignis*

枯れ枝などをたたくと落ちてくる。各地に見られる普通種である。

2.1.8.18.27.2.キノコムシダマシ亜科

マダラキノコムシダマシ *Abstrulia japonica*

やや少ない種である。

キムネキノコムシダマシ *Tetratoma nobuchii*

かなり少ない種である。

2.1.8.18.27.3.モンキナガクチ亜科

モンキナガクチキムシ *Penthe japana*

やや大型の甲虫で、同定は容易。朽木などに多い。

2.1.8.18.28.ナガクチキムシ科

2.1.8.18.28.1.ニセハナノミ亜科

カツオガタナガクチキ *Synstrophus macrophthalmus*

各地にもっとも多く見られる。樹皮下で越冬する。

ミヤマヒメナガクチキムシ *Hallomenus nipponicus*

アヤモンヒメナガクチキ *Holostrophus orientalis*

ヨツボシヒメナガクチキ *Holostrophus lewisi*

山地に普通である。

アヤモンニセハナノミ *Orchesia elegantula*

本種も各地に普通に見られる。本属のものはその名の通りノミのように跳ねる。

アカオビニセハナノミ *Orchesia imitans*

マルモンニセハナノミ *Orchesia diversenotata*

この仲間ではもっとも少ない種である。

コイチャニセハナノミ *Orchesia marseuli*

少ない種である。

カバイロニセハナノミ *Orchesia ocularis*

山地に多い。

チビノミナガクチキ *Lederia japonica*

この属はいずれも落葉下に生息し、ノミのように跳ねる微小種である。本種は山梨県などには多いようなので、山地で得られるはず。

2.1.8.18.28.2.ナガクチキムシ亜科

ミツボシホソナガクチキ *Abdera trisignata*

一見ナガクチキに見えない種で、平地に生息するが、あまり多いものではない。

ミスジナガクチキ *Stenoxylita trialbofasciata*

山地性の美麗種で、珍しい。

ヒロイホソナガクチキ *Dapsiloderus nomurai*

美麗種の代表格で稀である。

ムツモンナガクチキ *Dircaeomorpha validicornis*

本種も綺麗な紋があり、美しい。かなり少ないようだ。

フタオビホソナガクチキ *Dircaea erotyloides*

山地性の種で、枯れ木などで得られる。しばしばライトトラップに飛来する。

キオビホソナガクチキ *Phloeotrya flavitarsis*

山地に多く見られる。

コモンホソナガクチキ *Phloeotrya trisignata*

山地に見られるがあまり多くはない。

オオクロホソナガクチキ *Phloeotrya bellicosa*

ナガクチキでは最大の種で山地に多い。

クロホソナガクチキ *Phloeotrya rugicollis*

平地から山地かけて多く見られる。

ピロウドホソナガクチキ *Phloeotrya obscura*

本属ではもっとも多い種。平地から低山にかけて見られる。

モモキホソナガクチキ *Phloeotrinus femoralis*

やや山地性で、それほど多くはない。

カタクボホソナガクチキ *Phloeotrynus filiformis*

チビホソナガクチキ *P.parvula*(Lewis)とされていたもので、水野(1992)により和名ごと変更になった。あまり多い種ではない。

コメツキガタナガクチキ *enchodes crepusculus*

県内未記録種。少ない種である。

ヒメホソナガクチキ *Serropalopus* sp.

本種は *Phloeotrinis filiformis* (Marseul)の学名で報告したが、水野(1992)によれば本種には名前がついていないという。

キスジナガクチキ *Mikadonius gracilis*

他県では多いようだが、神奈川県ではかなり少ないようだ。

ミヤケヒメナガクチキ *Symphora miyakei miykei*

あまり多い種ではない。

ヨツボシキバネナガクチキ *Stolius vagepictus*

一見ナガクチキには見えないが、同定は容易。

カタアカナガクチキ *Hira humerosignata*

少ない種である。

ムナクボナガクチキ *Euryzilora lividipennis*

筆者はライト・トップで得た。かなり少ない種であるらしい。

ヨツモンホソナガクチキムシ *Spilotus uninotata*

ネアカツツナガクチキ *Hypulus cingulatus*

美しい種で、山地に見られるが、少ない種である。

ヒゴツツナガクチキ *Hypulus higonius*

従来、次種と混同していたようで、次の記録の内、檜洞丸以外は次種として記録したもので、訂正済み。

トゲムネツツナガクチキ *Hypulus actangulus*

現在まで、箱根では得られておらず、丹沢の山地帯のみに生息し、あまり多くない。

ムネアカナガクチキ *Phryganophilus ruficollis rosti*

かなり稀な種で、記録は1例のみ。

ボウズナガクチキ *Bonzicus hypocrita*

腿節の先端が黄色くて、極めて印象的な種。あまり多くない。

セアカナガクチキ *Ivania coccinea*

赤いナガクチキで、同定は容易。それほど多いものではない。

ミヅバネナガクチキ *Melandrya modesta*

山地性の種だが多いものではない。

オオナガクチキ *Melandrya duvia niponica*

山地性の種で少ない。

アオバナガクチキ *Melandrya rufipes gloriosa*

ピカピカに光る美麗種で、この属のものとしては多いものだが、朽木上を極めて活発に動き回るので、採りにくい。

クロナガクチキ *Prothalia atricolor*

本種も山地性の種で多くない。

ヘリアカナガクチキ *Prothalia ordinaria*

本種も山地性の種で少ない。

アカモンナガクチキ *Prothalia rufonotata*

記録は次のものだけで、少ない種である。

ウスモンナガクチキ *Eumelandrya obsoletomaculata*

山地に見られるが、あまり多くはない種である。

2.1.8.18.28.3.アオオビナガクチキムシ亜科

アオオビナガクチキ *Osphya orientalis*

ナガクチキとしては特異な生態で、おもにクリの花などに集まる。

2.1.8.18.29.ハナノミ科

2.1.8.18.30.オオハナノミ科

2.1.8.18.31.ヒラタナガクチキムシ科

ヒメコメツキガタナガクチキ *Synchroa melanotoides*

低山から山地にかけて普通である。朽木などに多く、夜間、樹上を這い回っている。

2.1.8.18.32.クビナガムシ科

クビナガムシ *Cephaloon pallens*

成虫は花に集まる。各地に普通である。

クビカクシナガクチキ *Scotodes niponicus*

山地より平地に多く見られる。

ツメホソクビナガムシ *Stenocephaloon metallicum*

山地性の珍しい種で、少ない。幼虫がブナより発見されたのは興味深い。

2.1.8.18.33.カミキリモドキ科

2.1.8.18.34.アカハネムシ科

2.1.8.18.34.1.ヘリハネムシ亜科

キスジヘリハネムシ *Ischalia luteolineata*

珍しい種で、次のものが県内結一の記録。

2.1.8.18.34.2.アカハネムシ亜科

オカモトツヤアナハネムシ *Tosadendoroides okamotoi*

本種も極めて珍しい種である。

クシヒゲビロウドムシ *Pseudodendroides ocularis*

山地性の種で多くない。神奈川県新記録である。

オオクシヒゲビロウドムシ *Pseudodendroides niponensis*

あまり多くはない。

ムネアカクロアカハネムシ *Pseudopyrochroa atripennis*

同定は極めて容易。各地に普通である。

ムナビロアカハネムシ *Pseudopyrochroa laticollis*

アカハネの中ではもっとも多い種である。

ミゾアカハネムシ *Pseudopyrochroa breccitarsis*

ムナグロオニアカハネムシ *Pseudopyrochroa flavilabris*

かなり少ない種である。

オニアカハネムシ *Pseudopyrochroa japonica*

雄の頭部に鬼の角状の突起があり、おもしろい形態をしている。各地に普通に見られる。

ウスイロアカハネムシ *Pseudopyrochroa peculiaris*

あまり多くはない。

ヒメアカハネムシ *Pseudopyrochroa rufula*

少ない種である。

アカハネムシ *Pseudopyrochroa vestiflua*

各地に普通の種である。

2.1.8.18.35.アリモドキ科

2.1.8.18.35.1.オクビボソムシ亜科

ケナガクビホムソムシ *Neostereopalpus niponicus*

大型の種で、山地にはかなり見られる。平地での記録は少ないようである。

オオクビボソムシ *Stereopalpus gigas*

県内では次の記録しかない少ない種である。

2.1.8.18.35.2.クビボソムシ亜科

ヒゲナガクビボソムシ *Macratrria antennalis*

本種は箱根の仙石原ではかなり見られるが、丹沢からの採集例は少ない。全国的には珍しい種であるらしい。

2.1.8.18.35.3.アリモドキ亜科

クロスジイッカク *Notoxus haagi haagi*

胸に大きな突起がある顕著な、水らしい種で、県内の記録も少ない。

クロチビアリモドキ *Anthicomorphus niponicus niponicus*

山地にかなり見られる。

ヘリアカアリモドキ *Anthicomorphus suturalis*

やや大型の美麗種で、同定は容易。山地でしばしば得られる。

ツヤチビホソアリモドキ *Anthicus laevipennis*

各地に見られるが、そう多くはない。

ウスモンホソアリモドキ *Anthicus confucii confucii*

クロホソアリモドキ *Sapintus litorosus*

この仲間ではやや大きく美しい種である。最近やっと採集できた。少ないものらしい。

アカモンホソアリモドキ *Sapintus marseuli*

各地に普通に見られる。

ムナグロホソアリモドキ *Sapintus cohaeres*

本種も各地に多い。

2.1.8.18.36.ニセクビボソムシ科

マダラニセクビボソムシ *Phytobaenus amabilis*

あまり多くはない。

クシヒゲニセクビボソムシ *Picemilinus flabellicornis*

触角が櫛ひげ状をしていて、同定は容易。少ない種のようにだ。

アシマガリニセクビボソムシ *Pseudolotelus distortus*

みは中脛節に特徴があるので分かりやすいが、♀は田の種と粉らわしい。少ない種である。

セグロニセクビボソムシ *Syzeton brunnidorsis*

あまり多くない。

2.1.8.18.37.ツチハンミョウ科

2.1.8.18.37.1.ツチハンミョウ亜科

マメハンミョウ *Epicauta gorhami*

幼虫はイナゴやフキバッタ類の卵塊などに寄生する。以前は畑などによく見られたが、最近では全く見られなくなった。県絶滅危惧種である。(神・危惧種F)

ヒメツチハンミョウ *Meloe coarctatus*

幼虫はハナバチ類の巣に寄生する。成虫は秋に出現し、土中で越冬し翌年の春から現れ、交尾産卵する。

マルクビチハンミョウ *Meloe corvinus*

本種もハナバチ類に寄生する。成虫は早春より初夏にかけて出現する。

メノコツチハンミョウ *Meloe menoko*

ハナバナ類の巣に寄生する。成虫は晩秋のみに見られる。

2.1.8.18.37.2.ゲンセイ亜科

キイロゲンセイ *Zonitis japonica*

低山から山地にかけて多い種で、灯火によく集まる。幼虫はオオハキリバチなどのハナバチ類の巣に寄生する。

ツماغロキゲンセイ *Zonitis cothurnata cothurnata*

平地に生息する珍しい種である。生態は前種とほぼ同様と推定されている。

2.1.8.18.38.ハナノミダマシ科

2.1.8.18.39.チビキカワムシ科

2.1.8.18.39.1.ノギリチビキカワムシ亜科

ツヤチビキカワムシ *Lissodema laevipenne*

チビキカワムシの中ではもっとも多い普通種。

クリイロチビキカワムシ *Lissodema dentatum*

コチビキカワムシ *Lissodema minutum*

フタオビチビキカワムシ *Lissodema pictipenne*

ヒトオビチビキカワムシ *Lissodema plagiatum*

県内未記録種。山地性の種と思われる。

カドムネチビキカワムシ *Lissodema validicorne*

ヒゲホソチビキカワムシ *Lissodema tomaroides*

ニホンチビキカワムシ *Lissodema japonicum*

2.1.8.18.39.2.チビキカワムシ亜科

マルムネチビキカワムシ *Sphaeriestes niponicus*

各地に多い。

2.1.8.18.39.3.ハネカクシダマシ亜科

モンシロハネカクシダマシ *Inopeplus quadrinotatus*

朽木などに見られるが、少ない種である。山地より平地に多く、しばしば灯火に飛来する。

2.1.8.18.39.4.ヒラタクチキムシ亜科

ヒラタクチキムシダマシ *Prostominia lewisi*

あまり多い種ではない。枯枝をたたくと落ちてくる。

2.1.8.18.39.5.クチキムシダマシ亜科

ヒメクチキムシダマシ *Elacatis oculaaris*

やや少ない種である。

オオクチギシダマシ *Elacatis kraatzi*

各地に普通に見られる。

2.1.8.18.40.コブゴミムシダマシ科

アトコブゴミムシダマシ *Phellopsis suberea*

県内未記録種。山地性の種で、朽木に見られる。

2.1.8.18.41.ハムシダマシ科

2.1.8.18.41.1.ハムシダマシ亜科

ニセハムシダマシ *Lagria babai*

今まで、次種と混同しており、過去の記録は再検討する必要がある。筆者の標本 20 数頭中には本種は含まれていなかったが、浜口哲一氏採集品の中に1♀があった。県新記録である。

ハムシダマシ *Lagria rufipennis*

もっとも多い普通種。

アオハムシダマシ *Arthromacra decora*

種々の花に集まる普通種である。通常、金緑色をしているが、赤味のかかったものなど変異がある。Lewis の記録は *A. viridissima* Lewis としてのもの。

ナガハムシダマシ *Macrolagria rufbrunnea*

本種も花などに集まる普通種。

クロケブカハムシダマシ *Marcolatria robustices*

県内で、初めて記録される。前種に比べてかなり少ない。

ツヤナガハムシダマシ *Macrolagria hirsuta*

県内未記録種。

2.1.8.18.41.2.チビヒサゴミムシダマシ亜科

アラメヒゲブトハムシダマシ *Luprops cribrifrons*

次種に比べてかなり少ない。成虫で越冬する。

ヒゲブトハムシダマシ *Luprops orientalis*

枯枝に普通に見られる。

2.1.8.18.42.クチキムシ科

2.1.8.18.42.1.クチキムシ亜科

オオクチキムシ *Allecula fuliginosa*

大型の種でこの仲間ではもっとも多く、各地に普通である。

ホソオオクチキムシ *Allecula cryptomeriae*

全種によく似ているが、山地性の種らしく、少ない。

ヒメオオクチキムシ *Allecula nipponica*

かなり少ない種である。

クチキムシ *Allecula melanaria*

各地に多い普通種である。

Allecula ontakenisis Maeda et Nakane, 1988

和名がなく、かなり少ない種のような。

アオバクチキムシ *Allecula aeneipennis*

ウスイロクチキムシ *Allecula simiola*

ホソアカクチキムシ *Allecula tenuis*

少ない種である。

グレイロクチキムシ *Borboresthes acicularis*

クロホシクチキムシ *Pseudocistela haagi*

同定は容易だが、かなり稀である。

フナガタクチキムシ *Lsomira oculata*

あまり多くはない。

アカバネツヤクチキムシ *Hymenalia rufipennis*

次種より少ないが、稀ではない。

クロツヤバネクチキムシ *Hymenalia unicolor*

各地に普通である。

ヨツボシヒメクチキムシ *Mycetochara collina*

かなり少ない種である。

ムネアカヒメクチキムシ *Mycetochara scutellaris*

前種によく似た種で、次のものが唯一の記録である。

2.1.8.18.43.ゴミムシダマシ科

2.1.8.18.43.1.スナゴミムシダマシ亜科

スナゴミムシダマシ *Gonocephalum japanum*

この属の種はいずれも砂地に生息するもので、海岸でも得られる。本種はこの仲間ではもっとも多い種である。

コスナゴミムシダマシ *Gonocephalum coriacerum*

河川や海岸の砂地に多い。

ヒメスナゴミムシダマシ *Gonocephalum persimile*

河原などの砂地に多い。

ホソスナゴミムシダマシ *Gonocephalum sexuale*

河川などの砂地に生息するが、多いのではない。

カクスナゴミムシダマシ *Gonocephalum recticolle*

2.1.8.18.43.2.カプトゴミムシダマシ亜科

クビカクシゴミムシダマシ *Dicraeosis bacillus*

平地に産するが、少ない種である。しばしば落葉下から得られる。

クワガタゴミムシダマシ *Atasthalomorpha dentifrons*

腐ったサルノコシカケ類によく見られる

コブスジツノゴミムシダマシ *Boletoxenus bellicosus*

本種もサルノコシカケなどのキノコに多く見られる。

ニセコブスジツノゴミムシダマシ *Boletoxenus incurvatus*

サルノコシカケ類に見られるが前種よりかなり少ない。

2.1.8.18.43.3.キノコゴミムシダマシ亜科

モンキゴミムシダマシ *Diaperis lewisi lewisi*

キノコに見られ、山地より平地に多い。

オオモンキゴミムシダマシ *Diaperis niponensis*

山地にサルノコシカケ類に見られるが、少ない種である。

フタモンツヤゴミムシダマシ *Scaphidema ornatellum*

朽木に多い普通種。

ウスモンツヤゴミムシダマシ *Scaphidema discale*

本種も山地に多く、前種よりはるかに多く見られる。

オオキメキノゴミムシダマシ *Platydema lynceum*

横浜が基準産地であるが、平地ではほとんど採集できない。どちらかと云えば少ない種である。

マルツヤキノゴミムシダマシ *Platydema kurama*

山地の枯木や朽木から得られる。

クロツヤキノゴミムシダマシ *Platydema nigroaeeneum*

本属の中では多い種で山地の朽木やキノコなどから普通に採集できる。

アオツヤキノゴミムシダマシ *Platydema marseuli*

本属の中ではもっとも普通の種で、平地に多い。

チビキノゴミムシダマシ *Platydema sylvestre*

山地に見られるが、やや少ない種である。

ツノボソキノゴミムシダマシ *Platydema recticorne*

各地に普通に産する。

ヒラツノキノゴミムシダマシ *Ischnodactylus paraleicornis*

かなり少ない種で、朽木に発生するキノコに見られる。

ヨツボシゴミムシダマシ *Basanus erotyloides*

山地の朽木に多く見られる。

ナガニジゴミムシダマシ *Ceropria induta*

平地から低山地にかけて、松の朽木などに極めて普通に見られる種である。

2.1.8.18.43.4.テントウゴミムシダマシ亜科

クロホシテントウゴミムシダマシ *Derispia maculipennis*

朽木などに見られるが、少ない。

ニセクロホシテントウゴミムシダマシ *Derispis japonicola*

前種と同様、朽木、キノコなどにも集まるが、本種の方が多。

クロテントウゴミムシダマシ *Leiochrodes convexus*

少ない種で、落葉下から発見される。

キイロテントウゴミムシダマシ *Leiochrodes masidai*

河川敷などに多いようで、洪水の時などでも得られるが、一般的には少ない。

2.1.8.18.43.5.ヒラタゴミムシダマシ亜科

ムネミヅヒラタゴミムシダマシ *Clamoris canalicollis*

堂平では、ブナなどの倒木からかなり採集できるが、他では得たことがない。

2.1.8.18.43.6.エグリゴミムシダマシ亜科

コクヌストモドキ *Tribolium castaneum*

屋内害虫だが、野外でも得られる。

ヒラタコクヌストモドキ *Tribolium confusum*

ブナの枯枝から得られたのは興味深い。

モトヨツコブゴミムシダマシ *Uloma bonzica*

以前ヨツコブゴミムシダマシと云われていた種で、松の朽木などにごく普通である。一ノ沢の記録は単にヨツコブゴミムシダマシとされていて学名がないが、本種とした。

エグリゴミムシダマシ *Uloma marseuli marseuli*

松の朽木などに極めて普通である。

ヒコサンヨツコブゴミムシダマシ *Uloma hikosana*

本属の中では少ない種である。

ガイマイゴミムシダマシ *Alphitobius diaperinus*

鶏小屋などに発生する。しばしば灯火にも来る。

クロホソゴミムシダマシ *Hypophloeus colydioides*

山地の朽木などに多い普通種。

2.1.8.18.43.7.ゴミムシダマシ亜科

ヨツノゴミムシダマシ *Toxicum tricorutum*

平地から山地にかけて、朽木などに極めて普通である。

ヒメツノゴミムシダマシ *Cryphaeus duellicus*

かなり少ない種のような。

コツヤホソゴミムシダマシ *Menepilus lucans*

あまり多くない

ルリゴミムシダマシ *Encyalesthus violaceipennis*

朽木などに見られるが、少ない種である。

オオユミアシゴミムシダマシ *Promethis insomnia*

北方系の種と思われ、次の記録だけの珍しいものである。

ヒメユミアシゴミムシダマシ *Promethis noctivigila*

本種も山地に見られ、稀なものである。

ユミアシゴミムシダマシ *Promethis valgipes*

最近、記録されたが、何故少ないのかわからない。どちらかと云うと平地に多いと思うのだが、大型の種なので、環境に弱い可能正も考えられる。

2.1.8.18.43.8.ニジゴミムシダマシ亜科

マルツヤニジゴミムシダマシ *Addia scatebrae*

山地に産するが、少ない種である。犬越路ではライトトップに飛来した。

ニジゴミムシダマシ *Tetraphyllus lunuliger lunuliger*

平地から山地にかけて、菌類、朽木などに多い。大きさにかかなりの大小がある。

ルリツヤヒメキマワリモドキ *Simalura coerulea*

平地から低山に見られるが、稀である。

クローリゴミムシダマシ *Metaclisa atrocyanea*

山地に見られるが少ないもので、次の記録しかない。

ズビロキマワリモドキ *Gnesis helopioides helopioides*

分布域が南の方にある種で、県内では海岸に近いところで、枯木や朽木から得られている。丹沢では少なく、珍しい記録である。

2.1.8.18.43.9.マルクビゴミムシダマシ亜科

Tarpela lewisi Masumoto, 1993

最近、記載された種で、箱根駒ヶ岳のものがホロタイプになっている。従来、本属は同定が難しく特に♀は分かりにくかったが、整理されて分りやすくなった。本種はかなり広範囲に分布しているものと思われる。♂は少ないが、秋に多く採れるようである。

ヒメマルネゴミムシダマシ *Tarpela elegantula*

前種に比較して少ない。枯木などから見つかる。

マルムネゴミムシダマシ *Tarpela cordicollis*

♂は同定が容易だが、個体数は少ない。

2.1.8.18.43.10.ヒサゴゴミムシダマシ亜科

ヒサゴゴミムシダマシ *Misolampidius rugipennis*

山地の朽木などに見られるが、少ない。

ツヤヒサゴゴミムシダマシ *Misolampidius okumurai*

前種よりはるかに多いが、山地のみに生息している。

2.1.8.18.43.11.キマワリ亜科

コマルキマワリ *Elixota curva*

平地から山地にかけて朽木や枯木に普通に見られる。樹皮下などで成虫越冬する。

ヒメキマワリ *Plesiophthalmus laevicollis*

かなり少ない種である。

キマワリ *Plesiophthalmus nigrocyaneus nigrocyaneus*

各地に極めて普通に見られる。越冬は幼虫で行われるようで、成虫は4~5月に出現する。

2.1.8.18.43.12.ナガキマワリ亜科

クロナガキマワリ *Strongylium noponicum*

山地の朽木などによく見られる。

ヒメナガキマワリ *Strongylium impigrum*

本種も山地の朽木や枯木に多い。

ウスイロゴミムシダマシ *Strongylium brevicorne*

あまり多くはない。

セコブナガキマワリ *Strongylium gibbosipenne*

かなり珍しい種である。

ホソヒゲナガキマワリ *Ainu tenicornis*

あまり多くはない。

2.1.8.18.43.13.スジコガシラゴミムシダマシ亜科

スジコガシラゴミムシダマシ *Heterotarus carinula*

所属が不安定で、ハムシダマシに含まれていたこともある。

2.1.8.19.ハムシ上科

2.1.8.19.1.ホソカミキリムシ科

2.1.8.19.2.カミキリムシ科

2.1.8.19.3.ハムシ科

2.1.8.19.3.1.ナガハムシ亜科

クロナガハム *Orsodacne arakii*

塔ノ岳からオバケ沢が基準産地のハムシで、山地の花に集まっている。箱根では見たことがない。

2.1.8.19.3.2.モモデトハムシ亜科

ワモンナガハムシ *Zeugophora annulata*

この属ではもっとも多く、山地のマユミに普通見られる。

ムナグムナガハムシ *Zeugophora bicolor*

あまり多くない。

クロホシモモトハムシ *Zeugophora chujoi*

全国的には極稀種に属するが、箱根、丹沢では、それほど稀ではない。マユミを食うと思われる。

オビモンナガハムシ *Zeugophora unifasciata*

マユミを食うが、少ない。

2.1.8.19.3.3.マメゾウムシ亜科

エンドウゾウムシ *Bruchus pisorum*

エンドウの害虫だが、少ない。

ソラマメゾウムシ *Bruchus rufimanus*

ソラマメの害虫で、前種とともにコスモポリタンな種類である。

サムライマメゾウムシ *Bruchidius japonicus*

従来、別種とされていたシロモンマメゾウムシ、キアシマメゾウムシは本種の同物異名。

ヤマハギなどに見られ、多くはない。

ヒゲナガマメゾウムシ *Bruchidius lautus*

草原に多く、クサフジなどに見られる。

ネムノキマメゾウムシ *Bruchidius terreus*

ニセアカシア、ネムノキに見られる。

シリアカマメゾウムシ *Bruchidius urdanus*

本種もニセアカシアの種子を食う。

チャバラマメゾウムシ *Callosobruchus ademptus*

幼虫はクズを食うという。しばしば種々の花に集まる。

2.1.8.19.3.4.ネムクイハムシ亜科

イネネクイハムシ *Donacia provostii*

湿地や池に生息し、ヒツジグサ、ジュンサイ、ヒシなどを食う。県内では少ない。

スゲハムシ *Plateumaris sericea*

本種も湿地のスゲ類見られる。

2.1.8.19.3.5.クビボソハムシ亜科

ルイスクビナガハムシ *Lilioceris lewisi*

マイヅルソウ、ナルコユリなどに見られる山地性の美麗種で、少ない。

ホソクビナガハムシ *Lilioceris parvicollis*

サルトリイバラに多い。

キイロクビナガハムシ *Lilioceris rugata*

ヤマイモの葉に多く見られる。

アカクビナガハムシ *Lilioceris subpolita*

サルトリイバラやシオデに見られるが、多くはない。

ルリクビボソハムシ *Lema cirsicola*

この仲間では多い種で、各地のアザミ類に普通に見られる。三国山付近では黒化した個体が多い。

アカクビボソハムシ *Lema diversa*

平地に多い種で、ツユクサに見られる。

スゲクビボソハムシ *Lema dilecta*

湿地など見られるが、少ない。食草はイボクサなど。

キベリクビボソハムシ *Lema adamsii*

ヤマイモの葉上に見られるが、少ない。

ヤマイモハムシ *Lema honorata*

ヤマイモに多い普通種。

トホシクビボソハムシ *Lema decempunctata*

クコの葉上に多く見られる。黒紋があるものやないものなど斑紋変化がある。

アワクビボソハムシ *Oulema dilutipes*

本種は初めキアシクビボソハムシとして記録したが、すでに訂正(1977)済み、食草はエノコムグサなど。

2.1.8.19.3.6.ナガツツハムシ亜科

ヨツボシナガツツハムシ *Clytra arida*

三国峠ではハギの仲間に多い。

キボシルリハムシ *Smaragdina aurita*

イタドリ、ハギ、ヤナギなど種々の葉上に多い。

ムナキルリツツハムシ *Smaragdina semiaurantiaca*

どちらかというと平地に多い普通種。

2.1.8.19.3.7.ツツハムシ亜科

ハギツツハムシ *Pachybrachis eruditus*

その名が示すようにハギ類に多い。

タマツツハムシ *Adiscus lewisii*

クヌギ、コナラなどに多く、クリの花にも来る。

バラルリツツハムシ *Cryptocephalus approximatus*

種々の葉上に多く、ツツハムシの中ではもっとも多い普通種。

ルリツツハムシ *Cryptocephalus aeneoblitus*

前種に極めてよく似ており、交尾器を見ないと同定は困難である。前種の中に含まれている可能性もなくはない。

ヤツボシツツハムシ *Cryptocephalus japanus*

クヌギ、コナラ、クリなど種々の葉を食う。あまり多くはない。

ツマキクロツツハムシ *Cryptocephalus difformis*

県内未記録種。稀な種である。

クロボシツツハムシ *Cryptocephalus signaticeps*

種々の葉上に多い普通種。

ヨツモンクロツツハムシ *Cryptocephalus nobilis*

各地の雑木林に見られるが少ない。

セスジツツハムシ *Cryptocephalus parvulus*

ハンノキ、シデ、ナラなどを食草とするが、多くはない。

チビルリツツハムシ *Cryptocephalus confusus*

コナラに多く見られる。

キアシチビツツハムシ *Cryptocephalus amicus*

マルバハギ、コナラなどを食草とするが、多くはない。

ハコネチビツツハムシ *Cryptocephalus hakonensis*

箱根の仙石原の標本をもとに記載された種で、その後の報告は次のものが唯一の記録。

(神・危惧種D)

タテスジキツツハムシ *Cryptocephalus nigrofasciatus*

あまり多くはない種で、食草はヤマハギ、ハシバミ、ヤナギ類。

カシワツツハムシ *Cryptocephalus scitulus*

クヌギ、ミズナラなどに多い普通種。

2.1.8.19.3.8.コブハムシ亜科

ムシクソハムシ *Chlamisus spilotus*

この仲間ではもっとも多い種で、クヌギやコナラなどに見られる。その名が示すとおり、ある種の虫の糞によく似た形態を持っている。

ハバビロコブハムシ *Chlamisus japonicus*

かなり少ない種である。

ミズキコブハムシ *Chlamisus interjectus*

その名の通りミズキに見られるが、多い種ではない。

ツツジコブハムシ *Chlamisus laticollis*

ツツジ類に普通。葉の先端によくとまっているのを観察できる。

ヒメコブハムシ *Chlamisus diminutus*

県内未記録種。

カシワコブハムシ *Chlamisus diminutus*

カシワなどに見られるが、県内では稀な種である。

2.1.8.19.3.9.ツヤハムシ亜科

ドウガネツヤハムシ *Oomorphoides cupreatus*

タラノキに普通に見られる。青色と銅色との2型がある。

アオグロツヤハムシ *Oomorphoides nigrocaeruleus*

本種もタラノキなどに見られるが、かなり少ない。

ヒメツヤハムシ *Oonorphus japanus*

前2種より一回り小さい種で、ツワブキに見られるが、少ない。

2.1.8.19.3.10.サルハムシ亜科

ウスイロサルハムシ *Basilepta pallidula*

あまり多い種ではない。食草はマツ、スギ、クヌギ、ナラなど。

チャイロサルハムシ *Basilepta balyi*

サルハムシの仲間ではもっとも多い種で、ハナノキなどに普通に見られる。色彩は変化に富み、黒くなるものがある。

アオバネサルハムシ *Basilepta jflvipes*

ヨモギに多く見られる普通種。色彩は変化に富み、青、緑、赤、黄など多彩である。

ムネアカサルハムシ *Basilepta ruficollis*

多彩は安定しており、前胸背が赤褐色を呈している。それほど多くはない。

ムナゲサルハムシ *Basilepta hirticollis*

食草はイヌツゲだが少ない種である。

ヒメキバネサルハムシ *Pagria signata*

本種も色彩、斑紋が変化に富み、全体が真っ黒なものもある。

イモサルハムシ *Colasposoma dauricum*

サチマイモ、ヒルカムオなどに見られるが、最近、少なくなった。

ドウガネサルハムシ *Scelodonta lewisii*

ノブドウなどに見られるが、少ない種である。

トビサルハムシ *Trichochrysea japana japana*

ナラ、クヌギ、クリなどに見られ、各地に多い。

クロオビカサハラハムシ *Hyperaxia fasciata*

カシワ類などに見られる普通種。

マダラアラゲサルハムシ *Demotina fasciculata*

カシ類に多く、平地に普通である。

カサハラハムシ *Demotina modesta*

キカサハラハムシ *Xanthonia placida*

あまり多くはない。

アカガネサルハムシ *Acrothinium gaschkevitchii gaschkevitchi*

金赤緑色に輝く美麗種で、ノブドウに多い。

リンゴコフキハムシ *Lypesthes ater*

ウメ、クルミ、リンゴ、ナシなどを食害する。白い粉をつけた個体も見られる。

2.1.8.19.3.11.ホソハムシ亜科

カバノキハムシ *Syneta sdamsi*

山地に普通の種である。食草はカンバ、シデ、ブナ、ナラなど。

2.1.8.19.3.12.ハムシ亜科

ヤナギルリハムシ *Plagiodera versicolora*

各種のヤナギに極めて多い。

コガタルリハムシ *Gastrophysa atrocyanea*

ギシギシに多い種で、平地に普通。

ニッコウルリハムシ *Chrysolina nikkoensis*

非常に稀で、次のものが唯一の記録。県の絶滅危惧種である。(神・危惧種D)

ヨモギハムシ *Chrysolina aurichalcea*

その名の通り、ヨモギに見られ、各地に極めて普通。青色と銅色のものがある。

ハッカハムシ *Chrysolina exanthematica*

ハッカの仲間に見られ、多くない。

ルリハムシ *Linnaeidea aenea aenea*

ハンノキ類に極めて多い普通種。通常、金緑色だが、時に赤味を帯びる個体も見られる。

ドロノキハムシ *Chrysomela populi*

県の絶滅危惧種。かつては平地にも生息していたが、最近では山地でも全く報告がない。食草はドロノキ、ヤマナラシ、ヤナギ類など。(神・危惧種F)

クルミハムシ *Gastrolina depressa*

その名の通り、クルミを食害する。

ミヤマヒラタハムシ *Gastrolina peltoidea*

ヤマハンノキなどに多く見られる。丹沢では普通だが、不思議なことに箱根では得られていない。

ズグロキハムシ *Gastrolinoides japonicus*

食草はシデ類、トサミズキ類で、あまり多くいない。

フジハムシ *Gonioctena rubripennis*

この仲間ではもっとも多い種で、各地のフジに多数見られる。

ヤツボシハムシ *Gonioctena nigrpplagiata*

エノキに見られる。色彩は変化に富んでおり、黒いものが無紋に近いものまである。

トホシハムシ *Gonioctena japonica*

山地のハンノキ類に見られる。蛭ヶ岳産は *G. sibirica* Weise として記録したが、本種であったことはすでに訂正済み。

ヒラトホシハムシ *Goniotena hiranoi*

本種も山地のハンノキ類に見られるが、やや少ない。ヤツビ峠からヒメトホシハムシとして記録したものは本種の誤りであったことはすでに訂正済み。

サクラムジハムシ *Gonicotena morinotoi*

山地のナナカマドに見られるが、少ない

2.1.8.19.3.13.ヒゲナガハムシ亜科

ズグロアラメハムシ *Lochmaea capreae*

ヤナギ類に多く見られる。丹沢では普通であるが、箱根では発見されていない。

アザミオオハムシ *Galeruca vicina*

夏から秋にかけてアザミ類の葉上に多い。

スジグロオオハムシ *Galeruca spectabilis*

珍しい種で、記録も少ない。

イチゴハムシ *Galerucella grisescens*

平地に多い種である。

イタヤハムシ *Pyrrhalta fuscipennis*

各地に多い。

エノキハムシ *Pyrhalta tibialis*

生きている時は黄白色だが、乾燥標本にすると茶褐色になる。エノキなどに見られるが、あまり多くない。

カエデハムシ *Pyrhalta seminigra*

かなり少ない種である。

アカタデハムシ *Pyrhalta semifulva*

食草はサクラ、トサミズキなどで、この仲間ではもっとも多い普通種。

ブチヒゲケブカハムシ *Pyrhalta annulicornis*

サンゴジュ、ガマズミなどに見られるが、多くはない。

サンゴジュハムシ *Pyrhalta humeralis*

本種もサンゴジュやガマズミに見られ、各地に多い。

ニレハムシ *Pyrhalta maculicollis*

ニレやケヤキを食樹とするが、それほど多くはない。

ウエツキブナハムシ *Chujoa uetsukii*

ブナを食害するというが、記録は次のものでけである。

ウリハムシ *Aulacophora nigripennis*

前種と同様、ウリ類に多い普通種。

ヨツボシハムシ *Paridea quaddriplagiata*

次種より少ないが、各地に見られる。

アトボシハムシ *Paridea angulicollis*

アマチャヅルなどに普通に見られる。各地に多い。

クロバヒゲナガハムシ *Taumacera tibialis*

少ない種である。

クワハムシ *Fleutiauxia armata*

クワやコウゾに多い普通種。

キムネアオハムシ *Cneorane elegans*

草原に見られ、ヤマハギなどを食うという。少ない種である。

キアシヒゲナガアオハムシ *Clerotilia flavomarginata*

本種もあまり多くない。

ハンノキハムシ *Agelastica coerulea*

ハンノキ、カンバに見られる普通種。

イチモンジハムシ *Morphosphaera japonica*

イヌビワ、オオイタビなどを食うというが、かなり少ない。

ケブカクロナガハムシ *Hesperomrpha hirsuta*

少ない種である。食草はヤマハンノキ。

ルリウスバハムシ *Stenoluperus cyaneus*

ヒゲナガウスバハムシ *Stenoluperus nipponensis*

フタスジヒメハムシ *Medythia nigrobilineata*

マメ類の害虫で、河川敷などでよく採れる。

クロウスバハムシ *Luperus moorii*

ムナキホソヒゲナガハムシ *Luperus laricis laricis*

ルリヒラタヒメハムシ *Calonicrus iniquus*

かなり珍しい種で、トリカブトなどを食うという。

オオルリヒメハムシ *Calomicrus nobyi*

食草はボタンヅルで、多くない。

ハラグロヒメハムシ *Calomicrus cyaneus*

ボタンヅル、センニンソウに見られ、各地に普通である。

キバラヒメハムシ *Exosoma flaviventre*

コナラやノリウツギなどを食樹とし、各地に多い。

ハラマダラヒメハムシ *Exosoma akkoe*

県内未記録種である。

ウリハムシモドキ *Atrachya mentriesi*

マメ科植物に見られ、極めて普通である。

キイロクワハムシ *Monolepta pallidula*

クワやコナラなどに多い普通種。

ホタルハムシ *Monolepta dichroa*

マメ科植物に極めて多い。

ムナグロツヤハムシ *Arthrotus niger*

色彩が極めて富んでおり、黄褐色のものから真っ黒のものまである。各地に極めて普通に見られる。

アオバノコヒゲハムシ *Sphnoraia intermedia*

各地に見られるが、多くない。

キクビアオハムシ *Agelasa nigriceps*

サルナシに普通に見られる。

ヨツキボシハムシ *Hamushia eburata*

食草はウシハコベなどで、地上を這っているものが多い。

イタドリハムシ *Gallerucida bifasciata*

その名の通り、イタドリなどに普通である

ムツキボシハムシ *Gallerucida lewisi*

やや山地性の種で、少ない。食草はユキノシタである。

ズグロアカハムシ *Gallericida flavipennis*

ノブドウに見られるが、多くはない。

2.1.8.19.3.14.ノミハムシ亜科

コカミナリハムシ *Altica viridicyanea*

アカバナトビハムシ *Altica oleracea*

オオマツヨイグサ、アカバナなどに多い普通種。

アザミカミナリハムシ *Altica cirsiicola*

アザミ類に見られる。

イチゴカミナリハムシ *Altica fragariae*

カミナリハムシ *Altica cyanea*

この属では大型の種で、チョウジタデなどに多い。

ミズタマソウカミナリハムシ *Altica circaeae*

ヒメカミナリハムシ *Altica caerulescens*

ホソルリトビハムシ *Aphthona angustata*

アケビを食草とし、各地に多い。

アラハダトビハムシ *Zipangia lewisi*

ガマズミを食うハムシで、各地に多い。

ガマズミトビハムシ *Zipangia obscura*

その名が示すようにガマズミ、ヤブウツキなどに多い普通種。

ルリチビカミナリハムシ *Ogloblinia berberii*

かなり稀な種である。

チャバネツヤハムシ *Phygasia fluvipennis*

カガイモに見られる。

フタホシオオノミハムシ *Pseudodera xanthospila*

大型のノミハムシで、サルトリイバラを食う。各地に普通。

ナガトビハムシ *Liprus punctatostriatus*

ギボウシなどに見られる。各地に多い。

カタクリハムシ *Sangariola punctatostriata*

ウバユリ、カタクリなどに見られる種で、初夏に各地に多い。

ホオノキセダカトビハムシ *Lanka magnoliae*

その名のごとくホオノキを食樹とするが、かなり少ない種である。

ヒゲナガアラハダトビハムシ *Trachyapthona sordida*

あまり多くはない。

ツブノミハムシ *Apthona perminuta*

ノミハムシの類ではもっとも多い普通種で、クリ、コナラ、ブナ、イヌシデなどを食草とす

る。

サメハダツブノミハムシ *Aphthona strigosa*

アカメガシワに普通見られる。

トケジホソトビハムシ *Luperomorpha tokejii*

基準産地が大山で、多くない。

クワノミハムシ *Luperomorpha funesta*

マメ類、カンキツ類、クワ、コゾウなどを食草とする種で、少なくない。

キアシノミハムシ *Luperomorpha tenebrosa*

マメ類、ハギ、フジなどに見られる普通種で、各地に多い。

キスジノミハムシ *Phyllotreta striolata*

アブラナ科の植物につく種で、平地では普通である。

カクムネアシナガトビハムシ *Longitarsus quadraticollis*

オオバコトビハムシ *Longitarsus scutellaris*

オオバコに多い普通種。

イヌノフグリトビハムシ *Longitarsus holsaticus*

イヌノフグリなどに見られるが、多くはない。

ヨモギトビハムシ *Longitarsus succineus*

ヨモギ類に見られ、多い。

ムラサキシキブアシナガトビハムシ *Longitarsus boraginicolus*

ケラサキシキブに見られるが、多くはない。

タツナミソウアシナガトビハムシ *Longitarsus scutellariae*

スズキアシナガトビハムシ *Longitarsus suzukii*

少ない種である。

コクロアシナガトビハムシ *Longitarsus morrisonus*

ヒゲナガルリマルノミハムシ *Hemipyxis plagioderoides*

各地に多い普通種である。

キバネマルノミハムシ *Hemipyxis flavipennis*

本種もどこでも見られる種である。

テントウノミハムシ *Argopistes biplagiatus*

イボタ、ネズミモチなどを食樹とし、各地に見られるが、多くはない。

ヒメテントウノミハムシ *Argopistes tsekooni*

イボタが食草で、前種より小さい。かなり少ない種である。

オオキイロマルノミハムシ *Argopus balyi*

ボタンヅル、センニンソウに見られ、各地に多い。

アカイロマルノミハムシ *Argopus punctipennis*

アザミに多い普通種。

クラークマルノミハムシ *Argopus clarki*

富士火山帯を中心に分布する種で多くない。

アカバナタマノミハムシ *Sphaeroderma nigricolle*

食そうはサルトリイバラやウバユリで、あまり多くない種である。

アケビタマノミハムシ *Sphaeroderma akebia*

アケビに見られるが、多くはない。

ムネアカタマノミハムシ *Sphaeroderma placidum*

ボタンヅルを食草とする種で、各地に見られる。

フキタマノミハムシ *Sphaeroderma balyi*

少ない種である。

ツマキタマノミハムシ *Sphaeroderma ap8icale*

この属ではかなり多く、同定は容易で、各地に見られる。

ヒロアシタマノミハムシ *Sphaeroderma tarsatum*

ササ類に見られる。

ヘリグロタマノミハムシ *Sphaeroderma ohkuboi*

四国から記載された珍しい種で、本州の記録は極めて少ない。

キイロタマノミハムシ *Sphaeroderma unicolor*

Ohono は *S. fuscicorne* Baly として記録した。各地に普通である。

セマルトビハムシ *Minota nigropicea*

ワラビ、ヤブソテツなどのシダ植物を食う。少ない種である。

タマアシトビハムシ *Philopona vibex*

後付節の爪が球状に膨らんでおり、奇妙な形態をしている。オオバコを食草とし、各地に見られる。

トラノオトビハムシ *Lythraria salicariae*

ミドリトビハムシ *Crepidodera japonica*

丹沢ではヤナギ類に極めて多い種だが、箱根には分布していない。

オオキイロノミハムシ *Asiolestia obscuritarsis*

カクムネトビハムシ *Asiolestia laevicollis*

サシゲトビハムシ *Lipromima minuta*

ヌルデが食草の種で、各地に見られる。

アラメクビボソトビハムシ *Pseudoliprus nigritus*

ヤマブドウ、ツタなどに見られ、山地に多い。

クビボソトビハムシ *Pseudoliprus hirtus*

前種に比して少ない。

フタイロヒサゴトビハムシ *Chaetocnema bicolorata*

ミゾソバを食草とした種で、多くはない。

ヒサゴトビハムシ *Chaetocnema ingenua*

食草はメヒシバで、各地に普通。

ヒメドウガネトビハムシ *Chaetocnema concinnicollis*

エノコログサ、メヒシバを食草とする種で少なくない。

チュウジョウナガスネトビハムシ *Psylliodes chujoe*

かなり少ない種である。

ダイコンナガスネトビハムシ *Psylliodes subrugosa*

アブラナ科を食草とし、各地に多い。

アサトビハムシ *Psylliodes attenuata*

アサ、カナムグラに見られ、各地に多い。

ナスナガスネトビハムシ *Psylliodes angusticollis*

ナス、イヌホホズキ、トマト、ジャガイモなどを食害する種で多い。

ルリマルノミハムシ *Nonarthra cyanea*

幼虫はスギゴケを食うことが判明したが、成虫は種々の花上から採集され、花を食うもの
とされている。各地に極めて普通である。

コマルノミハムシ *Nonarthra tibialis*

花上から得られるが、前種よりはるかに少ない。

2.1.8.19.3.15.トゲハムシ亜科

ヒメキベリトゲハムシ *Dactylispa angulosa*

食草はコナラ、サクラ、ウツボグサ、ヤマハッカなど多様で、各地に普通に見られる。

キベリトゲハムシ *Dactylispa masonii*

食草はフキ、ヨメナなどのキク科植物で、多くはない。

クロルリトゲハムシ *Rhadinosa nigrocyanea*

食草はススキで、葉上に止まっている。各地に普通。

2.1.8.19.3.16.カメノコハムシ亜科

ジンガサハムシ *Aspidomorpha indica*

ヒルガオなどに見られる。よく似たスキバジンガサハムシは少ない。

カメノコハムシ *Cassida nebulosa*

アカザやシロザなどに見られる。

ヒメジンガサハムシ *Cassida fusciorufa*

ヨモギに見られる普通種。

ヒメカメノコハムシ *Cassida piperata*

イノコズチやアカザにいる普通種。

アオカメノコハムシ *Cassida rubiginosa*

アザミ類に多く見られる。

セモンジンガサハムシ *Cassida versicolor*

サクラ、ナシなどを食草とし、各地に普通の種である。

コガタカメノコハムシ *Cassida vespertina*

ボタンヅルに見られ、各地に普通。

ルイスジンガサハムシ *Thlaspidia lewisii*

イボタやコバトネリコに見られるが、少ない種である。

イチモンジカメノコハムシ *Thlaspidia cribrosa*

ヤブムラサキやムラサキシキブに多い普通種。

2.1.8.20. ゾウムシ上科

2.1.8.20.1. ヒゲナガゾウムシ科

2.1.8.20.2. オトシブミ科

2.1.8.20.3. ミツギリゾウムシ科

2.1.8.20.4. ホソクチゾウムシ科

2.1.8.20.5. ゾウムシ科

2.1.8.20.6. オサゾウムシ科

2.1.8.20.7. ナガキクイムシ科

2.1.8.20.7.1. トゲナガキクイムシ亜科

ヤチダモノナガキクイムシ *Crossotarsus niponicus*

ナガキクイムシ科ではもっとも多い普通種で、種々の樹木に穿孔する。各地に多い。

チュウガタナガキクイムシ *Platypus modestus*

オニグルミ、ブナ、コナラ、トチノキなどに穿孔する。少ない種である。

シナノナガキクイムシ *Platypus severini*

クマシデ、ハンノキ、ブナ、トチノキ、ツバキなどに穿孔する。多くない。

2.1.8.20.8. キクイムシ科

2.1.8.20.8.1. キクイムシ亜科

ニレノオオキクイムシ *Scolytus esuriens*

サワグルミ、ハルニレ、オオボダイジュなどに穿孔する。多くない。

ニレノカワキクイムシ *Scolytus frontalis*

ケヤキ、カシワ、サクラなどに穿孔する。この属ではもっとも多い種である。

2.1.8.20.8.2. カワノキクイムシ亜科

ルイスオオキクイムシ *Hyorrhynchus lewisi*

ハンノキ、ブナ、カエデ、ミズキなどに穿孔するという。少ない。

ワダオオキクイムシ *Pseudohyorrhynchus wadai*

ハンノキ、ブナ、ミズキなどに見られるが、やや稀である。

ニシマキクイムシ *Sueus niisimai*

各種広葉樹に穿孔する。やや多い。

マツノスジクイムシ *Hylurgops intersitialis*

トウヒ、カラマツ、マツ属につく。

ウスイロクイムシ *Hylurgops palliatus*

針葉樹につく。少ない種である。

ヤチダモノクイムシ *Hylesinus laticollis*

ハルニレノクイムシ *Neopteleobius scutulatus*

ハルニレ、ケヤキ、カツラ、カエデ類に穿孔する種で、各地に多い。

ヒバノコクイムシ *Phloeosinus lewisi*

ヒバなどの針葉樹につく。多くない。

イズクイムシ *Phloeosinus izuensis*

筆者は神奈川県昆虫調査報告書(1981)にヒバノコクイムシと記録したが、本種であったことはすでに訂正(1995)した。前種より多い。

2.1.8.20.8.3.ザイノクイムシ亜科

クワノコクイムシ *Cryphalus exiguus*

シデノコクイムシ *Cryphalus carini*

タブノコクイムシ *Hypothenemus* sp.

各地に見られる。

クロツヤクイムシ *Trypodendron proximum*

少ない種である。

カナクギノクイムシ *Indocryphalus pubipennis*

種々の広葉樹につき、各地に見られる。

ブナノコウトマルクイムシ *Pseudopecilisps pilosus*

ブナ、イヌブナに穿孔する種で、かなり見られる。

トウヒノネノクイムシ *Dryocoetes autographus*

筆者がアトマルクイムシ *D.rugicollis* Eggers として次のものを記録したが、野淵博士に見てもらったところ、本種であった。ここに訂正する。

コガネクイムシ *Cyrtogenius luteus*

次のものはハイマツアトマルクイムシといて記録したが、本種であったことはすでに訂正(1995)済みである。各地に見られる。

ツルノコクイムシ *Pseudocosmoderes attenuatus*

ハネミジカクイムシ *Xylosandrus brevis*

広葉樹の細い枝につき、各地に多い。

ハンノキクイムシ *Xylosandrus germanus*

一般的に見られるのはすべて♀で、♂は極めて少なく、形態も全く異なる。広葉樹につき、各地に普通である。

シイノコクイムシ *Xylosandrus compactus*

広葉樹の小枝につき、微小な種だが、多い。

サククイムシ *Xylosandrus crassusculus*

各地に多い普通種

ルイスザイノクイムシ *Xyleborus lewisi*

やや大型の種で各地に普通である。

サクラノホソクイムシ *Xyleborus attenuatus*

シイノホソクイムシとして大山から記録したが、本種の誤りである。

サクセスクイムシ *Xyleborus saxeseni*

各地に多い普通種。

クワノクイムシ *Xyleborus atratus*

種々の樹木につき、各地に極めて普通に見られる。

トドマツオオクイムシ *Xyleborus validus*

トドマツばかりではなく、広葉樹にも穿孔する。この属はもっとも多い普通種である。

ツヤナシクイムシ *Xyleborus adumbratus*

大山が基準産地で、種々の樹木に穿孔する。各地に見られる。

シャウスクイムシ *Xyleborus schaufussi*

各地に普通に見られる。ブナ、クリ、ハイノキなどにつくという。

ウスキイロクイムシ *Cnestus murayamai*

シラカシノクイムシ *Accanthotomicus spinosus*

シラカシ、ウラジロカシなどに穿孔する種で、大山が基準産地である。

2.1.8.20.8.4.キザハシクイムシ亜科

ミカドクイムシ *Scolytoplatypus mikado*

クイムシの中ではもっとも多く、わかりやすい種である。種々の樹木に穿孔する。

ダイミョウクイムシ *Scolytoptytypus daimio*

各種の広葉樹につき、各地に多い。

タイコンクイムシ *Scolytoplatypus tycon*

各地にかなり見られる。

ショウグンクイムシ *Scolytoplatypus shogun*

この属ではもっとも少ない種である。

2.1.9. 歩行虫類

2.1.9.1. ハンミョウ科 *Cicindelidae*

コハンミョウ *Cicindela specularis*

ミヤマハンミョウ *Cicindela sachaliensis*

本種の記録については、産地の標高が低すぎることからその信憑性に疑いもたれている。しかし、丹沢山地の高所に分布することは十分に考えられるので、将来の再確認が望まれる。

コニワハンミョウ *Cicindela transbaicalica*

各地の砂地の河川敷に見られる。なお、大坪・久保・渡が神奈川初記録のアイヌハンミョウとして記録した個体は、本種の誤りであることが判明したので、訂正し本県のアイヌハンミョウの記録を削除する。

ニワハンミョウ *Cicindela japana* (神・減少種H)

ハンミョウ *Cicindela chinensis japonica*

2.1.9.2. カワラゴミムシ科 *Omophronidae*

カワラゴミムシ *Omophron aequalis* (神・減少種G)

2.1.9.3. オサムシ科 *Carabidae*

クロカタビロオサムシ *Calosoma maximowiczii*

ホソアカガネオサムシ *Carabus vanvolxemi*

堂平には、かつて多産していたが、1980年代半ばころから減少し、現在ではほとんどみられなくなっている。シカの食害による下草の消失などの環境変化が原因と思われる。

ルイスオサムシ *Carabus lewisianus*

主稜部など高所に多く、山麓部から中腹にかけて生息する次種クロオサムシとは垂直分布をわかつ。大山では上下の棲み分けが見られるが、中腹の一部では両種の混生も知られている。

クロオサムシ *Carabus arbrechti esakianus*

オオオサムシ *Carabus dehaanii*

搬入土砂に紛れて移入されたものと考えられ、1例の記録のみである。土着種ではなく偶産種と見なすほうが妥当であろう。

アオオサムシ *Carabus insulicola insulicola*

クロナガオサムシ *Leptocarabus procerulus*

コクロナガオサムシ *Leptocarabus arboreus fujisanus*

山稜部の森林にきわめて多い。

ホソヒメクロオサムシ *Leptocarabus harmandi tanzawaensis*

丹沢固有亜種。山稜部の森林に多い。

マイマイカブリ *Damaster blaptoides oxuroides*

クロキノカワゴミムシ *Leistus obtusicollis*

ミヤママルクビゴミムシ *Nippononebria chalceola*

サドマルクビゴミムシ *Nebria sadona*

フタモンマルクビゴミムシ *Nebria pulcherrima*

河原に見られるが少ない。(神・危惧種E)

カワチマルクビゴミムシ *Nebria lewisi*(神・減少種H)

泥質の河原に多く、水田などにも見られる。

オオマルクビゴミムシ *Nebria macrogona*(神・減少種H)

キベリマルクビゴミムシ *Nebria livida angulata*(神・危惧種E)

河原に見られる。最近はあまり多くないようである。

ミヤマメダカゴミムシ *Notiophilus impressifrons*

ナガチビヒョウタンゴミムシ *Dyschirius cheloscelis*(神・危惧種E)

ミヤマヒサゴゴミムシ *Brosocosoma doenitzi*

ホソチビゴミムシ *Perileptus japonicus*

ツヤホソチビゴミムシ *Perileptus naraensis*

ケムネチビゴミムシの1種 *Epaphiopsis* sp.

落ち葉の下などに見られる。丹沢山地全域に分布するが、これらがすべて同一種か否か分類学的に確定していない。

ヒラタキイロチビゴミムシ *Trechus ehippiatus*

タンザワメクラチビゴミムシ *Trechiana varians*

丹沢固有種。

ニシタンザワメクラチビゴミムシ *Trechiana tanzawanus*

今回の丹沢調査で発見された。前種と同様に地下浅層にみられる。丹沢固有種。

アトオビコムズギワゴミムシ *Macrotachys recurvicollis*

ウスモンコムズギワゴミムシ *Tachyura fuscicauda*

ヨツモンコムズギワゴミムシ *Tachyura laetifica*

ヒラタコムズギワゴミムシ *Tachyura exarata*

キイロマルコムズギワゴミムシ *Elaphropus latissimus*

セダカコムズギワゴミムシ *Elaphropus nipponicus*

落ち葉の下などに見られる。

クロチビカワゴミムシ *Tachyta nana*

アトモンズギワゴミムシ *Bembidion niloticum batesi*

マダラケシムズギワゴミムシ *Bembidion articuratum*

湿地に見られるが、少ない。

ガロアミズギワゴミムシ *Bembidion galloisi*

溪湖畔に多く、灯火にもよく飛来する。

オオルリミズギワゴミムシ *Bembidion amaurum*

アトキミズギワゴミムシ *Bembidion consummatum*

エチゴアオミズギワゴミムシ *Bembidion echigonum*

ツマキミズギワゴミムシ *Bembidion bandotaro*

ニセツマキミズギワゴミムシ *Bembidion semilunium*

ヨツボシミズギワゴミムシ *Bembidion morawitzi*

キモンナガミズギワゴミムシ *Bembidion scopulinum*

ヒメモンナガミズギワゴミムシ *Bembidion thermoides*

ウスモンミズギワゴミムシ *Bembidion cnemidotum*

アオミズギワゴミムシ *Bembidion chloream*

河原や休耕田などの湿地に見られるが、あまり多くはない。

キアシルリミズギワゴミムシ *Bembidion trajectory*

ニッコウミズギワゴミムシ *Bembidion misellum*

ヒラタアオミズギワゴミムシ *Bembidion pseudolucillum*

山地の溪畔に多い。

シモヤマミズギワゴミムシ *Bembidion shimoyamai**

青色の光沢が強く美しい種で、青森県の奥入瀬が基産地。岩手県にも産する。関東地方では群馬県の利根川源流部で見ついているだけ。丹沢の奥の深さを想わせる種である。

オオアオミズギワゴコムシ *Bembidion lissonotum*

クロミズギワゴミムシ *Bembidion oxyglymma*

河原の水辺に多い。

マルミズギワゴミムシ *Bembidion eurygonum*

ヒョウゴミズギワゴミムシ *Bembidion hiogoense*

ヒメスジミズギワゴミムシ *Bembidion pliculatum*

ハコネミズギワゴミムシ *Bembidion lucillum*

ニセアオマルガタミズギワゴミムシ *Bembidion shilenkovi*

ハネビロミズギワゴミムシ *Bembidion persimile*

コホソトビミズギワゴミムシ *Bembidion aeneipes*

晴天時にはよく飛ぶので捕えにくい。(神・危惧種F)

ドウイロミズギワゴミムシ *Bembidion stenoderum*

河原の砂地に多い。晴天時にはよく飛翔する。

キアシヌレチゴミムシ *Archipatrobus flavipes*

平野部の湿地に多い。

メダカチビカワゴミムシ *Asaphidion semilucidum*

ヒメカワチゴミムシ *Diplous depressus*

カワチゴミムシ *Diplous caligatus*

ムネミゾマルゴミムシ *Caelostomus picipes japonicus*

腐植植物の下に見られ、灯火にも飛来する。

ツヤムネマルゴミムシ *Oxyglyuchus laeviventris*

朽倒木の樹皮下などに見られる。

ヒラタマルゴミムシ *Cosmodiscus platynotus*

灯火に飛来するが少ない。

ムラサキオオゴミムシ *Trigonognatha coreana*

灯火に飛来することがある。

アカガネオオゴミムシ *Trigonognatha cuprescens*

ルイスオオゴミムシ *Trigonotoma lewisii*

キバナガゴミムシ *Stomis prognathus*

クリロナガゴミムシ *Pterostichus hoplites*

オオキンナガゴミムシ *Pterostichus samurai*(神・危惧種F)

トックリナガゴミムシ *Pterostichus haptoderoides japonensis*

マルガタナガゴミムシ *Pterostichus subovatus*

ヨリトモナガゴミムシ *Pterostichus yoritomus*

クロオオナガゴミムシ *Pterostichus leptis*

ミヤマクロナガゴミムシ *Pterostichus karasawai*

コガシラナガゴミムシ *Pterostichus microcephalus*

ニッコウヒメナガゴミムシ *Pterostichus polygenus*

フジヒメナガゴミムシ *Pterostichus harponifer*

タカオヒメナガゴミムシ *Pterostichus takaosanus*

ジュンサイナガゴミムシ *Pterostichus pachinus*

本種と以下13種の狭義のナガゴミムシ類は、ブナをはじめとする落葉広葉樹からなる冷温帯林に固有の種群である。通常は数種が同所的に生息し、その質・量は森林環境をよく表徴する。また、分化型種群の1つとして、その分布様態が生物地理学的見地からも注目されている。関東地方では、丹沢山地においてもっとも種類が多く多様性に富む。隣接地域との関連や類似に関しては、西川の詳述がある。

ニッコウオオズナガゴミムシ *Pterostichus macrogenys*

ヤツオオナガゴミムシ *Pterostichus mucronatus* *

ウエノオオナガゴミムシ *Pterostichus uenoi*

溪畔の石下に多い。

ハトゲナガゴミムシ *Pterostichus spiculifer ikutanii*

タナカナガゴミムシ *Pterostichus latistylis*

好湿性で、溪畔の石下や湿潤な土壤に潜む。

トケジナガゴミムシ *Pterostichus tokejii*

ムサシナガゴミムシ *Pterostichus musashiensis*

比較的標高の低い山地に生息する。

ミヤマナガゴミムシ *Pterostichus rhanis angustistylis*

丹沢山地の中央部では個体数が多く優占種になっている。

タンザワナガゴミムシ *Pterostichus watanabei*

丹沢固有種。あまり多い種ではない。奥多摩には近縁のオクタクナガゴミムシが分布する。

ミトウナガゴミムシ *Pterostichus mitoyamanus*

フジナガゴミムシ *Pterostichus fujisanus*

丹沢山地の西端部に分布する。この地域の富士山との関連をしめし、興味深い。

カタシナナガゴミムシ *Pterostichus katashinensis naganoensis*

丹沢では少ないようである。

オオアオグロヒラタゴミムシ *Anchodemus calleides*

河原に生息するが、きわめて稀。

ヤマトクロヒラタゴミムシ *Platynus subovatus*

ヨツボシヒラタゴミムシ *Platynus quadripunctatus*

朽倒木の樹皮下などに見られるが、小型で見つけにくい。

タンゴヒラタゴミムシ *Platynus leucopus*

アオグロヒラタゴミムシ *Platynus chalcomus*

オグラヒラタゴミムシ *Platynus ogurae*

平地の池畔や湿地に見られる。丹沢の記録はやや異例。(神・絶滅種A)

ツヤモリヒラタゴミムシ *Colpodes xestus*

チャイロホソモリヒラタゴミムシ *Colpodes kyushuenis*

ウスグロモリヒラタゴミムシ *Colpodes aequatus*

シラハタモリヒラタゴミムシ *Colpodes shirahatai*

少ない種である。

オオアオモリヒラタゴミムシ *Colpodes buchanani*

灯火によく飛来する。

サドモリヒラタゴミムシ *Colpodes limodromoides*

少ない種である。

ハコネモリヒラタゴミムシ *Colpodes hokonus hakonus*
アマギモリヒラタゴミムシ *Colpodes amagisanus*
ハラアカモリヒラタゴミムシ *Colpodes japonicus*
チビモリヒラタゴミムシ *Colpodes aurelius aurelius*
キンモリヒラタゴミムシ *Colpodes sylphis stichai*
ホソモリヒラタゴミムシ *Colpodes speculator*
ヤセモリヒラタゴミムシ *Colpodes elainus*
ムラサキモリヒラタゴミムシ *Colpodes integratus*
コハラアカモリヒラタゴミムシ *Colpodes lampros*
イクビモリヒラタゴミムシ *Colpodes modestior*
クビアカモリヒラタゴミムシ *Colpodes rubriolus*
クロモリヒラタゴミムシ *Colpodes atricomes*
ルリヒラタゴミムシ *Dicranoncus femoralis*
ベーツヒラタゴミムシ *Euplynes batesi*
キバナガヒラタゴミムシ *Onycholabis sinensis nakanei*

きわめて好湿性で、溪畔や滝のかたわらの湿潤な土壤中に生息している。神奈川県のほかでは静岡県に記録がある。(神・危惧種D)

ホソヒラタゴミムシ *Pristosia aeneola*
セアカヒラタゴミムシ *Dolichus halensis*
フトクチヒゲヒラタゴミムシ *Parabroscus crassipalpis*
オオクロツヤヒラタゴミムシ *Synuchus nitidus*
クロツヤヒラタゴミムシ *Synuchus cycloderus*
コクロツヤヒラタゴミムシ *Synuchus melantho*

前2種は平地に多く、本種は山地に多い。(神・減少種H)

ヒメクロツヤヒラタゴミムシ *Synuchus congruus*
シラハタクロツヤヒラタゴミムシ *Synuchus crocatus*
ヒメツヤヒラタゴミムシ *Synuchus dulcigradus*
マルガタツヤヒラタゴミムシ *Synuchus arcuaticollis*

前種と共に低地に多い種である。

ニッポンツヤヒラタゴミムシ *Synuchus agonus*
タケウチツヤヒラタゴミムシ *Synuchus takeutii*
ブリットンツヤヒラタゴミムシ *Synuchus orbicollis*

少ない種である。

ホソツヤヒラタゴミムシ *Synuchus atricolor*
山地性。

フクハラツヤヒラタゴミムシ *Synuchus fukuharai*
ミヤマツヤヒラタゴミムシ *Synuchus montanus montanus*

山地性。

タンザワツヤヒラタゴミムシ *Synuchus tanzawanus*

丹沢が基産地。山地性。

コガシラツヤヒラタゴミムシ *Synuchus angusticeps*

山地性。

シロウマホソヒラタゴミムシ *Trephionus kinositai*

マルガタゴミムシ *Amara chalcites*

ニセマルガタゴミムシ *Amara congrua*

コアオマルガタゴミムシ *Amara chalcophaea*

ヒメツヤマルガタゴミムシ *Amara nipponica*

コマルガタゴミムシ *Amara simplicidens*

ニセコマルガタゴミムシ *Amara sinuaticollis**

前種によく似ているので、これまでの記録は両者が混在している可能性がある。神奈川県新記録。

ナガマルガタゴミムシ *Amara macronota ovalipennis**

ゴミムシ *Anisodactylus signatus*

ホシボシゴミムシ *Anisodactylus punctatipennis*

オオホシボシゴミムシ *Anisodactylus sadoensis*

ヒメゴミムシ *Anisodactylus tricuspидatus*

ケゴモクムシ *Harpalus vicarius*

ウスケゴモクムシ *Harpalus griseus*

ニセケゴモクムシ *Harpalus pseudophonoides*

コゴモクムシ *Harpalus tridens*

ウスアカクロゴモクムシ *Harpalus sinicus*

クロゴモクムシ *Harpalus niigatanus*

ヒロゴモクムシ *Harpalus corporosus*

マルガタゴモクムシ *Harpalus bungii*

アカアシマルガタゴモクムシ *Harpalus tinctulus*

ハコダテゴモクムシ *Harpalus discrepans*

クビナガゴモクムシ *Oxycentrus argutoroides*

ウエノツヤゴモクムシ *Trichotichnus uenoi*

ハネグロツヤゴモクムシ *Trichotichnus lucidus*

オオイクビツヤゴモクムシ *Trichotichnus nipponicus*

ヒメツヤゴモクムシ *Trichotichnus congruus*

エゾツヤゴモクムシ *Trichotichnus septemtrionalis*

灯火に飛来することがある。

フクハラツヤゴモクムシ *Trichotichnus fukuharai*

少ない種である。

キュウシュウツヤゴモクムシ *Trichotichnus vespertinus*(神・減少種H)

クビアカツヤゴモクムシ *Trichotichnus longitarsis*

ツヤゴモクムシ *Trichotichnus leptopus*

森林の石下などに見られる。丹沢産は箱根産と同様に大型である。

ハコネツヤゴモクムシ *Trichotichnus yukihikoi*

クロヒメゴモクムシ *Bradycellus anchomenoides*

コクロヒメゴモクムシ *Bradycellus subditus*

ルイスヒメゴモクムシ *Bradycellus lewisi*

山地性であり多くない。

マルヒメゴモクムシ *Bradycellus fimbriatus*

キイロチビゴモクムシ *Acupalpus inornatus*

ムネアカマメゴモクムシ *Stenolophus propinquus*

ツヤマメゴモクムシ *Stenolophus iridicolor*

ナガマメゴモクムシ *Stenolophus agonoides*

クロサマメゴモクムシ *Stenolophus kurosai*

少ない種である。(神・減少種H)

マメゴモクムシ *Stenolophus fulvicornis*

カラサワマメゴモクムシ *Stenolophus karasawai*

キベリゴモクムシ *Anoplogenus cyanescens*

クロズカタキバゴミムシ *Badister nigriceps*(神・減少種H)

チビカタキバゴミムシ *Badister nakayamai*

ニッポンヨツボシゴミムシ *Dischissus japonicus*

スジアオゴミムシ *Haplochlaenius costiger*

オオキベリアオゴミムシ *Epomis nigricans*

クロヒゲアオゴミムシ *Chlaenius ocreatus*

溪畔の石下に見られる。

ムナビロアオゴミムシ *Chlaenius sericimicans*

コキベリアオゴミムシ *Chlaenius circumdatus*

アオゴミムシ *Chlaenius pallipes*

アカガネアオゴミムシ *Chlaenius abstersus*(神・減少種H)

アトワアオゴミムシ *Chlaenius virgulifer*
オオアトボシアオゴミムシ *Chlaenius micans*
アトボシアオゴミムシ *Chlaenius naeviger*
キベリアオゴミムシ *Chlaenius circumductus*
ヒメキベリアオゴミムシ *Chlaenius inops*
ノグチアオゴミムシ *Lithochlaenius noguchii*

石礫質の河原に多い。

オオヒラタトックリゴミムシ *Oodes virens*
灯火に飛来することがあるが少ない。(神・危惧種D)

ヤマトトックリゴミムシ *Lachnocrepis japonica*
カタボシホナシゴミムシ *Perigona acupalpoides*
ホソホナシゴミムシ *Perigona sinuata*

少ない種である。

クロボシホナシゴミムシ *Perigona plagiata*

少ない。

クロズホナシゴミムシ *Perigona nigriceps*
ダイミョウツブゴミムシ *Pentagonica daimiella*
カドツブゴミムシ *Pentagonica angulosa*
トゲアトキリゴミムシ *Aephnidius adelioides*

暖地性の種で、沿海部に多い。

ダイミョウアトキリゴミムシ *Cymindis daimio*(神・減少種H)

ハギキノコゴミムシ *Coptodera subapicalis*
コヨツボシアトキリゴミムシ *Dolichoctis striatus*
ヤセアトキリゴミムシ *Dolichoctis luctuosus*
ヤホシゴミムシ *Lebidia octoguttata*
フタツメゴミムシ *Lebidia bioculata*

クロヘリアトキリゴミムシ *Parena nigrolineata nipponensis*

アオヘリアトキリゴミムシ *Parena latecincta*

ミツアナアトキリゴミムシ *Parena tripunctata*

ヒラタアトキリゴミムシ *Parena cavipennis*

オオヒラタアトキリゴミムシ *Parena laesipennis*

クロズジュウジアトキリゴミムシ *Lebia cruxminor*

高原の草花の上に来ていることが多い。

ハネビロアトキリゴミムシ *Lebia duplex*

エゾハネビロアトキリゴミムシ *Lebia fusca*

アトグロジュウジアトキリゴミムシ *Lebia idae*
ミヤマジュウジアトキリゴミムシ *Lebia sylvarum*
ジュウジアトキリゴミムシ *Lebia retrofasciata*
フタホシアトキリゴミムシ *Lebia bifenestrata*
ホシハネビロアトキリゴミムシ *Lebia calycophora*
コルリアトキリゴミムシ *Lebia viridis*

北米原産の移入種。近年になって関東地方を中心に分布域を拡げ、福島県と長野県でも記録された。移入の要因は、家畜の飼料として北米からの輸入が急増している乾草の随伴が考えられる。平野部の草地に多く見られるが、丹沢山地への進入は興味深い。

キクビアオアトキリゴミムシ *Lachnolebia cribricollis*
ミズギワアトキリゴミムシ *Demetrias marginicollis* (神・減少種H)
イクビホソアトキリゴミムシ *Dromius quadraticollis*
キタホソアトキリゴミムシ *Dromius nipponicus*

少ない。

フトヒゲアトキリゴミムシ *Dromius crassipalpis*

少ない。

エゾホソアトキリゴミムシ *Dromius matsudai**

少ない。関東地方では千葉県に記録がある。神奈川県新記録。

ホソアトキリゴミムシ *Dromius prolixus*

ベーツホソアトキリゴミムシ *Dromius batesi*

フタホシヒラタゴミムシ *Planetes puncticeps*

暖地性で平野部の丘陵地などに多い。

アオヘリホソゴミムシ *Drypta japonica*

平地に多い。

オオアオホソゴミムシ *Desera geniculata*

南方系の種で、沿海部に多い。丹沢の温暖な気候特性の一面を示す種とみることができよう。(神・絶滅種B)

2.2.クビボソゴミムシ科 *Brachindae*

ミイデラゴミムシ *pheropsophus jessoensis*

山麓部の水田・畑地などを精査すれば記録が増えるだろう。

コホソクビゴミムシ *Brachinus stenoderus*

石礫質の河原に普通に見られる。

2.2.1.ハネカクシ科

2.2.1.1.ハネカクシ科 *Staphylinidae*

2.2.1.1.1.チビハネカクシ亜科 *Micropeplinae*

セスジチビハネカクシ *Micropeplus fulvus japonicus*

本種は複眼内縁中央から頭頂に向かう顕著な横隆線の有ることや雄交尾器側片は不対称であるなどで丹沢産の他種とは容易に識別できる。北海道と九州からの記録はあったのだが、本州からは知られていなかった。本州新記録。

ヒメセスジチビハネカクシ *Micropeplus yasutoshii*

2.2.1.1.2.ヒラタハネカクシ亜科 *Piestinae*

オサシデムシモドキ *Apatetica princeps*

シラオビシデムシモドキ *Nodynus leucofasciatus*

ヒメヒラタハネカクシ *Siagonium debile*

ホソヒラタハネカクシ *Siagonium gracile*

ニセヒラタハネカクシ *Siagonium haroldi*

今まで、ヒラタハネカクシ *Siagonium vittatum* と混同されていた。ニセヒラタハネカクシは本州、四国、九州に、ヒラタハネカクシは今のところ北海道だけから知られている。

セミゾヒラタハネカクシ *Siagonium nobile*

オオヒラタハネカクシ *Piestoneus lewisii*

コチビホソハネカクシ *Lispinus aper*

二本杉峠。

オオウスバハネカクシ *Eleusis coarctata*

クロツヤハネカクシ *Priochirus japonicus*

大分県経読岳、岡山県金山、福井県鷺鞍岳、神奈川県堂平からの標本をもとに記載された種。丹沢は現在この種の分布東北限である。クロツヤハネカクシとは本種はより小型で体色は暗褐色、細長い触角、頭部前端の歯状突起を欠くなどの点で区別される。

2.2.1.1.3.ハバヒロハネカクシ亜科 *Proteininae*

チビハバヒロハネカクシ *Proteinus crassicornis*

セマルハバヒロハネカクシ *Megarthus convexus*

従来、県内からも記録のあったカパイロハバヒロハネカクシ *M. heterops* は本種の同物異名となった。

ハバヒロハネカクシ *Megarthus japonicus*

クロモンハバヒロハネカクシ *Megarthus scriptus*

県内からも記録のあった *M. subparallelus* は本種の同物異名となった。

2.2.1.1.4.ヨツメハネカクシ亜科 *Omaliinae*

キイロツヤシデムシモドキ *Camioleum loripes*

セミゾヨツメハネカクシ *Omalium japonicum*

ムナクボヨツメハネカクシ *Omalium nipponensis*

模式産地の御岳では落葉下から採集されたが、札掛ではタヌキの糞の下から得られた。

ヘリトゲヨツメハネカクシ *Pycnoglypta denticollis*

アロウヨツメハネカクシ *Olophrum arrowi*

従来、*Omalium curtellum*とされていた種。

ムモンヨツメハネカクシ *Lesteva crassipes*

フタモンヨツメハネカクシ *Lesteva fenestrata*

ネアカヨツメハネカクシ *Lesteva plagiata*

キイロハナムグリハネカクシ *Eusphalerum parallelum*

ハナムグリハネカクシ *Eusphalerum pollens*

クロモンシデムシモドキ *Trigonodemus lebioides*

キバネヨツメハネカクシ *Orochares debilis*

*Amphichroum*属とされていた種。*Orochares japonica* Cameronは本種の同物異名となった。

クロミズギワヨツメハネカクシ *Psephidonus caliginosus*

カタホソハネカクシ *Philydrodes aquatilis*

シリプトヨツメハネカクシ *Eudectus rufulus*

ムネボソヨツメハネカクシ *Boreaphilus japonicus*

2.2.1.1.5. セスジハネカクシ亜科 *Oxytelinae*

ハラビロハネカクシ *Deleaster yokoyamai*

セミゾキノカワハネカクシ *Coprophilus impressus*

キノカワハネカクシ *Coprophilus simplex*

枯れ枝のピーティングで得られることが多い。

ヒゲナガヨコセミゾハネカクシ *Ochtheophilus japonicus*

ツヤヨコセミゾハネカクシ *Ochtheophilus laevis*

ナミヨコセミゾハネカクシ *Ochtheophilus vulgaris*

この属のものは水の上に浮くと腹部を上に向けて、船の帆のように風を受けて岸にたどりつくような行動が見られる。

ヤマトニセユミセミゾハネカクシ *Thinodromus japonicus*

クロヒメカワベハネカクシ *Platystethus operosus*

アバタセスジハネカクシ *Anotylus antennarius*

セスジハネカクシ *Anotylus cognatus*

イブシセスジハネカクシ *Anotylus funebris*

ヒラタセスジハネカクシ *Anotylus japonicus*

ヒメクロセスジハネカクシ *Anotylus laticornis*
チビクロセスジハネカクシ *Anotylus latiusculus*
ルイスセスジハネカクシ *Anotylus lewisius*

2.2.1.1.6. ツツハネカクシ亜科 *Osoriinae*

フトツツシハネカクシ *Osorius angustulus*
ツノフトツツハネカクシ *Osorius taurus*

2.2.1.1.7. オオキバハネカクシ亜科 *Oxyporinae*

ヒメオオキバハネカクシ *Oxyporus basicornis*
オオキバハネカクシ *Oxyporus japonicus*
アカバオオキバハネカクシ *Oxyporus maculiventris*
オオズオオキバハネカクシ *Oxyporus parvus*
ムネアカオオキバハネカクシ *Oxyporus rufus osawai*

この属のものは、キノコ類に集まるが、本種は路傍の葉上から採集した。

ハソビオオキバハネカクシ *Oxyporus triangulum*
ヨコモオオキバハネカクシ *Pseudoxyporus hoplites**
カタモンオオキバハネカクシ *Pseudoxyporus humeralis*
アシナガオオキバハネカクシ *Pseudoxyporus longipes*

2.2.1.1.8. メダカハネカクシ亜科 *Steninae*

ホソフタホシメダカハネカクシ *Stenus alienus*
スジグロメダカハネカクシ *Stenus anthracinus*
アシュラメダカハネカクシ *Stenus asyura*

従来、トビイロメダカハネカクシ *Stenus rufescens* とされていた種。松田(平野, 1981)の記録も本種と思われる。

アシマダラメダカハネカクシ *Stenus cicindeloides*
ツヤホソメダカハネカクシ *Stenus currax*
ズグロメダカハネカクシ *Stenus flavidulus*
コバネメダカハネカクシ *Stenus indubius*
ナガメダカハネカクシ *Stenus kobensis*
ルイスメダカハネカクシ *Stenus lewisius*
ドウボソメダカハネカクシ *Stenus macies*
コクロメダカハネカクシ *Stenus melanarius verecundus*
カラカネツヤメダカハネカクシ *Stenus mercator*
キアシホソメダカハネカクシ *Stenus rugipennis*
ナガコクロメダカハネカクシ *Stenus sexualis**
チンメルマンメダカハネカクシ *Stenus zimmermani*

オオヒョウタンメダカハネカクシ *Dianous shibatai*

2.2.1.1.9.チビフトハネカクシ亜科 *Euaesthetinae*

スジツヤチビハネカクシ *Edaphus carinicolis*

2.2.1.1.10.アリガタハネカクシ亜科 *Paederinae*

ルイスクビフトハネカクシ *Pinophilus lewisius*

アオバアリガタハネカクシ *Paederus fuscipes*

エゾアリガタハネカクシ *Paederus parallelus*

コアリガタハネカクシ *Megalopaederus lewisi*

富士山の東から北側(本栖湖、精進湖、西湖、河口湖)そして大菩薩峠周辺には極めて外形の酷似した *M. kurosawai* が分布している。両者の分布境界線は伊豆半島、箱根、富士山の東側を通り山中湖、大月、そして奥多摩を結ぶところにある。丹沢・大山はこの境界線の東側に位置し、コアリガタハネカクシ分布圏内にある。丹沢各地から採集された標本はすべてコアリガタハネカクシであった。中村(1964)により菩提からアリガタハネカクシ *Paedeas powerit* が記録されているが、当時はアリガタとコアリガタの区別点などもはっきりせず混同されていた。その後、この属には *M. wadai* と *M. kurosawai* の2種が加わり4種になった。アリガタハネカクシは紀伊半島に生息している。従って、中村のアリガタはコアリガタと考えられるため分布記録からは削除した。

ヒメアバタコバネハネカクシ *Nazeris optatus*

アバタコバネハネカクシ *Nazeris wollastoni*

タチゲクビボソハネカクシ *Stilicopsis setigera*

オオシリグロハネカクシ *Astenus suffusus*

オオクビボソハネカクシ *Stilicoderus signatus*

ヤマトクビボソハネカクシ *Stilicoderus japonicus*

ハネナガクビボソハネカクシ *Rugilus longipennis*

クビボソハネカクシ *Rugilus rufescens*

アカアシトガリハネカクシ *Medon discedens*

ネアカトガリハネカクシ *Medon lewisius*

チャバネトガリハネカクシ *Medon spadiceus*

ヨコモントガリハネカクシ *Medon submaculatus*

ミゾトガリハネカクシ *Medon sulcifrons*

チビトガリハネカクシ *Sunius debilicornis*

クロズトガリハネカクシ *Lithocharis nigriceps*

クロニセトガリハネカクシ *Achenomorphus lithocharoides*

ヒメクビボソハネカクシ *Scopaeus currax*

チビクビボソハネカクシ *Scopaeus virillis*

オオマルズハネカクシ *Domene crassicornis*
コマルズハネカクシ *Domene curtipennis*
ヒメコバナナガハネカクシ *Lathrobium brachypterum*
ヒゲブトナガハネカクシ *Lathrobium monilicorne*
チビコバナナガハネカクシ *Lathrobium monticola*
コバナナガハネカクシ *Lathrobium pollens*
キモンナガハネカクシ *Lobrathium cribricolle*
サキアカバナナガハネカクシ *Lobrathium partutum*
ヨシダナガハネカクシ *Lobrathium yoshidai*

2.2.1.1.11. ナガハネカクシ亜科 *Xantholininae*

ズナガホソクビハネカクシ *Zeteotomus maximus*
ツマキツヤナガハネカクシ *Nudobius apicipennis*
チャイロホソムネハネカクシ *Stenistoderus nothus*
ムネスジナガハネカクシ *Xantholinus cunctator*
クロバナナガハネカクシ *Xantholinus pleuralis*
キバナナガハネカクシ *Xantholinus suffusus*
ホソガタナガハネカクシ *Xantholinus tubulus*
ウスイロホソナガハネカクシ *Xestolinus pauper*

山地の石の下などから採集されることが多い。

アカバホソハネカクシ *Othius rufipennis*
コガシラホソハネカクシ *Diochus japonicus*

2.2.1.1.12. ハネカクシ亜科 *Staphylininae*

アカバヒメホソハネカクシ *Noebisnius pumilus*
チャイロキヌコガシラハネカクシ *Philonthus azabuensis*
ルリコガシラハネカクシ *Philonthus cyanipennis*
ヒラタカクコガシラハネカクシ *Philonthus depressipennis*
チビカクコガシラハネカクシ *Philonthus discoideus*
チャバネコガシラハネカクシ *Philonthus gastralis*
クロコガシラハネカクシ *Philonthus japonicus*
フタイロコガシラハネカクシ *Philonthus kobensis*
オオドウガネコガシラハネカクシ *Philonthus lewisius*
ヒゲナガコガシラハネカクシ *Philonthus longicornis*
アカヒラタコガシラハネカクシ *Philonthus macrocephalus*
トゲツメコガシラハネカクシ *Philonthus nakanei**
ムネスジコガシラハネカクシ *Philonthus rutiliventris*

キヌコガシラハネカクシ *Philonthus sericans*

ヘリアカバコガシラハネカクシ *Philonthus solidus*

平野により札幌から*P. tardus*として記録された種は本種に該当するものと思われる。

ヒラタコガシラハネカクシ *Philonthus spadiceus*

オオアカバコガシラハネカクシ *Philonthus spinipes*

ヒメホソコガシラハネカクシ *Philonthus wuesthoffi*

クロスジコガシラハネカクシ *Philonthus virgatus**

ホソチャバネコガシラハネカクシ *Rabigus brunnicollis*

チャイロコガシラハネカクシ *Bisnius germanus*

本種と次の種は、従来*Philonthus*属として扱われていた種。

オオズコガシラハネカクシ *Bisnius parvus*

ヤマトホソコガシラハネカクシ *Gabrius japonicus*

コバヤシホソコガシラハネカクシ *Gabrius kobayashii*

オオホソコガシラハネカクシ *Gabrius schillhammeri*

*G. multipunctatus*とされていた種だが、異物同名により種名が変更された。

シャープホソコガシラハネカクシ *Gabrius sharpianus*

ヤマネホソコガシラハネカクシ *Gabrius yamanei*

京都、山梨、愛媛からしられていたが丹沢にも分布することが判明した。他に箱根からの1個体を検している。タイプシリーズはベイトトラップ(ベンジールアセテート、バナナ)で採集された。

ツマグロアカバハネカクシ *Hesperus tiro*

アカバハネカクシ *Platydracus paganus*

ヒメクロハネカクシ *Ocypus brevicornis*

サビイロモンキハネカクシ *Ocypus dorsalis*

今回の調査でこの属のものが2頭採集されたが、両標本とも雄個体であるので正確な種名は特定できなかった。

チビドウガネハネカクシ *Ocypus parvulus*

サビハネカクシ *Ontholestes gracilis*

オオズハイイロハネカクシ *Philetaerius elegans*

クロクサアリの行列や巣の近くで採集される。

ヒトビハイイロハネカクシ *Phytolinus monticola**

富士山が模式産地だが、その外に広河原、上高地の記録がある。今回は4番目の産地である。同属のキオビハイイロハネカクシに良く似るが、本種の上翅は黒色で雄交尾器側片は短くて先端は裁断されることにより区別できる。この属の成虫は山地の花上や葉上でそこに飛来する小昆虫を待ち伏せして捕食しているが、菰釣山の個体は灌木のピーティ

ングにより採集された。

ハイロハネカクシ *Eucibdelus japonicus*
ツヤケシブチヒゲハネカクシ *Anisolinus elegans*
カタモンブチヒゲハネカクシ *Anisolinus picticornis*
ズマルハネカクシ *Amichrotus apicipennis*
オオハネカクシ *Creopilus maxillosus*
オオアカバハネカクシ *Agelosus carinatus*

落葉下、石の下、道路の側溝、歩行中などの採集例が多いが、オサムシトラップで採れることもある。長野県美ヶ原では側溝中でコガネムシの服部を食べている個体を採集したこともある。

カクツヤケシアバタハネカクシ *Tympanophorus sauteri**

箱根芦之湯や神山からはツヤケシアバタハネカクシが採れているが丹沢からは採集されていない。札幌では落葉下、日陰沢では石の下から採集した。

アバタツヤムネハネカクシ *Rientis parviceps*

ムネビロハネカクシ *Algon grandicollis*

コクシヒゲハネカクシ *Velleius setosus*

オオスズメバチの巣中、とくに秋の巣では多数の幼虫が巣の底部で見つかっている。バナナトラップでも採集されているが、今回のものはカエデ類の樹液に飛来したもの。

チャイロツヤムネハネカクシ *Quedius adustus*

山地の道路傍の葉の上を歩行中の個体が多く見られる。

クロスジツヤムネハネカクシ *Quedius annectens*

トゲアシツヤムネハネカクシ *Quedius armipes**

後腿節後縁は中央部が耳たぶ状に伸長し、太くて長い刺毛列をもつ。体は扁平で倒木の樹皮下に住む。個体数は少ない。

アカバツヤムネハネカクシ *Quedius japonicus*

ミドリオオメハネカクシ *Quedius multipunctatus*

体全体が緑色光沢をもつ種で山地の倒木に生えた蘇類の下などから採集されるが、個体数は少ない。

イブシツヤムネハネカクシ *Quedius samuraicus*

トゲアシツヤムネハネカクシと同様に後腿節後縁に刺毛列をもつが、耳たぶ状の部分はなく刺毛も短く細い。

ヤマトオオメハネカクシ *Indoquedius juno*

アカアシオオメハネカクシ *Indoquedius praeditus*

2.2.1.1.13.シリボソハネカクシ亜科 *Tachyporinae*

ヒゲナガミズギワハネカクシ *Derops longicornis*

ヤマトイクビハネカクシ *Mycetoporus discoidalis*

アカイクビハネカクシ *Bryoporus gracilis*

ハラグロキノコハネカクシ *Lordithon bicolor*

ウスモンキノコハネカクシ *Lordithon brevipes*

ダイミョウキノコハネカクシ *Lordithon daimio*

この属には大型で頭部が極めて細長い美麗種が2種いるが本種はそのうちの1種。個体数は少ない。

ハスオビキノコハネカクシ *Lordithon irregularis*

チビクロモンキノコハネカクシ *Lordithon niponensis*

ハラオビキノコハネカクシ *Lordithon principalis*

クロモンキノコハネカクシ *Lordithon semirufus*

ハネスジキノコハネカクシ *Carphacis striatus*

チャバネキノコハネカクシ *Bolitobius princeps*

アカチャキノコハネカクシ *Bolitobius prolongatus*

カタモンキノコハネカクシ *Bolitobius setiger*

クログヒメキノコハネカクシ *Sepedophilus armatus*

フタモンヒメキノコハネカクシ *Sepedophilus bipustulatus*

オオヒメキノコハネカクシ *Sepedophilus fimbriatus*

ムクゲヒメキノコハネカクシ *Sepedophilus germanus*

ハスモンヒメキノコハネカクシ *Sepedophilus pumilus*

ヒメキノコハネカクシ *Sepedophilus tibialis*

クロヒメキノコハネカクシ *Sepedophilus varicornis*

クロズシリホソハネカクシ *Tachyporus celatus*

キベリシリホソハネカクシ *Tachyporus orthogrammus*

ツヤグロシリホソハネカクシ *Tachyporus suavis*

コクロマルクビハネカクシ *Tachinus diminutus*

ヤマトマルクビハネカクシ *Tachinus japonicus*

本種は近畿地方から四国、九州にかけて分布するが、li(1995)の論文に丹沢札掛の1♀の記録がある。奈良県の春日山や荒神山それに広島県の帝釈峡ではヤマトマルクビハネカクシと本種が共に見つかっているが、今回の調査ではすべてヤマトマルクビハネカクシだけで本種を発見することが出来なかった。

キベリマルクビハネカクシ *Tachinus mimulus*

ヒゲトマルクビハネカクシ *Tachinus nakanei*

クロズマルクビハネカクシ *Tachinus nigriceps*

クロツヤマルクビハネカクシ *Tachinus punctiventris*

アカバマルクビハネカクシ *Tachinus sharpi*
カタアカマルクビハネカクシ *Tachinus sibiricus*
ネアカマルクビハネカクシ *Tachinus trifidus*
クロヒゲナガマルクビハネカクシ *Nitidotachinus adachii*

2.2.1.1.14. ヒゲフトハネカクシ亜科 *Aleocharinae*

ツヤケシシワチビハネカクシ *Silusa rugosa*
ウスチャセミゾハネカクシ *Falagria japonica**
キバネセミゾハネカクシ *Falagria sapida*
ヒゲフトアリノスハネカクシ *Zyras cylindricornis**
モンクロアリノスハネカクシ *Zyras optatus*
クビアカアリノスハネカクシ *Zyras pictus*
ツヤゴミハネカクシ *Oxypoda luridipennis*
ナカアカヒゲフトハネカクシ *Aleochara curtula*
ヒゲフトハネカクシ *Aleochara lata*

2.2.2. シデムシ類とコガネムシ上科

2.2.2.1. ハネカクシ上科 *Superfamily Staphylinoidea*

2.2.2.1.1. ツヤシデムシ科 *Family Agyrtidae*

従来は、シデムシ科の1亜科とされていたが、近年の研究によりハネカクシ上科のチビシデムシに近い一群として独立科とされている。関東山地に産するアカツヤシデムシは分布していない可能性が高い。

ムナグロホソツヤシデムシ *Apteroloma discicolle*

新たに建設された林道の側溝に数年間は多い。

オオシデムシ *Pelaines striatipennis*

2.2.2.2. ヒゲフトチビシデムシ科 *Family Colonidae*

生態的には未知の部分が多い甲虫である。夕刻の草原でのスイーピングなどで得られる。

ヤマトヒゲフトチビシデムシ *Colon japonicum*

未記載種と思われる。

2.2.2.3. チビシデムシ科 *Family Cholevidae*

近年はタマキノコムシ科の1亜科とされることもあるが、ここでは独立科として扱った。生態的には、主に腐敗動物質に依存する分解者であるが、生息場所は、地中性・洞窟性・地表性・樹洞性と比較的多様である。今回の調査では、ホソアシチビシデムシが本州から再発見された。標本を恵与された益本仁雄博士、安部光典氏に御礼申し上げる。

2.2.2.3.1. クリバネチビシデムシ亜科 *Subfamily Nemadinae*

クリバネチビシデムシ *Micronemadus pusillimus*

タンザワヒメチビシデムシ *Nemadus asagi*

堂平と札掛が基準産地。

イシハラヒメチビシテムシ *Nemadus ishiharai*

2.2.2.3.2.ニセチビシテムシ亜科 *Subfamily Ptomaphaginae*

ハギニセチビシテムシ *Ptomaphagus kuntzeni*

2.2.2.3.3.ホソアシチビシテムシ亜科 *Subfamily Anemadinae*

ホソアシチビシテムシ *Cholevodes tenuitarsis*

65年振りに本調査で本州から再発見され、樹皮下や樹洞内に生息するという、チビシテムシとしては特異な生態も判明した。

2.2.2.3.4.チビシテムシ亜科 *Subfamily Catopinae*

クシヒゲチビシテムシ *Catopodes fuscifrons*

ルイスチビシテムシ *Catops angustitarsis lewisi*

ヒレルチビシテムシ *Catops hilleri*

コクロチビシテムシ *Catops miensis*

ミヤマチビシテムシ *Catops sparsepunctatus*

トガリバチビシテムシ *Catops spinipennis*

アカアシチビシテムシの近縁種で未記載と思われる。

ホソムネコチビシテムシ *Mesocatops japonicus*

オオクロチビシテムシ *Prinochaeta harmandi*

夏季の尾根筋では、次種とともに優占種となる。

カバイロコチビシテムシ *Sciodrepoides fumatus*

キョウトコチビシテムシ *Sciodrepoides tsukamotoi*

2.2.2.3.5.シテムシ科 *Family Silphidae*

シテムシ科の甲虫は、比較的大型で、2亜科それぞれ同形的な一群である。生態的には分解者として知られ、環境指標種として使用されることもある。今回の調査では、草原性と思われるヤマトモンシテムシを除き記録のあるものはすべて得られた。また高地帯においてヒロオビモンシテムシ、ヒメクロシテムシの生息が期待されたが、得られなかった。分布していない可能性が高い。動物地理学的に重要なものとして、冷温帯林に生息するホソヒラタシテムシが上げられる。本州各地域の個体群の分類学的な検討が行われていないため、暫定的に丹沢型・富士山型として記録したが、丹沢山地の東部と西部に、両型が異所的に分布することがわかった。両者の間には空白地帯が存在する。

2.2.2.3.6.ヒラタシテムシ亜科 *Subfamily Silphinae*

ヨツボンヒラタシテムシ *Dendroxena sexcarinata*

ベッコウヒラタシテムシ *Eusilpha brunneicollis*

オオヒラタシテムシ *Eusilpha japonica*

クロボンヒラタシテムシ *Oiceoptoma nigropunctatum*

カバイロヒラタシデムシ *Oiceoptoma subrufum*

上翅の色彩に2型ある。

ホソヒラタシデムシ *Silpha longicornis*

神奈川県立博物館(1972)が記録したヒラタシデムシは本種のことと思われるが、標本を検するまで保留しておく。

ヒメヒラタシデムシ *Thanatophilus sinuatus*

オオモモトシデムシ *Nicrodesa siaticus*

モモトシデムシ *Nicrodes nigricornis*

2.2.2.3.7.モンシデムシ亜科 **Subfamily Nicrophorinae**

クロシデムシ *Nicrophorus concolor*

ヤマトモンシデムシ *Nicrophorus japonicus*(神・危惧種F)

マエモンシデムシ *Nicrophorus maculifrons*

ヒメモンシデムシ *Nicrophorus montivagus*

ヨツボシモンシデムシ *Nicrophorus quadripunctatus*

コクロシデムシ *Ptomascopus morio*

2.3.コガネムシ上科 **Superfamily Scarabaeoidea**

2.3.1.クワガタムシ科 **Family Lucanidae**

ファミリアな群で報告も多い。なかでも丹沢山地を含む本州中南部は、ルリクワガタ属の日本産4種の内3種が生息する地域となっている。

2.3.2.マダラクワガタ亜科 **Subfamily Aesalinae**

マダラクワガタ *Aesalus asiaticus*

2.3.3.ツヤハダクワガタ亜科 **Subfamilie Ceruchinae**

ミヤマツヤハダクワガタ *Ceruchus lignarius monticola*

2.3.4.クワガタムシ亜科 **Subfamilie Lucaninae**

ミヤマクワガタ *Lucanus maculifemoratus*

コクワガタ *Macrodorcas rectus*

スジクワガタ *Macrodorcas striatipennis*

ヒメオオクワガタ *Nipponodorcus montivagus*

アカアシクワガタ *Nipponodorcus rubrofemoratus*

コルリクワガタ *Platycerus acuticollis*

ルリクワガタ *Platycerus delicatulus*

ホソツヤルリクワガタ *Platycerus kawadai*

丹沢山地が基準産地の1つである。

オニクワガタ *Prismognathus angularis*

ノギリクワガタ *Prosopocoilus inclinatus*

ヒラタクワガタ *Serrognathus platymelus pilifer*

2.3.5. コブスジコガネ科 Family Trogidae

神奈川県からは4種が記録されているが、丹沢山地から記録されているのは下記の1種である。

ヒメコブスジコガネ *Trox opacotubercuulatus*

2.3.6. センチコガネ科 Family Geotrupidae

神奈川県からは4種が記録されているが、本調査で丹沢山地から記録されたのは従来通り下記の3種である。

ムネアカセンチコガネ *Bolbocerosoma nigroplagiatum* (神・減少種H)

オオセンチコガネ *Geotrupes auratus*

センチコガネ *Geotrupes laevistriatus*

2.3.7. コガネムシ科 Family Scerabaeidae

ヒゲブトハナムグリ亜科は近年、独立の科とされることもあるが、ここでは従来への扱いを踏襲してある。食糞群では、東丹沢でのみ記録されていたものの多くが西丹沢にも産することが、本調査で判明した。食葉群では、ピロウドコガネ亜科とハナムグリ類の分布や生態に関する知見が増大した。記録された種は、山地性のものが多く、調査範囲をよく反映している。標本についてご支援いただいた、前波鉄也、野津裕、宮谷秀明、渡弘の諸氏に御礼申し上げます。

2.3.8. ヒゲブトハナムグリ亜科 Subfamily Glaphyrinae

ヒゲブトハナムグリ *Anthypna pectinata*

2.3.9. マグソコガネ亜科 Subfamily Aphodiinae

ヌバタママグソコガネ *Aphodius brevisculus*

オオフタホシマグソコガネ *Aphodius elegans* (神・減少種G)

オオマグソコガネ *Aphodius haroldianus*

イガクロツヤマグソコガネ *Aphodius igai pseudoigai*

ヒメキイロマグソコガネ *Aphodius inouei*

ツヤチャグロマグソコガネ *Aphodius isaburoi masumotoi*

丹沢山地が基準産地の1つである。

コスジマグソコガネ *Aphodius lewisii*

マダラヒメスジマグソコガネ *Aphodius madara*

ミゾムネマグソコガネ *Aphodius mizo*

セマダラマグソコガネ *Aphodius nigrotessellatus*

コマグソコガネ *Aphodius pusillus*

マグソコガネ *Aphodius rectus*

ヨツボシマグソコガネ *Aphodius sordidus*

ウスイロマグソコガネ *Aphodius sublimbatus*
トゲクロツヤマグソコガネ *Aphodius superatratrus*
マルツヤマグソコガネ *Aphodius troitzkyi*
クロオビマグソコガネ *Aphodius unifasciatus*
フチケマグソコガネ *Aphodius urostigma*
クロモンマグソコガネ *Aphodius variabilis*
クロップマグソコガネ *Aphodius yamato*
トゲマグソコガネ *Caelius denticollis*
イシダマグソコガネ *Oxyomus ishidai*

相模大山が基準産地。

セスジカクマグソコガネ *Rhyparus azumai*

2.3.10.ダイコクコガネ亜科 Subfamily Scarabaeinae

マエカドコエンマコガネ *Caccobius jessoensis*
ニッコウコエンマコガネ *Caccobius nikkoensis*
ゴホンダイコクコガネ *Copris acutidens*
ツノコガネ *Liatongus phanaeoides*
クロマルエンマコガネ *Onthophagus ater*
コブマルエンマコガネ *Onthophagus atripennis*
カドマルエンマコガネ *Onthophagus lenzii*
ツヤエンマコガネ *Onthophagus nitidus*
マメダマコガネ *Panelus parvulus*

2.3.11.コフキコガネ亜科 Subfamily Melolonthinae

ナガチャコガネ *Heptophylla picea*
クロコガネ *Holotrichia kiotensis*
オオクロコガネ *Holotrichia parallera*
コクロコガネ *Holotrichia picea*
コフキコガネ *Melolontha japonica*
ヒゲコガネ *Polyphlla laticollis*(神・減少種H)

2.3.12.ビロウドコガネ亜科 Subfamily Sericinae

コヒゲシマビロウドコガネ *Gastroserica brevicornis*
アカビロウドコガネ *Maladera castanea*
ビロウドコガネ *Maladera japonica*
カミヤビロウドコガネ *Maladera kamiyai*
ヒメビロウドコガネ *Maladera orientalis*
オオビロウドコガネ *Maladera renardi*

ハイイロビロウドコガネ *Paraserica gricea*
ヒゲナガビロウドコガネ *Serica boops*
コヒゲナガビロウドコガネ *Serica brevitarsis*
フウボビロウドコガネ *Serica foobowana*
アシマガリビロウドコガネ *Serica incurvata*
エゾビロウドコガネ *Serica karafutoensis honshuensis*
ホソヒゲナガビロウドコガネ *Serica nitididorsis opacidorsis*
マルヒゲナガビロウドコガネ *Serica ovata*
モモケビロウドコガネ *Serica trichofemorata*
ナエドコチャイロコガネ *Sericania mimica*
オオタケチャイロコガネ *Sericania ohtakei*
ヨツバクロチャイロコガネ *Sericania quadrifoliata*
セスジチャイロコガネ *Sericania suturalis*

2.3.13. スジコガネ亜科 Subfamily Rutelinae

コイチャコガネ *Adoretus tenuimaculatus*
ドウガネブイブイ *Anomala cuprea*
サクラコガネ *Anomala daimiana*
ヒメサクラコガネ *Anomala geniculata*
ツヤコガネ *Anomala lucens*
ハンノヒメコガネ *Anomala puncticollis*
ヒメコガネ *Anomala rufocuprea*
チビサクラコガネ *Anomala schoenfeldti*
カタモンコガネ *Blitopertha conspurcata*
セマダラコガネ *Blitopertha orientalis*
オオスジコガネ *Mimela costata*
ヒメスジコガネ *Mimela flavilabris*
キンスジコガネ *Mimela holosericea*
コガネムシ *Mimela splendens*
スジコガネ *Mimela testaceipes*
ウスチャコガネ *Phyllopertha diversa*
アオウスチャコガネ *Phyllopertha intermixta*
キスジコガネ *Phyllopertha irregularis*
マメコガネ *Popillia japonica*

2.3.14. アシナガコガネ亜科 Subfamily Hoplinae

ヒメアシナガコガネ *Ectinohoplia obducta*

アシナガコガネ *Hoplia communis*

2.3.15.カブトムシ亜科 Subfamily Dynastinae

カブトムシ *Allomyrina dichotoma*

コカブトムシ *Eophileurus chinensis*

2.3.16.ハナムグリ亜科 Subfamily Cetoninae

ハナムグリ *Eucetonia pilifera*

アオハナムグリ *Eucetonia roelofsi*

クロハナムグリ *Glycyphana fulvitemma*

コアオハナムグリ *Oxycetonia jucunda*

アカマダラコガネ *Poecilophilides rusticola* (神・減少種H)

ムラサキツヤハナムグリ *Protaetia cataphracta* (神・危惧種E)

ミヤマオオハナムグリ *Protaetia lugubris insperata*

シロテンハナムグリ *Protaetia orientalis submarumorea*

カナブン *Rhomborrhina japonica*

クロカナブン *Rhomborrhina polita*

アオカナブン *Rhomborrhina unicolor*

2.3.17.ヒラタハナムグリ亜科 Subfamily Valginae

オオヒラタハナムグリ *Charitovalgus fumosus*

トゲヒラタハナムグリ *Dasyvalgus tuberculatus*

ヒラタハナムグリ *Nipponovalgus angusticollis*

2.3.18.トラハナムグリ亜科 Subfamily Trichinae

アオアシナガハナムグリ *Gnorimus subopacus viridiopacus*

ヒメトラハナムグリ *Lasiotrichius succinctus*

オオチャイロハナムグリ *Osmoderma opicum*

オオトラフコガネ *Paratrachius doenitzi*

ジュウシチホシハナムグリ *Paratrachius septemdecimguttatus*

3.ホタル上科

3.1.ベニボタル科 Lycidae

名前の通り上翅が赤い種が多い。この赤はかなり目立つことから一種の警戒色と考えられ、アカハネムシやベニコメッキなど本科の種に擬態したと考えられる甲虫もいくつか知られている。生態は不明な点が多いが、林内の低木の葉上などに静止する成虫をみることが多い。県内からは30種が記録されているが、今回の調査では23種が記録され、これに文献記録を加えると丹沢からは26種を確認することができた。この中には県新記録種が3種含まれており、いずれも県内では比較的個体数の少ない種と考えられ、貴重な記録と

なった。また、ヒメベニボタルに近似の未記載種の存在が明らかとなったが、これも大きな成果といえよう。なお、文献記録のあったネアカヒシベニボタルは同定誤りであることが明らかになったので、記録を削除することとした。

ベニボタル *Lycostomus modestus*

オオクシヒゲベニボタル *Macrolycus excellens*

県新記録である。日本産のベニボタルの中では最大級の種で、今回記録された♀個体は体長17.5mmの非常に大きな個体である。

クシヒゲベニボタル *Macrolycus flabellatus*

東日本では比較的普通の種とされているが、今回の調査で得られクシヒゲベニボタル属は、ほとんどが次種のミヤマクシヒゲベニボタルで、クシヒゲベニボタルと確実に同定されたものは、堂平産のわずか2頭のみであった。したがって、丹沢ではむしろ稀な種であることが明らかとなった。また、従来の記録についても再検討する必要があるかもしれない。

Macrolycus submontanus

本属の中では最も個体数の多い優占種で、山麓から山頂部まで丹沢の全山に広く分布する。本種は、ミヤマクシヒゲベニボタル *M. montanus* にきわめて近い種であるが、交尾器の形態の違いから中根(1994)によって新種として記載された。従来、本県で、ミヤマクシヒゲベニボタルとして報告された記録は、すべてこの種名に訂正する必要があると考えられる。

ホソベニボタル *Mesolycus atrorufus*

ニセクロハナボタル *Plateros hasegawai*

次種のクロハナボタルによく似た種であるが、本種はブナ帯に限って分布する。

クロハナボタル *Plateros coracinus*

平地の雑木林からブナ帯まで広く分布する種である。平地では優占種であるが、丹沢のブナ林では個体数はやや少なくなる。

アカゲハナボタル *Plateros purpurivestis*

今回の調査によって得られた標本で最近記録された種であるが、個体数の少ない種と思われる。

ヒメベニボタル *Lyponia delicatula*

普通種とされるが、丹沢では山麓部に限って分布する。

ヒメベニボタル近似の未記載種 *Lyponia* sp.

ヒメベニボタルにきわめて近縁の種であるが、前胸背と交尾器の形態が異なる。恐らく平地をヒメベニボタルが、ブナ帯を本種が主な生息域として棲み分けているものと思われる。Nakane(1969)には本種のほうがヒメベニボタルとして図示されているが、ヒメベニボタルのタイプ産地である長崎産の標本と比較した結果、本種のほうが未記載種であることが明らかとなった。

コガタカクムネベニボタル *Lyponia nigrosxutellaris nigroscutellaris*

カクムネベニボタル *Lyponia quadricollis*

山麓部から丹沢の核心部まで広く分布する優占種である。

ニセジュウジベニボタル *Lopheros harmandi*

県未記録種である。この個体は♀であるが、小あごひげの形態から本種にほぼ間違いないものと思われる。記録は地蔵平の1列のみで、個体数はかなり少ないものと思われる。

キタベニボタル *Lopheros septentrionalis*

今回追加記録が1例得られたが、きわめて稀な種と思われる。

コウノジュウジベニボタル *Lopheros konoi*

県未記録種である。堂平で得られた1個体のみで、個体数はかなり少ないようである。

ヒシベニボタル *Dictyoptera gorhami*

クロミスジヒシベニボタル *Benibotarus nigripennis*

ミスジヒシベニボタル *Benibotarus spinicoxis*

ムネクロテングベニボタル *Platycis consobrinus*

出現期が他のベニボタル類よりやや遅く9月以降に出現する。ブナ帯を主な生息域としている種である。

テングベニボタル *Platycis nasutus*

低地からブナ帯まで広い分布域をもつ普通種である。出現期は早い。

スジアカベニボタル *Conderis orientis*

カタアカベニボタル *Conderis rufohumeralis*

ネアカベニボタル *Cautires bourgeoisi*

ユアサクロベニボタル *Cautires yuasai*

マエアカクロベニボタル *Cautires zahradniki zahradniki*

ミダレクロベニボタル *Cautires geometricus*

本県からは2例しか記録のない種で、比較的稀な種と思われる。

削除すべき事項

次の種については、誤同定であることが明らかとなったので記録を削除したい。

ネアカヒシベニボタル *Dictyoptera speciosa*

姫次の記録(神奈川県立博物館, 1972)があるが、標本を確認した結果、マエアカクロベニボタルの誤りであることが判明した。

3.2. ジョウカイボン科 *Cantharidae*

ジョウカイボン科は、この上科の中では、最も多くの種を含んでいる科で、まだ、未知の部分が多く、現在もなお多数の未記載種が存在する。しかし、神奈川県についてはかなり調査が進んでおり、その概要がほぼ明らかになっている。すべて肉食性の甲虫で、成虫は樹

葉上や花などにみられ、アブラムシなどを捕食し、幼虫は林床に生息し、やはり土壌性の小動物を食する。県内からは72種が知られており、今回の調査では54種が確認された。これに文献による記録も加えると丹沢地域から63種が記録されたことになる。特筆すべき成果としては、今回の調査で得られた標本を基にニッポンクロチビジョウカイという新種が記載されている。また、県未記録種であるギョウトククビボソジョウカイとハウシニンフジョウカイが採集されたことも大きな成果の1つと思われる。なお、クロヒメジョウカイが文献によって記録されていたが、同定誤りが明らかとなったので、ここで記録を削除することとした。

3.3. ジョウカイボシ亜科 *Cantharinae*

クビボソジョウカイ *Podabrus(Podabrus)heydeni*

ヒメジョウカイ *Rhagonycha japonica* として記録された山北町箒沢産の標本(神奈川県立博物館, 1972)のうち、次の2頭は本種の誤りであったので、ここに記録を再録したい。

ヒルガタケクビボソジョウカイ *Podabrus(Podabrus)hirugatakensis*

ユーシンクビボソジョウカイ *Podabrus(Asiopodabrus)yushinensis*

カナガワヒメクビボソジョウカイ *Podabrus(Asiopodabrus)kanagawaensis*

ギョウトククビボソジョウカイ *Podabrus(Asiopodabrus)gyotokui*

県新記録である。本種は、福岡県の英彦山を基準産地とし記載された種で、現在まで九州以外からは知られていない。今回の記録は離れた産地のものとしてきわめて画期的である。この個体は、英彦山産のものと比較して交尾器の形態と体の色彩などせにわずかな差が認められることから、将来的には亜種として区別される可能性が高いが、とりあえず今回は本種に含めておく。

ミヤマクビボソジョウカイ *Podabrus(Asiopodabrus)lictorius*

ウスイロクビボソジョウカイ *Podabrus(Asiopodabrus)temporalis*

ヤマウスイロクビボソジョウカイ *Podabrus(Asiopodabrus)hinakurai*

ウスイロクビボソジョウカイの近似種で、つい最近記載された種である。ウスイロクビボソジョウカイ主に平地に、本種はやや標高の高いところに分布する。津久井などで、混棲地が知られているが、丹沢でも水ノ木林道付近で両種が採集されていることから、ここも混棲地である可能性がある。

ミクニクビボソジョウカイ *Podabrus(Asiopodabrus)mikunisanus*

丹沢稜線部における優占種で、個体数はきわめて多い。

タナサワノアタマクビボソジョウカイ *Podabrus(Asiopodabrus)tanasawanoatamanus*

ハウシニンフジョウカイ *Podabrus(Asiopodabrus)hoshiensis*

県新記録である。本種は静岡県などですでに採集されていることから、本県にも分布することがある程度予想されていた種である。通常は沢沿いのカエデの花などから採集される場合が多いが、今回はブナ林の中で得られた。

ヒガシチビクビボソジョウカイ *Podabrus(Asiopodabrus)hiranoi*

チャイロチビクビボソジョウカイ *Podabrus(Asiopodabrus)neglectus minus*

県内に産するクビボソジョウカイの仲間では最も小さな種で、主にブナ帯で比較的多く見られる。

ミヤマチビクビボソジョウカイ *Podabrus(Asiopodabrus)tsuyukii*

クロチビクビボソジョウカイ *Podabrus(Asiopodabrus)micronigrinus*

クロホソクビボソジョウカイ *Podabrus(Asiopodabrus)taoi*

谷筋から山頂部まで丹沢一帯にきわめて個体数の多い優占種である。黒色で細長い*Podabrus*は、本州に何系統か分布するが、不思議と県内ではこの種しか見いだせない。

キニンフジョウカイ *Podabrus(Asiopodabrus)kiiensis hakonensis*

本種は紀伊半島を基産地として記載された種で、神奈川県産は亜種*hakonensis*として区別されている。県内では箱根のみで記録されていたが、今回丹沢からも初めて採集された。

ヤトウスイロクビボソジョウカイ *Podabrus(Asiopodabrus)bilineatus oisoanus*

タカオクビボソジョウカイ *Podabrus(Asiopodabrus)takaosanus*

キントキクビボソジョウカイ *Podabrus(Asiopodabrus)kintokisanus*

イヌゴエジクビボソジョウカイ *Podabrus(Asiopodabrus)inugoejianus*

キソクビボソジョウカイ *Podabrus(Asiopodabrus)kiso fujisanus*

ナナサワクビボソジョウカイ *Podabrus(Asiopodabrus)nanasawaensis*

クロヒメクビボソジョウカイ *Podabrus(Asiopodabrus)malthinoides*

ヒノキボラクビボソジョウカイ *Podabrus(Asiopodabrus)hinokiboranus*

コクロニンフジョウカイ *Podabrus(Asiopodabrus)kadowakii*

キベリククビボソジョウカイ *Podabrus(Asiopodabrus)inexpectus*

ニセミヤクビボソジョウカイ *Podabrus(?)pseudolictrius*

丹沢一帯に個体数が多い。本種は他の*Podabrus*とは、やや異なる系統で、亜属名等ははまだ未確定である。

シンボリヒゲナガジョウカイ *Micropodabrus shinborii*

近似種のナガヒメジョウカイは県内では箱根に分布する。丹沢では本種のみが得られており、丹沢と箱根の間に境界があるという、興味深い分布をしている。早春にカエデの花で採集される場合が多い。

クロヒゲナガジョウカイ *Habronychus providus*

アオジョウカイ *Themus cyanipennis*

平地から山頂部まで、普通に産する。本県産の本種は、名前のように青くはなく、暗い青紫色ともいうべき色彩をしている。特に丹沢産のものは、黒化が強く、後述するクロジョウカイにかなりよく似てくる。

ジョウカイボン *Athemus(Athemus)suturellus*

クロジョウカイ *Athemus(Athemus)attristatus*

クラヤミジョウカイ *Athemus(Athemus)nigerrimus*

県内では他に愛川街の1例(荏部ほか、1996)が知られるのみの珍しい種である。本種には様々な色彩変異が知られ、模式産地である紀伊半島大峰山系の個体は、全体が黒色で本県産のクロジョウカイときわめてよく似ている。しかし、本県産のクラヤミジョウカイは上翅の会合線にそって黒紋をもつ型となる。神奈川県内に限ると、このような色彩型はジョウカイボンやクロジョウカイでは出現しないため、色彩パターンだけで本種の同定が可能である。

クロホソジョウカイ *Athemus(Athemus)aegotus*

ツユキクロホソジョウカイ *Athemus(Athemus)tsuyukii*

フチヘリジョウカイ *Athemus(Athemus)maculiellytris*

セボンジョウカイ *Athemus(Andrathemus)vitellinus*

ニセヒメジョウカイ *Athemus(Andrathemus)lineatipennis*

低地から山頂部まで産するが、標高の低いところに個体数が多い。以前はヒメジョウカイと混同されており、古い記録は本種である場合が多いようである。

ホソニセヒメジョウカイ *Athemus(Andrathemus)okuyugawaranus*

ニセヒメジョウカイによく似た種であるが、本種のほうは、ブナ帯を主な分布域としている。個体数はやや少ないようである。

ヒサマツジョウカイ *Athemus(Andrathemus)hisamatsui*

ヤトセスジョウカイ *Athemus(Andrathemus)yato*

本種はその名の通り、谷戸等の湿地に生息する種で、丹沢は山麓部の谷戸に限って分布する。

ウスチャジョウカイ *Athemellus insulsus*

ムネアカクロジョウカイ *Athemellus adusticollis*

ヒガシマルムネジョウカイ *Prothemus reini*

クリイロジョウカイ *Stenothemus badius*

ジョウカイボンの仲間では例外的に遅い時期に出現する種で、7月下旬から9月までみられる。個体数の多い優占種である。

ミヤマヒメジョウカイ *Mikadocantharis alpicola*

次種のヒメジョウカイときわめて近縁な種で、本種は主としてブナ帯に分布し、個体数は多い。従来、県内では両種の混棲地は知られていなかったが、今回の調査で、高指山と三国峠で両者が混棲することが初めて確認された。

ヒメジョウカイ *Mikadocantharis japonica takaosana*

本種は主として平地を中心に分布する。どちらかというややオープンな環境を好む傾

向があり、生態的な面でもミヤマヒメジョウカイとはやや異なっている。

コクロヒメジョウカイ *Kandyosilis viatica*

従来の記録は箱根のみで、丹沢からは今回初めて記録された。7月中旬以降ブナ帯に出現するが個体数はやや少ない。

3.4.チビジョウカイ亜科 *malthininae*

フタイロチビジョウカイ *Malthinellus bicolor*

ウスバツマキジョウカイ *Malthinus nakanei*

熊笹ノ峰産の個体でキアシツマジョウカイ *Malthinus humeralis* として報告された(高橋、1992)が、その後の調査で、ウスバツマキジョウカイとしたほうが正しいことが明らかとなったので、今後種名をこのように訂正する。丹沢の稜線部に産するが、個体数は少ない。

ウスイロツマキジョウカイ *Malthinus sagamiensis*

ウスバツマキジョウカイにきわめて近い種であるが、本種は平地を中心に分布する。

クロスジツマキジョウカイ *Malthinus mucoreus*

本種は西日本では普通種であるが、本県では非常に少ない種で、わずかに横須賀市の1例が知られるのみであった。今回、丹沢の主稜部から記録されたが、ブナ林から本種が採集されるとはまったく予想されなかったことであった。

クロツマキジョウカイ *Malthinus japonicus*

ムネミゾクロチビジョウカイ *Malthodes sulcicollis*

平地から稜線部にいたるまできわめて個体数が多い。本属の中の最優占種である。なお、山上昭氏採集の標本は、次種も含めてすべてブナの枯れ枝から出現したもので、この属の幼虫が朽木中にも生息することが明らかとなった。今までこうした知見は知られておらず、貴重な記録と思われる。

ナガチビジョウカイ *Malthodes longipygus*

ホソチビジョウカイ *Malthodes furcatopygus*

キタチビジョウカイ *Malthodes kurosawai*

今回の調査で発見され記録された種である。

ニッポンクロチビジョウカイ *Malthodes yukihikoi*

今回の総合調査で発見され、新種として記載された種である。ブナ林内の低木の葉裏などにみられるが、個体数は少ない。

3.5.コバネジョウカイ亜科 *Chauliognathinae*

オオメコバネジョウカイ *Microichthyurus pennatus*

従来の記録は藤野町の1例のみで、比較的個体数の少ない種と考えられる。

キベリコバネジョウカイ *Trypherus niponicus*

本属の中で、県内では最も個体数の多い種であるが、丹沢ではあまり採集されていない

い。

クロコバネジョウカイ *Trypherus nigrinus*

ブランクッチコバネジョウカイ *Trypherus atratulus*

削除すべき記録

次の種については、調査の結果同定に誤りがあることが明らかとなったので、記録を削除したい。

クロヒメジョウカイ *Rhagonycha caroli*

山北町蒂沢産の2頭の標本で記録された(神奈川県立博物館、1972)が、1頭はクロホソクビボソジョウカイ *Podabrus (Asiopodabrus) taoi*、もう1頭はツユキクロホソジョウカイ *Athemus (Athemus) tsuyukii*の誤りであった。本種は、高山のハイマツ帯に出現する種で、本県に分布する可能性は極めて低いと考えられる。

3.6.ホタルモドキ科 *Omethidae*

日本産わずか3種という小さな科で、ジョウカイボン科に近縁であり、一時はそちらに含まれていたこともある。主として、低木の葉裏などにみられ、灯火にも飛来するが、生態等は不明な点が多い。県内からは2種が記録されているが、今回の調査でもこの2種を確認することができた。

チビホタルモドキ *Omethes rugiceps*

丹沢から初めて記録される種である。小型の種であるため、見逃されていたものと思われる。

ホソホタルモドキ *Drilonius striatus*

3.7.ホタル科 *Lampylidae*

ホタル科は、ゲンジボタル、ヘイケボタルがあまりにも有名で、発光性をもつことで、一般にもよく知られた昆虫である。この2種は水生昆虫であるが、その他の種は陸生で、貝類を主な餌としている。県内からは10種が知られるが、今回の調査では6種が確認され、これに文献記録を加えると合計8種が丹沢から記録されたことになる。

ムネクリイロボタル *Cyphonocerus ruficollis*

カタモンミナミボタル *Drilaster axillaris*

ゲンジボタル *Luciola cruciata*

ヘイケボタル *Luciola lateralis*

ヒメボタル *Hotaria parvula*

本種には低地に小型の特殊な型が産することが知られているが(大場、1981)、今回得られた個体はいずれも体長が 8mm 前後あり、いわゆる山地に産する型と同じものと思われる。

クロマドボタル *Lychnuris fumosa*

オバボタル *Lucidina biplagiata*

平地から山頂部まで、きわめて個体数の多い普通種である。

オオオバボタル *Lucidina accensa*

オバボタルに似るが、やや大型でブナ帯にみられる。

4.カミキリモドキ科

4.1.カミキリモドキ科 *Oedemeridae*

一見、カミキリムシに似ているので、その名がある。世界に1000種ほどの記録があり、日本では50余種が生息しており、神奈川県では25種の報告があるが、今回、1種追加され26種となった。丹沢では21種の生息が確認された。成虫は花に集まり、蜜や花粉を食べると思われる。しばしば灯火に飛来し、体液中にカンタリジンを含むため、皮膚に炎症を起こさせるものもある。

4.2.Subfamily *Nacerdinae*

スジカミキリモドキ *Chrysanthia viatica*

山地性の種で、長野県や山梨県では多いが、県内では丹沢のみから発見されている。主に花上から得られる。

キクビカミキリモドキ *Nacerdes atriceps*

丹沢では山地にかなり見られるようである。しばしばライトトラップで得られる。

アオカミキリモドキ *Nacerdes waterhousei*

胸が黄色で上翅が青いカミキリモドキでは最も多い種。

カトウカミキリモドキ *Nacerdes katoi*

前種より少ないが、各地に見られる。

シリナガカミキリモドキ *Nacerdes caudata*

各地に普通に見られる。

キイロカミキリモドキ *Nacerdes hilleri*

各地に見られるが、それほど多くはない。

キバネカミキリモドキ *Nacerdes luteipennis*

各地に多い普通種。ライトトラップによく来る。

コウノカミキリモドキ *Nacerdes konoi*

山地性の種であり多くない。

オオサワカミキリモドキ *Nacerdes osawai*

丹沢ではかなり生息しているようである。灯下採集でも得られる。

アイヌカミキリモドキ *Nacerdes ainu*

神奈川県から初めて記録されるもので、山地性の種で、珍しい。ライトトラップで得たという。

コゲチャカミキリモドキ *Nacerdes spinicoxis*

記録は次のものだけで、少ない。

ハラグロカミキリモドキ *Nacerdes deformis*

山地にかなり見られるようである。

クロカミキリモドキ *Opsimea nigripennis*

山地に見られるが、多くはない。

4.3. Subfamily Oedemerinae

アカクビカミキリモドキ *Ischnomera konoi*

かなり少ない種である。

アオグロカミキリモドキ *Ischnomera nigrocyanea nigrocyanea*

大山が原産地で、各地に見られるが、多くない。

メスグロカミキリモドキ *Ischnomera carinicollis*

山地性の種のように、丹沢り高地帯に生息しているようである。

ハネアカカミキリモドキ *Iachnomera brunneipennis*

本種も山地に見られるが、少ない。

マダラカミキリモドキ *Oncomera venosa*

春、低山帯に多く見られる。

アイロカミキリモドキ *Oedemera robusta*

かなり少ない種のようなようである。

キアシカミキリモドキ *Oedemera manicata*

各地に普通に見られるが、次種より少ない。

モモボトカミキリモドキ *Oedemera lucidicollis*

春、タンポポの花などに極めて多く見られる。

5. ハナノミ科およびハナノミダマシ科

5.1. ハナノミ科 Mordellidae

日本からは約175種が既知であるが、同定の困難な分類群を含んでいることもあって、未記載のものも少なくない。神奈川県内からはこれまで38種が記録されているが、調査はきわめて遅れており、まだ多くの未記録種が存在しているものと考えられる。

今回、丹沢山地からは次の30種が記録された。このうち11種は神奈川県から初めて報告される種である。一方で、本州のブナ帯に普通なクロハナノミ属 *Mordella* の数種は、今回の現地調査でも発見できなかった。この理由としては、明らかに調査不足であることが指摘されるだろうが、訪花性の種類の個体数が他地域よりも著しく少ないことも確かであると思われる。ヒメハナノミ族は同定が困難で、種名が確定できないものがいくつかあった。

5.2. ハナノミ族 Mordellini

ネジロモンハナノミ *Tomoxia scutellata*

ブナの立枯れや倒木に集まり、個体数はそれほど少なくない。

モンハナノミ *Tomoxia nipponica*

前種とともにブナの立枯れや倒木に集まる。

キボシハナノミ *Hoshihananomia hananomi*

本州のブナ帯には優占な種であるが、丹沢での過去の記録はわずかに次の1例があるにすぎない。

ウスキボシハナノミ *Hoshihananomia kurosai*

県内での記録は少なく、丹沢では今回の調査で初めて発見された。

シラホシハナノミ *Hoshihananomia perlata*

本州のブナ帯には前々種とともに優占な種であるが、丹沢での記録はごく少ない。

アカカタハナノミ *Mordellaria aurata* *

神奈川県初記録種。ブナ帯のむしろ上部で局所的に記録のある種で、丹沢山地からの発見は興味深い。

ゼンチハナノミ *Mordellaria zenchii* *

神奈川県初記録種。前種に似るが、日本各地のブナ帯からより普遍的に採集されている。

アラキハナノミ *Mordellaria arakii*

今回の調査によって県内から初めて発見された。シイ・カシ帯からブナ帯まで分布するが今回の調査では次の2例にとどまった。

キンオビハナノミ *Variimorda flavimana*

シイ・カシ帯からブナ帯まで分布する種であるが、今回の調査では発見されなかった。丹沢での過去の記録は次の2例のみ。

クロハナノミ *Mordella brachyura*

この属としては本種の記録があるにすぎず、しかも同定の確実性に不安がある。

5.3. ヒメハナノミ族 *Mordellistenini*

クロヒメハナノミ *Mordellistena comes*

低地から山地にかけてもとても普通に見られる種であるが、今回は、1個体採集されたのみであった。

トケジクロヒメハナノミ *Mordellistena tokejii*

この属の中では大型の種類。コゴメウツギの花上で得られた。

アトクロハナノミ *Mordellistena fuscoapicalis*

逗子が基準産地の1つとなっているが、県内ではそれ以降記録がなかった。

オゼクロハナノミ *Mordellistena ozeana*

神奈川県初記録種。

カタスジヒメハナノミ *Mordellistena brevilineata*

- ヨモギの茎から幼虫が得られている。
- タマクロヒメハナノミ *Mordellistena tamana*
シシウドから幼虫が得られている。
- マエアカヒメハナノミ *Mordellina callichroa* *
神奈川県初記録種。
- ヤマモトヒメハナノミ *Mordellina yamamotoi*
川崎市、横浜市などからも記録があり、各地に普通に見られる。
- クロズヒメハナノミ *Mordellina longula* *
神奈川県初記録種。
- ウスイロヒメハナノミ *Mordellina palliata*
神奈川県内ではほかに大磯町の記録があるのみ。
- カグヤヒメハナノミ *Mordellina kaguyahime* *
神奈川県初記録種。
- ビロウドヒメハナノミ *Falsomordellistena chrysotrichia*
県内からの記録は大山の以下の2例のみ。
- カタビロヒメハナノミ *Falsomordellistena auromaculata* *
神奈川県初記録種。
- キンモンヒメハナノミ *Falsomordellistena auriguttata* *
神奈川県初記録種。
- サトウヒメハナノミ *Falsomordellistena satoi*
肩部と頭部が赤褐色の特徴的な種で、県内各地で採集されているが、今回の調査では発見されなかった。
- タカオヒメハナノミ *Falsomordellina takaosana*
神奈川県内ではほかに、南足柄市、箱根町で採集されている。
- ハセガワヒメハナノミ *Ermischella hasegawai* *
神奈川県初記録種。
- アワヒメハナノミ *Pseudotplida awana* *
神奈川県初記録種。
- オナガヒメハナノミ *Mordellochroa pygidialis* *
神奈川県初記録種。ブナ帯に見られるが少ない。県外での記録もあまりない。
- ナガトゲヒメハナノミ *Tolidostena japonica*
丹沢からは1例が知られるのみ。

5.4.ハナノミダマシ科 *Scraptiidae*

日本からは16種が既知であるが、なお種名の確定していない種類もある。神奈川県内からはこれまで7種が記録されていたが、調査はきわめて遅れていた分類群である。

今回、丹沢山地からは次の8種が記録された。このうち、ミッチフナガタハナノミとハヤシフナガタハナノミは神奈川県から初めて報告される種である。訪花性の強いクロフナガタハナノミ属 *Anaspis* の種類は出そろったかもしれないが、そうではない他属のものはまだ発見されることだろう。

タケイフナガタハナノミ *Anaspis takeii*

春期に採集されており、神奈川県内ではほかに南足柄市で記録されている。

コフナガタハナノミ *Anaspis funagata*

クロフナガタハナノミ *Anaspis marseuli*

各地にごく普通で、カエデ類、ズミ、ウツギなど各種の花に集まる。

キイロフナガタハナノミ *Anaspis luteola*

本科では前種に次いで各地に普通。

ミッチフナガタハナノミ *Anaspis mitchii* *

ハヤシフナガタハナノミ *Anaspis hayashii* *

ホソフナガタハナノミ *Pentaria elongata*

神奈川県内では丹沢における次の1例のほか、津久井郡藤野町と足柄下郡山北町の各1例(平野, 1987)が知られるのみ。

キイロハナノミダマシ *Scraptia livens*

神奈川県内では丹沢での次の1例のほか、大磯町の記録を見るにすぎない。

6. カミキリムシ類

6.1. ホソカミキリムシ科 *Disteniidae*

かつてはカミキリムシ科の1亜科に含められていたが、最近では独立の科として扱う研究者が多い。日本からは3種が記録されており、神奈川県にはそのうちの1種だけが分布する

ホソカミキリ *Distenia gracilis* (神・減少種H)

6.2. カミキリムシ科 *Cerambycidae*

日本に720種が知られる(大林ほか編, 1992)大きな科で、甲虫の中では最も詳しく調査されている分類群の1つであるが、なお国内から未記載の種類が発見されつつある。神奈川県からはこれまで約265種が報告されてきたが、今回初めて記録されるものが9種あるので、県産としては合計約274種が知られることになる。このうち、丹沢山地から今回報告されるものは239種であり、県全体の約87%に及ぶ。

丹沢山地を特徴づける種類としては、1935年に1頭だけが得られているクロキクスイカミキリを筆頭に挙げなければならない。本種には日光中禅寺より記載された *Phytoecia nigerrima* Breuning (属は現在 *Stenostola* に移されている: この種の確実な記録は原記載のみ) の名が与えられているが、筆者らの1人高桑はそれとは異なる種という見解(未

発表)をもっており、それが正しければ丹沢産クロキクスイカミキリは今のところこの地域に固有である。いずれにしろ、追加記録が望まれる。

丹沢山地に準固有的な種類もある。未記載のシナノキチビコブカミキリ(仮称)はブナ帯の上部で発見されており、現在のところ丹沢と富士山に固有な種である。同様に、フジヒメハナカミキリとコトヒメハナカミキリも丹沢とその周辺の山地だけに分布する。また、ヤツボシハナカミキリとフタスジハナカミキリは黒化傾向が著しく、後者は亜種として区別される場合がある。さらに、フタコブルリハナカミキリは丹沢各地で発見されているが、ブナ帯の個体はオスで前胸の黒化傾向が著しくとくに西丹沢産の一部のものはクロジョウカイを思わすほど鞘翅も黒ずんでいる。これらは南部フォッサマグナ地域に固有な種または型であり、フォッサマグナ要素として位置づけられる。

分布の限界に位置している種類としては、東北限としてのヘリグロホソハナカミキリがあり、奥多摩方面にまで分布を延ばしているがトガリバホソコバネカミキリやシロチビコブカミキリもこれに準ずる。また、ブナ帯上部に生息するキベリカタビロハナカミキリ、ニセハムシハナカミキリ、クリイロシラホシカミキリなどは標高的に限界に近いと考えられ、これらはいずれも県内では丹沢の主稜部だけから発見されている。

一方、丹沢山地での分布が予想されながら今回リストアップできなかった種類もある。例えばアオスジカミキリやタイワンメダカカミキリ、マツシタトラカミキリ、クリチビカミキリ、イッシキキモンカミキリなどであるが、これらのうちのいくつかは山麓部から中腹にかけて見つかる可能性が高い。また、奥多摩や富士山など周辺地域のブナ帯に分布していながら、いまだに丹沢から未発見の種類も少なくない。例えばコウヤホソハナカミキリやフタスジカタビロハナカミキリ、ルリハナカミキリ、ヒメアカハナカミキリ、ブチヒゲハナカミキリ、イガブチヒゲハナカミキリ、オオハナカミキリ、キモンハナカミキリ、クロサワヘリグロハナカミキリ、ヒゲシロホソコバネカミキリ、ハセガワトラカミキリなどで、これらの多くは丹沢には分布していない可能性が強く、伊豆箱根欠如要素として位置づけられるだろう。

個体数の少なさという点も丹沢の特徴と言えるだろう。本州のブナ帯ではほぼどこでも優占種の1つであるマルガタハナカミキリやチャボハナカミキリ、ミヤマクロハナカミキリ、ヤツボシハナカミキリなども、発見はきわめて難しい有り様である。この原因の1つとしては、丹沢の主稜部には訪花性カミキリの好んで集まる花があまりないことが挙げられるかもしれないが、ノリウツギやリョウブ、シンウドがあってもそれほど個体数が集まっていないのが通常の経験である。この原因としては、丹沢におけるそれらの花期とカミキリの発生期とが、うまく一致しないこともあるだろう。

6.3. ノコギリカミキリ亜科 Prioninae

ウスバカミキリ *Megopis sinica*

ノコギリカミキリ *Prionus insuralis*

ニセノコギリカミキリ *Prionus sejunctus*

丹沢からの正式な記録としては今回が初めてである。県内ではこれまで伊勢原市のほか、箱根山麓、真鶴半島などで記載されている。(神・危惧種E)

コバネカミキリ *Psephactus remiger*

ブナなどの立ち枯れ、古い倒木や薪などに見られるが、丹沢では比較的少ない。

6.4.クロカミキリ亜科 *Spondyliinae*

クロカミキリ *Spondylis buprestoides*

サビカミキリ *Arhopalus coreanus*

丹沢ではブナ帯からは記録がない。(神・減少種H)

シナノサビカミキリ *Arhopalus tobirensis*

丹沢での記録は次の3か所のみ。

ツシムムナクボカミキリ *Cephalallus unicolor*

マツなどの針葉樹に寄生するが、丹沢では少ない。

オオクロカミキリ *Megasemum quadricostulatum*

神奈川県では多くない。

オオマルクビヒラタカミキリ *Asemum striatum*

神奈川県での記録は次の1例のみ。

6.5.ハナカミキリ亜科 *Lepturinae*

テツイロハナカミキリ *Encyclops olivacea*

ゴトウヅルなどの各種の花に集まるが、神奈川県では丹沢から以下の記録があるにすぎない。

ホンドハイロハナカミキリ *Rhagium femorale*

モミなどの針葉樹の立ち枯れや倒木につくが、県下での記録はごく少ない。

ヒラヤマコブハナカミキリ *Enoploderes bicolor*

丹沢では次の2例しか記録がないが、広く分布しているものと思われる。

フタコブルリハナカミキリ *Stenocorus caeruleipennis*

丹沢山麓では多産するが、いわゆる主稜部では比較的少なく、しかも特にオスで前胸の黒化傾向がめだつ。加入道山産のオスと畦ヶ丸山産のメスは鞘翅までが黒ずみ、一見するとクロジョウカイに似る。

モモグロハナカミキリ *Toxotinus reini*

県下ではあまり多くない。(神・減少種H)

キベリカタビロハナカミキリ *Pachyta erebia*

丹沢主稜部のみで記録されていたが、今回の調査で西丹沢でも記録された。

クビアカハナカミキリ *Gaurotes atripennis*

神奈川県では次の1例のみ。

カラカネハナカミキリ *Gaurotes doris*

ニセハムシハナカミキリ *Lemula japonica*

ブナ帯上部に生息する種で、丹沢に分布することは興味深い。

キバネニセハムシハナカミキリ *Lemula decipiens*

ピックニセハムシハナカミキリ *Lemula rufithorax*

県内では意外に少ない。丹沢ではブナ帯もしくは西丹沢で採集されている。

アカイロニセハムシハナカミキリ *Lemula nishimurai*

前種よりもさらに少ない。県内では北丹沢と東丹沢の低標高地でのみ記録されており、明らかに前種とは異所的な分布態を示す。

ヒナルリハナカミキリ *Dinoptera minuta*

チャイロヒメコブハナカミキリ *Pseudosieversia japonica**

神奈川県初記録種。オスはカツラの太木周辺の下草やカツラの下枝の葉上に静止しているものが多い。メスは根際の樹皮に隠れていて発見しにくい。雌雄ともたまに花へも集まる。

ホンガタヒメハナカミキリ *Pidonia semiobscura*

県内では丹沢のみに分布する。

マツシタヒメハナカミキリ *Pidonia matsushitai*

県内では丹沢のみに分布するが、個体数はきわめて少ないようで、次の2例が知られているにすぎない。

ツマグロヒメハナカミキリ *Pidonia maculithorax*

以前はカクムネヒメハナカミキリと呼ばれていた種。

フトエリマキヒメハナカミキリ *Pidonia himehana*

この種は以前、*P. mutata*ヒメハナカミキリと呼ばれていたものである。このグループはまだ未整理で、学名・和名ともどれを当てるかは問題があるが、とりあえずこの学名と和名を当てた。

ミヤマヒメハナカミキリ *Pidonia sylvicola*

県内では丹沢のみに分布するが、個体数はきわめて少ないようで、次の2例が知られているにすぎない。

ナガバヒメハナカミキリ *Pidonia signifera*

キベリクロヒメハナカミキリ *Pidonia discoidalis*

オオヒメハナカミキリ *Pidonia grallatrix*

ヨコモモンヒメハナカミキリ *Pidonia insuturata*

県内では丹沢からのみ記録されている。

ムネアカヨコモモンヒメハナカミキリ *Pidonia masakii*

県内では丹沢からのみ記録されている。

ニセヨコモモンヒメハナカミキリ *Pidonia simillima*

セズジヒメハナカミキリ *Pidonia amentata*

コトヒメハナカミキリ *Pidonia lyra*

丹沢を基準産地とする種類の1つ。いわゆる南部フォッサマグナ地区に固有的に分布する。

フジヒメハナカミキリ *Pidonia fujisana*

南部フォッサマグナ地区に固有的に分布する(ただし、箱根には分布しない)代表的な昆虫。今回の調査によって丹沢山地には広く分布することが明らかとなった。

チャイロヒメハナカミキリ *Pidonia aegrota*

フタオビノミハナカミキリ *Pidonia puziloi*

チビハナカミキリ *Alosterna chalybeella* *

県初記録種。低山帯から中山帯のモミ林を中心に生息している種で、以前から本県に分布していると予想されていた種であるが、今回ようやく記録された。

チャボハナカミキリ *Pseudalosterna misella*

本州のブナ帯では最も普通なハナカミキリの1つであるが、なぜか本県では記録が非常に少なかった。

ミヤマルリハナカミキリ *Kanekoa azumensis*

神奈川県では非常に珍しい種。

ミヤマクロハナカミキリ *Anoploderomorpha excavata*

丹沢での採集例は少ない。

ヘリグロホソハナカミキリ *Ohbayashia nigromarginata*

タンナサワフタギの立ち枯れに好んで集まる。また、ときどき花にも集まる。

ヘリウスハナカミキリ *Pyrrhona laeticolor*

タンナサワフタギの立ち枯れに好んで集まる。また、ときどき花にも集まる。

ヒゲブトハナカミキリ *Pachypidonia bodemeyeri*

今回の調査によって神奈川県から初めて記録された。非常に珍しい種と思われてきたが、近年各種広葉樹の樹洞に生息することが分かり、各地で発見されるようになった。堂平では次の記録のほか、シナノキやブナの樹洞でも得られている。

キヌツヤハナカミキリ *Corennys sericata*

ブナやモミ類の立ち枯れなどに集まる。

ヤマトキモンハナカミキリ *Judolia japonica*

県内での記録はごく少なく、丹沢では次の2例が知られるのみ。

マルガダハナカミキリ *Pachytodes cometes*

2000m級の山がある地域では最も優占な種だが、本県での記録は丹沢に限られ、しかも採集例は少ない。

ヌバタマハナカミキリ *Judolidia bangi*

一般的に少ない種で、飛翔中のものが採集される場合が多いが、花にも集まる。

ツヤケシハナカミキリ *Anastrangalia scotodes* (神・減少種H)

アカハナカミキリ *Corymbia succedanea*

ベニバハナカミキリ *Paranaspia anaspidoides*

丹沢初記録。ケヤキの樹洞にいるが、発生木の周辺の葉上や飛翔中のものが多い。稀にクリの花でも得られる。

ムネアカクロハナカミキリ *Leptura dimorpha*

近年県下では山地、平地とも少なくなった。(神・減少種H)

ヤツボシハナカミキリ *Leptura mimica*

山麓部ではいわゆるツマグロハナカミキリ型の個体であるが、主稜部ではほとんど全体が黒化した型であることはきわめて興味深い。(橋本・中山、1990)。ツマグロハナカミキリ型の個体を独立種とする考え方もあるが、その差は必ずしも明らかとは思われないので、ここでは同一種として扱った。

ヨツスジハナカミキリ *Leptura ochraceofasciata* (神・減少種H)

ヒメヨツスジハナカミキリ *Leptura kusamai*

県内からは次の1例が知られているにすぎない。

コヨツスジハナカミキリ *Leptura subtilis*

今回の調査で初めて西丹沢で記録された。

ハネビロハナカミキリ *Leptura latipennis*

丹沢初記録種。本州のブナ帯ではそれほど少ない種ではないが、県内での記録は他に津久井郡藤野町における1例があるにすぎない。

カタキハナカミキリ *Pedostrangalia femoralis*

県内での記録は少ない。(神・危惧種E)

フタスジハナカミキリ *Nakanea vicaria*

富士山や丹沢など南部フォッサマグナ地域では多少とも黒化した個体が多く、別亜種として区別されることもある。丹沢の個体は黒化の著しいものがほとんどであるが、基本型と差の少ない個体も現れる。

オオヨツスジハナカミキリ *Macroleptura regalis*

セアカハナカミキリ *Macroleptura thoracica*

今回の現地調査でも丹沢主稜部より確認することはできなかった。ブナ帯の上部に生息する種であり、次の記録はラベルミスの可能性が考えられる。

カエデノヘリグロハナカミキリ *Eustrangalia distenioides**

神奈川県初記録種。以前より神奈川県にも分布しているものと予想されていた種だが、ようやく筆者らの1人、木下により採集された。

ヒゲジロハナカミキリ *Japonostrangalia dentatipennis*

県内では少ない種。

アオバホソハナカミキリ *Strangalomorpha tenuis*

ジャコウホソハナカミキリ *Mimostrangalia dulcis*

全国的に分布しているが少なく、県内では稀。

タテジマホソハナカミキリ *Parastrangalis shikokensis*

県内では少ない。

ニンフホソハナカミキリ *Parastrangalis nymphula*

ニョウホウホソハナカミキリ *Parastrangalis lesnei*

ミヤマホソハナカミキリ *Idiostrangalia contracta*

県内では丹沢だけに分布する。

ハコネホソハナカミキリ *Idiostrangalia hakonensis*

ホソハナカミキリ *Leptostrangalia hosohana*

6.6.ホソコバナカミキリ亜科 *Necydalinae*

オオホソコバナカミキリ *Necydalis solida*

県内では丹沢だけに分布し、ブナ帯上部から記録されている。

クロホソコバナカミキリ *Necydalis harmandi*

トガリバナホソコバナカミキリ *Necydalis formosana*

6.7.カミキリ亜科 *Cerambycinae*

ミヤマカミキリ *Massicus raddei*

キマダラカミキリ *Aeolesthes chrysothrix*

マルクビケマダラカミキリ *Trichoferus campestris*

丹沢初記録。(神・減少種H)

トビイロカミキリ *Allotraeus sphaerioninus*

ヨツボシカミキリ *Stenygrinum quadrinotatum*

1980年代以降は全国的に珍しい種となってしまった。減少した理由は不明。丹沢でも最近の採集例はないようである。(神・危惧種F)

アメイロカミキリ *Stenodryas clavigera*

テツイロヒメカミキリ *Ceresium sinicum*

丹沢初記録。平野部では近年多産するが、山地部での記録は珍しい。

カッコウメダカカミキリ *Stenhomalus cleroides*

トワダムモンメダカカミキリ *Stenhomalus lighti*

キイロメダカカミキリ *Stenhomalus nagaoi* *

県初記録種。近隣では伊豆半島、千葉県清澄山塊、茨城県水府村で記録があり、本県にも分布するのではないかと期待されていた。

タカオメダカカミキリ *Stenhomalus takaosanus*

今回ブナの枯れ枝より羽化脱出したが、県内での記録は稀のようである。

ホソツヤヒゲナガコバネカミキリ *Glaphyra nitida*

神奈川県では津久井郡からのみ記録されており、丹沢からは次の1例が発表されているにすぎない。

オダヒゲナガコバネカミキリ *Glaphyra gracilis*

コジマヒゲナガコバネカミキリ *Glaphyra kojimai*

コボトケヒゲナガコバネカミキリ *Glaphyra kobotokensis*

丹沢初記録。かなり古い採集例だが、丹沢山地からの記録は他にないため採録した。

県内ではこれまで津久井地方と厚木市北部だけから知られていたにすぎない。

ホタルカミキリ *Dere thoracica* (神・減少種H)

トラフホソバネカミキリ *Thranium variegatus*

クスベネカミキリ *Pyrestes nipponicus*

丹沢では意外に採集例が少ないようで、次の3例が知られるのみ。

ルリボシカミキリ *Rosalia batesi*

県内では丹沢山地から津久井地方にかけて分布するが、箱根からは記録がない。最近になって分布を拡大している種の1つのように、少なくとも南関東では採集例が増加しており、丹沢でも確実に増加傾向にあるように思える。

ミドリカミキリ *Chloridolum viride* (神・減少種H)

オオアオカミキリ *Chloridolum thaliodes*

県内では次の記録がある。ただこれには具体的なデータがなく、追加記録が望まれる。

アオカミキリ *Schwarzerium quadricolle*

県内には広く分布していると思われるが、採集例は意外に少ない。丹沢としては次の3例が知られるのみだが、高桑は1995年に伊勢原市善波で本種多数に被害されていると思われるイタヤカエデを確認している。

ヘリグロベネカミキリ *Purpuricenus spectabilis*

ベネカミキリ *Purpuricenus temminckii*

ヒメスギカミキリ *Palaeocallidium rufipenne*

スギカミキリ *Semanotus japonicus*

チャイロホソヒラタカミキリ *Phymatodes testaceus*

コナラを主体にしたいわゆる里山に好んで生息しているが、神奈川県にはこのような環境が少ないためか、採集例は比較的少ないようである。(神・減少種H)

アカネカミキリ *Phymatodes maaki*

本州のブナ帯には普通な種だが、県内での記録は少ない。

シロオビチビヒラタカミキリ *Phymatodes albicinctus*

本州のブナ帯には少ないものではないが、丹沢では次の1例が知られるにすぎない。

オオトラカミキリ *Xylotrechus villioni*

丹沢の標高300~600m程度のモミのあるようなところには広く分布していると思われるが、個体数は少ないようである。次の記録のうち前者は幼虫食害痕に基づくものである。

また、厚木市広沢寺での未発表標本もある。

トラフカミキリ *Xylotrechus chinensis*

丹沢では次の3例が知られるのみ。山地での記録は珍しい。

ニイジマトラカミキリ *Xylotrechus emaciatius*

ウスイロトラカミキリ *Xylotrechus cuneipennis* (神・減少種H)

ブドウトラカミキリ *Xylotrechus pyrrhoderus*

丹沢では次の1例が記録されているにすぎない。(神・減少種H)

アカネトラカミキリ *Brachyclytus singularis*

本州のブナ帯には比較的普通な種であるが、丹沢での個体数はきわめて少ないようである。

(神・減少種H)

キスジトラカミキリ *Cyrtoclytus caproides*

シラケトラカミキリ *Clytus melaenus*

本州のブナ帯には普通な種であるが、丹沢での個体数は少ないようである。

キンケトラカミキリ *Clytus auripilis*

ヤマシロオビトラカミキリ *Kazuoclytus lautoides*

丹沢では次の2か所のみから記録されている。

ヨコヤマトラカミキリ *Epiclytus yokoyamai*

エグリトラカミキリ *Chlorophorus japonicus*

クロトラカミキリ *Chlorophorus diadema*

神奈川県での採集例は少ないが、丹沢山麓部には広く分布していることが予想される。

(神・減少種G)

タケトラカミキリ *Chlorophorus annularis*

ヨツスジトラカミキリ *Chlorophorus quinquefasciatus*

県内には海岸沿いに普通に分布するが、丹沢では次の1例が知られるのみ。偶産と考えた方が妥当かもしれない。

フタオビミドリトラカミキリ *Chlorophorus muscosus*

海岸沿いに多い種で、丹沢では西丹沢でのみ記録されている。

ホソトラカミキリ *Rhaphuma xenisca* (神・減少種H)

ヒメクロトラカミキリ *Rhaphuma diminuta*

カンボウトラカミキリ *Hayashiclytus acutivittis*

神奈川県内からは次の1例が知られるのみ。

キイロトラカミキリ *Grammographus notabilis*

県内では最近個体数が少なくなったようで、今回の現地調査では発見できなかった。(神・減少種H)

トゲヒゲトラカミキリ *Demonax transilis*

シロトラカミキリ *Paraclytus excultus*

スギノアカネトラカミキリ *Anaglyptus subfasciatus*

丹沢では次の1例しか知られていないが、実際には山麓部に広く分布するものであろう。東京農大一高(1969)による南丹沢皆瀬川の記録は次種の誤りと思われるので、ここでは採用しない。

トガリバアカネトラカミキリ *Anaglyptus nipponensis*

アカジマトラカミキリ *Anaglyptus bellus*

ケヤキの枯死部につくが、県下での記録は少ない。

エゾトラカミキリ *Oligoenoplus rosti* *

県初記録種。本種は中部地方以北ではブナ帯上部かシラビソ帯に生息するので、丹沢からの発見は驚異的であった。

6.8.フトカミキリ亜科 *Lamiinae*

シロオビゴマフカミキリ *Falsomesosella gracilior*

ヨソボシシロオビゴマフカミキリ *Mesosa mediofasciata*

丹沢新記録。札掛周辺のモミに寄生しているが、個体数はごく少ない。

ゴマフカミキリ *Mesosa japonica* (神・減少種G)

カタジロゴマフカミキリ *Mesosa hirsta*

ナガゴマフカミキリ *Mesosa longipennis*

タテスジゴマフカミキリ *Mesosa senilis*

シナノクロフカミキリ *Asaperda agapanthina*

キクスイモドキカミキリ *Asaperda rufipes*

本州のブナ帯やシイ・カシ帯に少なくないが、なぜか丹沢での採集例は多くない。

コブスジサビカミキリ *Atimura japonica*

クビジロカミキリ *Xylariopsis mimica*

ツルウメモドキに寄生する。

ヒシカミキリ *Microlera ptinoides*

キボシチビカミキリ *Sybra flavomaculata*

ヒトオビチビカミキリ *Sybra unifasciata*

丹沢では誘引トラップで捕獲された次の1例が知られるにすぎない。

シロオビチビカミキリ *Sybra subfasciata*

タテジマカミキリ *Aulaconotus pachypezoides*

丹沢での従来の記録は次の2例にすぎないが、高桑は1992年に厚木市飯山白山でも

本種に加害されたカクレミノ数本を見ている。

ハスオビヒゲナガカミキリ *Cleptomtopus bimaculatus*

ドウボソカミキリ *Pseudocalamobius japonicus*(神・減少種H)

ニイジマチビカミキリ *Egesina bifasciana*

ヒメナガサビカミキリ *Pterolophia leiopodina*

なぜか神奈川県内では記録が少ない種である。

マルモンサビカミキリ *Pterolophia angusta*

神奈川県内では次の1例しか知られていないが、丹沢山地には広く分布しているものと思われる。

アトジロサビカミキリ *Pterolophia zonata*

クリサビカミキリ *Pterolophia castaneivora*

エゾサビカミキリ *Pterolophia tsurugiana*

この属では丹沢のブナ帯で最も普通に見かける種。

トガリシロオビサビカミキリ *Pterolophia caudata*

アトモンサビカミキリ *Pterolophia granulata*

ナカジロサビカミキリ *Pterolophia jugosa*

ワモンサビカミキリ *Pterolophia annulata*

暖地に多い種で、丹沢での記録は次の2例のみ。

クワサビカミキリ *Mesosella simiola*

丹沢では少ない。

ハイイロヤハズカミキリ *Niphona furcata*

暖地に多い種で、丹沢での記録は次の1例のみ。

セダカコブヤハズカミキリ *Parechthistatus gibber*

丹沢ではブナ帯を中心に広く分布するが、仏果山地からは未発見である。

フジコブヤハズカミキリ *Mesechthistatus fujiisanus*

丹沢では前種より高標高地に分布し、(平井, 1991)採集例もより少ない。

イタヤカミキリ *Mecynippus pubicornis*

ヤナギ類やヤマハンノキなどに寄生するが少ない。県内では衰退の著しい種であり、今回の調査では次の1例が確認されたにすぎない。(神・危惧種F)

ヒゲナガカミキリ *Monochamus grandis*

マツノマダラカミキリ *Monochamus alternatus*(神・減少種H)

ヒメヒゲナガカミキリ *Monochamus subfasciatus*

ゴマダラカミキリ *Anoplophora malasiaca*

センノキカミキリ *Acalolepta luxuriosa*(神・減少種H)

ビロウドカミキリ *Acalolepta fraudatrix*

ニセビロウドカミキリ *Acalolepta sejuncta*

チャイロヒゲビロウドカミキリ *Acalolepta kusamai*

神奈川県内の低地には広く分布するが、丹沢での記録はまれ。高桑は1995年に厚木市七沢と伊勢原市善波で本種の幼虫に被害されたニワトコを確認している。

ヤハズカミキリ *Uraecha bimaculata*

ゴマフキマダラカミキリ *Annamanum griseolum*

キボシカミキリ *Psacotheta hilaris*

丹沢の周辺部には広く分布するが、内部での採集例は東丹沢札掛における記録が見られるのみ。

ヨコヤマヒゲナガカミキリ *Dolicoprosopus yokoyamai*

ブナやイヌブナを寄主植物とするが、本県では次の2例の記録があるのみ。

チャボヒゲナガカミキリ *Xenicotela pardalina*

クリイロシラホシカミキリ *Nanohammus rufescens* *

県初記録種。通常ミズナラの薪やミズナラの大木の樹幹を這っているものが得られるが、堂平ではミズナラはないので、別の樹種を食害していると思われる。今回の記録はサワグルミとシオジの樹幹を這っていたものが得られた。分布的に予想外の記録であった。

クワカミキリ *Apriona japonica*

シロスジカミキリ *Batocera lineolata*

ヒゲナガゴマフカミキリ *Palimna liturata*

ブナの衰弱木に見られるが、丹沢での個体数は少ない。

セミスジコブヒゲカミキリ *Rhodopina lewisii*

丹沢初記録。山地にも生息する種だが、なぜか神奈川県では丹沢地域からは記録がなかった。(神・減少種G)

ヒトオビアラゲカミキリ *Rhopaloscelis unifasciatus*

フタモンアラゲカミキリ *Rhopaloscelis maculatus*

フタオビアラゲカミキリ *Rhopaloscelis bifasciatus*

ジュウジクロカミキリ *Clitosemia pulchra*

他県ではそれほど珍しい種ではないが、本県の記録はごく少ない。

クモノスモンサビカミキリ *Graphidessa venata*

ミズキの枯れ枝に見られる。

カッコウカミキリ *Miccolamia cleroides*

チビコブカミキリ *Miccolamia verrucosa*

平地ではキブシ、ミズキに多いが、やや山間部になるとヤマハンノキによく見られる。

シロチビコブカミキリ *Miccolamia palurae*

タンナサワフタギを固有的に寄主植物とする。

シナノキチビコブカミキリ(仮称) *Miccolamia* sp. *

県初記録種。シナノキの比較的新しい細い枯れ枝より得られるが少ない。富士山(山梨県側)では十数年前から存在が知られていた種だが、今回の調査で丹沢にも分布していることが確認された。この種はチビコブカミキリ類としては大型で、翅鞘の両側は平行で細長く、色は黒くて光沢があるのが特徴である。

ハイイロツツクビカミキリ *Cylindilla* *grisescens*

ドイカミキリ *Mimectatina* *divaricata*

オニグルミを寄主植物とするが、県内での記録は意外に少ない。

ホソヒゲケブカカミキリ *Eupogoniopsis* *tenuicornis*

丹沢のブナ帯では優占なカミキリの1つ。

ネジロカミキリ *Pogonocherus* *seminiveus*

タラ、センノキなどのウコギ科の枯れ枝につくが、県内の記録は意外に少ない。(神・減少種H)

ゴイシモモトカミキリ *Callapoecus* *guttatus*

ヒゲナガモモトカミキリ *Acanthocinus* *griseus*

県内では全体的に減少しているように思える種。丹沢での記録は少ない。

ゴマダラモモトカミキリ *Leiopus* *stillatus*(神・減少種H)

ミヤマモモトカミキリ *Leiopus* *montanus* *

県初記録種。本種は通常標高1200m以上の地域のモミ、コメツガ、トウヒなどの針葉樹の枯れ枝より得られるが、丹沢では標高450~500mという低標高にも生息しているのは意外であった。草間・高桑(1984)に図示された蛭ヶ岳産のゴマダラモモトカミキリは、実は本種のことである。

トゲバカミキリ *Rondibilis* *saperdina*

ホウノキトゲバカミキリ *Rondibilis* *sapporensis*

ホウノキに寄生するが少ない。県内の記録は数例にすぎない。

キッコウモンケンカミキリ *Exocentrus* *testudineus*

ガロアケンカミキリ *Exocentrus* *galloisi*

アトモンマルケンカミキリ *Exocentrus* *lineatus*

クモガタケンカミキリ *Exocentrus* *fasciolatus*

丹沢では次の1例しか記録がないが、県内の低地には普通。

シラオビゴマフケンカミキリ *Exocentrus* *guttulatus*

丹沢初記録。主に平野部に生息しているが、神奈川県ではやや少ない。

ブナケンカミキリ(仮称) *Exocentrus* sp. *

県初記録種。ブナの細い枯れ枝より発生する。東京都高尾山のイヌブナやブナの細枝から羽化脱出することは、かなり古くから知られていたが、今回丹沢にも分布することが確

認された。本種は一見キッコウモンケシとアトモンマルケシの中間のような模様を具え、西日本に分布しているミヤマケシカミキリに似た感じのものである。形態的にはまだよく調べていないが、既知の種類とは異なるものと思われる。

ケシカミキリ *Sciades tonsus*

ムネモンヤツボシカミキリ *Saperda tetrastigma*

丹沢初記録。サルナシの枯れヅルに寄生するが少ない。

ブロイニングカミキリ *Saperda ohbayashii*

全国的にあまり多くない。

ヤツメカミキリ *Eutetrappa ocelota*

平野部ではやや普通に見かけるが丹沢では少ない。

ハンノアオカミキリ *Eutetrappa chrysochloris*

本州の山地では普通の種類だが、県下では稀。

フチグロヤツボシカミキリ *Pareutetrappa eximia*

次の記録のほか、愛川町志田山など(荻部ほか, 1996)でも記録されており、丹沢山地の山麓部には広く分布している可能性がある。高桑は1995年に西丹沢西沢～畦ヶ丸山で、数本のホオノキ葉より本種のものと思われる後食後を確認している。

ニセシラホシカミキリ *Pareutetrappa simulans*

丹沢での記録は次の3例のみ。

ハンノキカミキリ *Cagosima sanguinolenta*

近年神奈川県下ではすべての地域で少なくなった。(神・危惧種F)

アサカミキリ *Thyestilla gebleri*

1980年代初め頃までは箱根仙石原に生息していたが、ここ10数年記録がまったくなく、神奈川県では絶滅したものと見なされている。丹沢からの記録は次の1例のみ。(神・絶滅種C)

ラミーカミキリ *Paraglenea fortunei*

1960年代以降丹沢に侵入し、丹沢山地一帯に分布を広げたと考えられる種類で、現在は山麓部を中心に広く分布しているようであり、個体数も多い。

ヒゲナガヒメルリカミキリ *Praolia citrinipes*

キモンカミキリ *Menesia sulphurata*

本州のブナ帯には普通に見かける種類であるが、なぜか丹沢での発見例は少ない。

オニグルミノキモンカミキリ *Menesia flavotecta*

ジュウニキボシカミキリ *Paramenesia theaphia*

シラホシカミキリ *Glenea relictata*

シラホシキクスイカミキリ *Eumecocera gleneoides*

神奈川県では丹沢のみに記録がある。

セミスジニセリンゴカミキリ *Eumecocera trivittata*

県内での記録は非常に少ない。

ヒゲナガシラホシカミキリ *Eumecocera argyrosticta*

クロニセリンゴカミキリ *Eumecocera unicolor*

県内での記録は丹沢のみ。

カツラカミキリ *Niponostenostola niponensis*

クロキクスイカミキリ *Stenostola nigerrima*

タイプ標本(基準産地:日光中禅寺)以外には丹沢山の1個体の標本(以下の3記録はいずれも同一標本に基づいたもの)があるのみ。ただし、筆者らの1人、高桑が考える限りでは丹沢から得られた個体は、本種ではない可能性が強い。

キクスイカミキリ *Phytoecia rufiventris*

ヨツキボシカミキリ *Epiglenea comes*

ヘリグロリンゴカミキリ *Nupserha marginella*

ヒメリンゴカミキリ *Oberea hebescens*

リンゴカミキリ *Oberea japonica*

ソボリンゴカミキリ *Oberea sobosana*

丹沢初記録。次の採集例のうち、中山採集の個体は一見ヒメリンゴカミキリに、また荊部採集の個体はリンゴカミキリにそれぞれ似ている。

シラハタリンゴカミキリ *Oberea shirahatai*

スイカズラを寄主植物とし、山麓部には広く分布しているものと思われる。

ホソキリンゴカミキリ *Oberea infranigrescens*

ホソツツリンゴカミキリ *Oberea nigriventris*

丹沢初記録。

ルリカミキリ *Bacchisa fortunei*

丹沢初記録。次の記録のほか、高桑は1994、1995年に東丹沢広沢寺の民家内において、本種の幼虫に加害されたバラ科樹木1本を確認している。

6.9.疑問種

次の4種は丹沢山地から記録があるが、誤同定に基づくものと判断される(高桑, 1979)。

カラフトヒゲナガカミキリ

シラフヒゲナガカミキリ

ヒメアヤモンチビカミキリ

クリイロチビケブカカミキリ

7.ゾウムシ類

7.1.ゾウムシ上科

7.1.1.ヒゲナガゾウムシ科 Anthribidae

触角が長いものがあるため、ヒゲナガゾウムシと名付けられたが、ほとんどの種は短い。熱帯地方には巨大な種もいるが、日本産は大きなものは少なく、5mm以下のものが多い。おもに枯れ木やキノコなどに見られるが、木の実やカイガラムシに寄生する種もある。日本では170種ほどの記録があるが、微小種を含めて未記録種もかなりある。神奈川県では47種の報告があり、丹沢産は43種確認できた。

7.1.2.ノミヒゲナガゾウムシ亜科 Choraginae

クロオビヒゲナガゾウムシ *Apolecta lewisii*

やや大型の種で触角が長く特にみはカミキリのように長い。山地の枯れ木に多く見られる。

ケチビヒョウタンヒゲナガゾウムシ *Notioxenus wollastoni*

山地の枯枝などにかなり見られる。

ハイマダラカギバラヒゲナガゾウムシ *Xanthoderopygus jocosus*

山地の枯れ木や朽木をたたくと落ちてくる。この属にも何種か同定できないものがある。

アカアシヒゲナガゾウムシ *Araecerus tarsalis*

小型のヒゲナガゾウムシではもっとも多い種で、各地に普通である。

ゴマノミヒゲナガゾウムシ *Choragus cissoides*

この属は微小のものが多く同定が難しい。いくつかの未記録種がある。

キンヘリノミヒゲナガゾウムシ *Choragus compactus*

枯れ枝などに見られるが、多くない。

ムネアカノミヒゲナガゾウムシ *Choragus cryphaloides*

平地から山地にかけてかなり見られる。

シバンガタノミヒゲナガゾウムシ *Choragus anobioides*

大山が基準産地の種で、記録は少ないが、かなりいることがわかった。

7.1.3.ヒゲナガゾウムシ亜科 Anthribinae

タマカイガラヒゲナガゾウムシ *Anthribus kuwanai*

タマカイガラムシなどに寄生する種で、記録は少ない。

イボタロウヒゲナガゾウムシ *Anthribus niveovariegatus*

イボタロウムシ、トウヒタマカイガラモドキなどに寄生する種で、あまり多くない。

マダラヒゲナガゾウムシ *Opanthribus tessellatus*

微小種だが、各地に多い。

キノコヒゲナガゾウムシ *Euparius oculatus oculatus*

多孔菌に多い種で、通常、褐色に小さな黒紋があるが、全体が真っ黒の個体も見られる。

平地に多いようで、冬でも活動している。

ウスモンツツヒゲナガゾウムシ *Ozotomerus japonicus*

灯下にしばしば飛来する。

シロヒゲナガゾウムシ *Platystomos sellatus*

やや大型の種で、♂は触角が長い。朽木などに見られる

セマルヒゲナガゾウムシ *Phloeobius gibbosus*

多くはない。

ササセマルヒゲナガゾウムシ *Phloeobius stenus*

枯れた竹やササに見られるが、少ない。冬季、枯れたメダケを割ると成虫や幼虫が潜んでいるのを観察出来る。

マダラフトヒゲナガゾウムシ *Basitropis nitidicutis*

山地の朽木などにかなり見られる。

オオマダラヒゲナガゾウムシ *Sympaector rugirostris*

大型の種だが、少ない。

シリジロヒゲナガゾウムシ *Androcera flavellicorne*

あまり多くはない。

チャマダラヒゲナガゾウムシ *Acorynus latirostris*

山地に多く見られる。

カオジロヒゲナガゾウムシ *Sphinctotropis laxus*

ヒゲナガゾウの仲間ではもっとも多い普通種である。

コモンマダラヒゲナガゾウムシ *Litocerus multiguttatus*

山地にかなり見られる。

アカミヒゲナガゾウムシ *Litocerus securus*

キマダラヒゲナガゾウムシ *Tropideres naevulus*

各地にもっとも普通に見られる。

クロフヒゲナガゾウムシ *Tropideres roelofsi*

山地に普通に見られる。

スネアカヒゲナガゾウムシ *Autotropis distinguenda*

小型のヒゲナガゾウムシではもっとも多い種で、各地に普通である。

エグリバネヒゲナガゾウムシ *Autotropis basipennis*

今までの記録は少ないが、それほど稀な種ではない。

タテスジヒメヒゲナガゾウムシ *Rhaphitropis japonica*

コモンヒメヒゲナガゾウムシ *Rhaphitropis guttifer guttifer*

この属ではもっとも普通で、各地に多い。

クロヒメヒゲナガゾウムシ *Rhaphitropis nigra*

かなり稀な種と思われる。

キアシチビヒゲナガゾウムシ *Uncifer pectoralis*

ウスグロチビヒゲナガゾウムシ *Uncifer truncatus*

各地に普通に見られる。

ムモンチビヒゲナガゾウムシ *Uncifer difficilis*

前種よりかなり少ない。

エグリコブヒゲナガゾウムシ *Gibber incisus*

あまり多くない。

クチブトコブヒゲナガゾウムシ *Gibber brevisrostris*

クロホシメナガヒゲナガゾウムシ *Phaulimia aberrans*

あまり多くない種である。

アカネメナガヒゲナガゾウムシ *Phaulimia rufobasis*

箱根台ヶ岳の報告があり、山梨県などでも得られているが、珍しいものである。

クロメナガヒゲナガゾウムシ *Ulorhinus funebris*

キスジヒゲナガゾウムシ *Aphaulimia debilis*

各地によく見られる種である。色彩はかなり変化する。

ツツケナガヒゲナガゾウムシ *Habrissus cylindricus*

大山が基準産地で、かなり珍しいものである。

シロマダラネブヒゲナガゾウムシ *Habrissus pardalis*

本種も少ない種である。

ネブヒゲナガゾウムシ *Habrissus unciferoides*

あまり多くない。

ナガアシヒゲナガゾウムシ *Habrissus longipes*

この属ではもっとも多い種で、枯れ木などによく見られる。

7.1.4. オトシブミ科 *Attelabidae*

すべて食植性の甲虫で、オトシブミ亜科のものは葉を巻き産卵する習性があり、それが地上に落下するのを「落し文」と呼んだことに由来する。なお、チョッキリゾウムシ亜科のものは独立した科とする場合もある。日本から85種ほどの記録があり、県内からは57種の報告がある。丹沢からは47種の生息を確認できた。

7.1.5. オトシブミ亜科 *Attelabinae*

ゴマダラオトシブミ *Paroplapoderus pardalis*

ナラ、クヌギ、クリなどの葉をまく。多くはない。

ヒメゴマダラオトシブミ *Paroplapoderus vanvolxemi*

エノキ、オヒョウなどに見られる。

ヒメコブオトシブミ *Phymatapoderus pavens*

- コアカソ、カラムシなどの葉を直線状に切る。各地に普通。
- オトシブミ *Apoderus jekelii*
ナラ、ハンノキ、などの葉をまく。
- ムツモンオトシブミ *Apoderus praecellens*
基準産地は大山と日光であるが、県内の記録は少ない。
- ウスモンオトシブミ *Apoderus balteatus*
ゴンスイの葉を切る。各地に多い普通種。
- ウスアカオトシブミ *Apoderus rubidius*
リョウブ、ウツギなどに多く見られる。
- ヒメクロオトシブミ *Apoderus erythrogaster*
もっとも多い普通種で、各地に多い。
- セアカヒメオトシブミ *Apoderus geminus*
ヤナギ類などの葉を切る。各地に見られる。
- エゴツルクビオトシブミ *Cycnotrachelus roelofsi*
エゴノキの葉を切る普通種。
- ヒゲナガオトシブミ *Paracycnotrachelus longicornis*
コブシ、カナクギノキ、イタドリなど各種の葉を巻く。各地に多い普通種。
- アシナガオトシブミ *Phialodes rufipennis*
コナラ、カシなどの葉を巻く。多くない。
- リュイスアシナガオトシブミ *Henicolabus lewisii*
- ピロウドアシナガオトシブミ *Himatolabus cupreus*
渋い美しさがある種で、多くない。
- コブルリオトシブミ *Euops pustulosus*
あまり多くない種である。
- ナラルリオトシブミ *Euops konoii*
- ケシルリオトシブミ *Euops politus*
低山から山地に多い。
- カシルリオトシブミ *Euops splendidus*
カシ、フジ、タデなどに極めて覆い普通種である。
- ルリオトシブミ *Euops punctatostriatus*
コナラ、カエデ、イタドリなどに見られる。

7.1.6.チヨッキリゾウムシ亜科 Rhynchitinae

- チャイロケシツブチヨッキリ *Auletobius fumigatus*
多くない。
- ヒメクロケシツブチヨッキリ *Auletobius puberulus*

少ない種である。

モンケシツブチョッキリ *Auletobius submaculatus*

あまり多くない。

クロケシツブチョッキリ *Auletobius uniformis*

バラ、クヌギ、サルスベリなど多くの植物につき、各地に多い。

ドロハマキチョッキリ *Byctiscus puberulus*

金緑色に輝く美麗種で、イタドリ、ドロノキ、カエデなどに見られる

ファウストハマキチョッキリ *Byctiscus fausti*

コナラ、サクラなどを巻き、各地に多い。

イタヤハマキチョッキリ *Byctiscus venustus*

カエデ類の葉を集めて巻く。

ブドウハマキチョッキリ *Byctiscus lacunipennis*

ブドウ類の葉を巻く。

チャイロチョッキリ *Aderorhinus crioceroides*

クヌギなどに見られるが、少ない。

ルリホソチョッキリ *Eugnamptus amurensis*

ヤシヤブシ、クルミなどに見られる普通種。

クチプトチョッキリ *Lasiorhynchites brevirostris*

カシワ、クヌギなどに見られるが、多くない。

カシルリチョッキリ *Notocyrtus assimilis*

カシ、ナラ、モモなどに見られる普通種である。

コルリチョッキリ *Involvulus apertus*

チビケブカチョッキリ *Involvulus apionoides*

寄生植物はメギで、かなり少ない稀種である。

マダラケブカチョッキリ *Involvulus singularis*

クチナガチョッキリ *Involvulus plumbeus*

ヒメケブカチョッキリ *Involvulus pilosus*

この仲間ではもっとも多い普通種である。

ツツムネチョッキリ *Involvulus cylindricollis*

蛭ヶ岳の記録はウメチョッキリとしてのもの。

ハイイロチョッキリ *Mechoris ursulus*

やや大型の種で、コナラの実に産卵するという。

シリプトチョッキリ *Chokkirius truncatus*

カエデ類に多く見られる。

マルムネチョッキリ *Chonostropheus chujoi*

あまり多くない。

コナライクビチョッキリ *Deporaus unicolor*

この属ではもっとも多い種である。ナラ、イシなどの葉を切る。

オオメイクビチョッキリ *Deporaus hartmanni*

かなり少ない種である。

ミヤマイクビチョッキリ *Deporaus nidificus*

少ない。

ルリイクビチョッキリ *Deporaus mannerheimi*

カシ、シイ、ヤシヤブシなどの葉を切る。平地に多い。

キアシイクビチョッキリ *Deporaus fuscipennis*

最近記載された種で、箱根にも記録がある。少ないものと思われる。

ヤドカリチョッキリ *Paradeporaus depressus*

ハマキチョッキリ類のゆりかご中に産卵する興味深い生態をもっている。少ない種である。

7.1.7. ミツギリゾウムシ科 *Brentidae*

細長い体型で、変化に富んだ面白い形態をしており、興味深い甲虫である。おもに朽木や枯れ木に見られるが、花上にも集まる。日本では28種記録されているが、県内ではたったの2種のみである。

7.1.8. ミツギリゾウムシ亜科 *Brentinae*

クロツツホソミツギリゾウムシ *Callipareius kojimai*

丹沢が基準産地であるが、その後、採集されたことはない。

ムツモンミツギリゾウムシ *Pseudorychodes insignis*

ミツギリゾウムシの仲間では最も多い種だが、県内での報告は少ない。

7.1.9. ホソクチゾウムシ科 *Apionidae*

小さなゾウムシで、湿地や草原に多く、いずれも食植性である。日本からは30種ほどの記録があるが、未記載種がかなりあるらしい。県内では20種報告されており、丹沢からは9種しか生息を確認できなかった。少ない原因は丹沢には草地や湿地が少ないためと思われる。

7.1.10. ホソクチゾウムシ亜科 *Apioninae*

マメホソクチゾウムシ *Apion collare*

アズキ、ヤブマメなどに見られる。

アカクチホソクチゾウムシ *Apion pallidirostre*

その名のごとく吻の先が黄褐色のわかりやすい種で、各地に普通に見られる。

サキプトホソクチゾウムシ *Apion pachyrrhynchum*

吻が基部から先端へ太くなり、特にみでは顕著である。クサフジにつくが、少ない種らし

く、次の1例しか記録がない。

コゲチャホソクチゾウムシ *Apion semisericeum*

各地に見られる。

セアカホソクチゾウムシ *Apion sulcirostre*

上翅が赤いので、わかりやすい種である。一般的には少なく、やや山地の草原に見られる。

ヒゲナガホソクチゾウムシ *Apion placidum*

この属ではもっとも多い種で、各地に普通である。

ヒレルホソクチゾウムシ *Apion hilleri*

ウツギなどに見られる種である。

7.1.11.チビゾウムシ亜科 *Nanophyinae*

モンチビゾウムシ *Nanophyes pallipes*

ウスイロチビゾウムシ *Nanophyes usuironis*

7.1.12.ゾウムシ科 *Curculionidae*

ゾウムシは象鼻虫と書き、口吻が象の鼻のように長いことに由来する。しかし口吻の短いものもあり、これを短吻類と呼ぶこともある。世界で5万種以上もいる大きなグループで、日本では600種ほどの記録があるが、恐らく1000種近くの種が生息していると思われる。いずれも食植性で、樹上、葉上、朽木、落葉下、石下などに見られる。神奈川県では310種の記録があったが、今回の調査で、新記録として11種追加された。丹沢では、204種の生息が確認できた。

7.1.13.クチブトゾウムシ亜科 *Otiorhynchinae*

リンゴコフキゾウムシ *Phyllobius armatus*

この仲間は、やや大型の金緑色に輝く美しい種が多く、色彩変化があり、色だけでは同定を誤ることがある。本種は各地にかなり見られるが、多くはない。

ミヤマヒゲホソゾウムシ *Phyllobius annectens*

やや少ない種。

リンゴヒゲナガゾウムシ *Phyllobius longicornis*

やや多い種で、各地に見られる。

アオヒゲボソゾウムシ *Phyllobius prolongatus*

平地から山地にかけて普通である。

ハダカヒゲボソゾウムシ *Phyllobius subnudus*

この属ではもっとも多い種で、しばしば毛がとれて真っ黒になった個体も見られる。

コブヒゲボソゾウムシ *Phyllobius picipes*

本種も各地に多い普通種。

ヒラズネヒゲボソゾウムシ *Phyllobius intrusus*

- 平地に多い。
- コヒゲボソゾウムシ *Phyllobius brevitarsis*
少ない種で、次の記録しかない。同定誤りの可能性もある。
- ウスイロヒゲボソゾウムシ *Phyllobius mundus*
各地に普通である。
- ツチイロヒゲボソゾウムシ *Phyllobius incomptus*
色彩などが異なるが、前種と同じ種である可能性が高い。
- カシワクチブトゾウムシ *Myllocerus griseus*
クチブトゾウムシの間ではもっとも多い種である。
- トゲアシゾウムシ *Anosimus decoratus*
各地に見られるが、それほど多くはない。
- コカシワクチブトゾウムシ *Macrocorynus griseoides*
あまり多くない。
- ヒレルクチブトゾウムシ *Oedophrys hilleri*
平地に多い種。丹沢での記録は少ない。
- チビアオゾウムシ *Hyperstylus pallipes*
あまり多くない。
- クリイロクチブトゾウムシ *Cyrtapistomus cataneus*
あまり多くない。
- サビクチブトゾウムシ *Canoixus japonicus*
多くはない。
- ケブカヒメカタゾウムシ *Arrhaphogaster pilosa*
各地に見られる普通種。
- シロコブゾウムシ *Episomus turritus*
大型の種で、ハギ、フジなどのマメ科植物に普通である。
- ヒメシロコブゾウムシ *Dermatoxenus caesicollis*
本種も大型の普通種で、各地のタラノキやウド類に多い。
- フキヒョウタンゾウムシ *Catapionus modestus*
山地に見られるが、多くはない。
- キアシチビアオゾウムシ *Scythropus japonicus*
草原などに見られる種だが、県内では珍しい。
- スグリゾウムシ *Pseudocneorhinus bifasciatus*
落葉下などに普通に見られる。
- カキゾウムシ *Pseudocneorhinus obesus*
少ない種である。

サビヒョウタンゾウムシ *Scepticus griseus*

畑や荒地など地上を這い回っていて、各地に多い。

クワヒョウタンゾウムシ *Scepticus insularis*

オオアオゾウムシ *Chlorophanus grandis*

大型の美麗種だが、県内では少ない。

7.1.14.チビコフキゾウムシ亜科 *Sitoninae*

コフキゾウムシ *Eugnathus distinctus*

クズの葉上などに極めておおくみられる。

ケチビコフキゾウムシ *Sitona hispidulus*

あまり多くない。

アムールチビコフキゾウムシ *Sitona amurensis*

草原に見られるが、県内の記録は少ない。

7.1.15.タコゾウムシ亜科 *Hyperinae*

ヤサイゾウムシ *Listroderes costirostris*

ブラジル原産で、日本では♀だけで単為生殖する。畑や荒地に多い普通種である。

オオタコゾウムシ *Hypera punctata*

本種も移入種で、外国ではクローバーなどのマメ科牧草の害虫として知られているもので、我が国では、1978年、横浜市で発見されたのが最初で、神奈川県全域に広まったようである。現在では関東地方から東北地方にかけて分布をひろげているという。

オオミスジマルゾウムシ *Phaeopholus major*

7.1.16.サビマルクチゾウムシ亜科 *Galloisiinae*

サビマルクチゾウムシ *Galloisia inflata*

少ない種である。

7.1.17.カツオゾウムシ亜科 *Cleoninae*

カツオゾウムシ *Lixus impressiventris*

各地に見られる。

ハスジカツオゾウムシ *Lixus acutipennisi*

ヨモギ類に多い。

アイノカツオゾウムシ *Lixus maculatus*

本種もヨモギなどに見られるが、少ない。

シラクモゴボウゾウムシ *Larinus griseopilosus*

やや山地性の種で少ない。

7.1.18.アシナガゾウムシ亜科 *Mecysolobidae*

ホホジロアシナガゾウムシ *Mecysolobus erro*

ハゼやヌルデなどに見られる。

カシアシナガゾウムシ *Mecysolobus piceus*

この仲間ではもっとも多く、コナラなどの枝先で、越冬することが、観察されている。

オジロアシナガゾウムシ *Mesalcidodes trifidus*

中型のわかりやすい普通種で、クズの茎に産卵し、その部分は虫えいとなる。

7.1.19.イネゾウムシ亜科 *Eirrhiniinae*

オオクニイネゾウムシ *Procas biguttatus*

珍しい種で、次の2例の報告しかない。

アカイネゾウムシ *Dorytomus roelofsi*

ヤナギ類に多い。

ポプライネゾウムシ *Dorytomus urakoeae*

ヤマナラシなどに見られる。

モンイネゾウムシ *Dorytomus maculipennis*

本種もヤナギ類に見られる

ヤナギイネゾウムシ *Dorytomus rectinasus*

ヤナギ類に見られるが、少ない。県未記録種。

7.1.20.カギアシゾウムシ亜科 *Bagoiinae*

イネミズゾウムシ *Lissorhoptrus oryzophilus*

最近、移入された稲を食害する害虫といわれている。平地に極めて多く、落葉下などで成虫で越冬する。

7.1.21.ミズゾウムシ亜科 *Tanysphyrinae*

オオミズゾウムシ *Tanysphyrus major*

湿地など水辺で採れる。

7.1.22.コバンゾウムシ亜科 *Gymnaetrinae*

カミヤコバンゾウムシ *Miarus kamiyai*

あまり多くない。

7.1.23.タマゾウムシ亜科 *Cioninae*

シロオビタマゾウムシ *Stereonydhidius galloisi*

全国的には少ない種とされているが、箱根には多い。丹沢ではやや少ない。

アカタマゾウムシ *Stereonychus thoracicus*

ヤチダモにつくが、多くはない。

マルモンタマゾウムシ *Cionus tamazo*

少ない種である。

クロタマゾウムシ *Cionus helleri*

かなり少ない種である。

7.1.24.ノミゾウムシ亜科 Rhynchaeninae

ハラグロノコギリゾウムシ *Ixalma nigriventris*

この仲間は一般的には少ないものだが、本種は丹沢では各地に見られる。

オカダノコギリゾウムシ *Ixalma okadai*

少ない種のように、県内では次の1例しか記録がない。

ヨツオビクチフトノミゾウムシ *Imachra nipponicus*

珍しい種である。

ハチジョウノミゾウムシ *Rhamphus hisamatsui*

次種とともに各地に見られる。

リングノミゾウムシ *Rhamphus pulicarius*

ミゾウの仲間はいずれもミのように跳ねる。

ムモンノミゾウムシ *Rhynchaenus aterrimus*

やや少ない。

ガロアノミゾウムシ *Rhynchaenus galloisi*

ムネスジノミゾウムシ *Orchestes amurensis*

クロツヤソノミゾウムシ *Orchestes nitens*

少ない種である。

Orchestes jota(Fabricius, 1787)

県未記録。

フトノミゾウムシ *Orchestes excellens*

ミゾウムシの仲間では大きく、同定も容易である。かなり少ない種と思われる。

カシワノミゾウムシ *Orchestes japonicus*

エノキノミゾウムシ *Orchestes horii*

エノキに多く、色彩に変化がある。

ヤドリノミゾウムシ *Orchestes hustachei*

ウスモンノミゾウムシ *Orchestes variegatus*

アカアシノミゾウムシ *Orchestes sanguinipes*

ミゾウムシの仲間ではもっとも多い種で、各地に普通に見られる。ケヤキなどの樹皮下で、成虫越冬する。

マダラノミゾウムシ *Orchestes nomizo*

各地に見られる。

7.1.25.デオゾウムシ亜科 Acalyptinae

チビデオゾウムシ *Acalyptus carpini*

センダンに見られる。

7.1.26.コガタゾウムシ亜科 Tychiinae

クロハモグリゾウムシ *Elleschus pauper*

各地に見られる普通種。

クロツブゾウムシ *Sphinxis koikei*

本種も各地に多い。

Ochyromera sturaris Kojima et Morimoto, 1996

ごく最近記載された種で、県新記録である。

ウスグロアシブトゾウムシ *Gryporrhynchus obscurus*

オオクボササラゾウムシ *Demimaea okuboi*

やや少ない種である。

クワササラゾウムシ *Demimaea mori*

タバゲササラゾウムシ *Demimaea fascicularis*

イヌビワなどに見られるが、多くない。

7.1.27.シュロゾウムシ亜科 Petalochilinae

シュロゾウムシ *Derelomus uenoi*

5月にシュロの花に多く集まる。その他では全く採集できない。

7.1.28.ハナゾウムシ亜科 Anthonominae

クロナガハナゾウムシ *Bradybatus sharpi*

山地に多い。

ヘリアカナガハナゾウムシ *Bradybatus limbatus*

本種も普通に見られる。

イチゴハナゾウムシ *Anthonomus bisignifer*

ハナゾウムシの仲間ではもっとも多い普通種である。

ユアサハナゾウムシ *Anthonomus yuasai*

各地に多い。

オビモンハナゾウムシ *Anthonomus rectirostris*

ヤマザクラなどにいるが、それほど多くはない。

Anthonomus mali Kojima et Morimoto, 1994

最近、記載された種で、多くない。リンゴの蕾を食うという。県未記録種。

Anthonomus undulatus Gyllenhal, 1836

少ない種と思われる。

コブハナゾウムシ *Anthonomus dorsalis*

ウワミズザクラに見られるが、少ない。

7.1.29.シギゾウムシ亜科 Curculioninae

レロフチビシギゾウムシ *Curculio roelofsi*

- ナラ類に見られ、チビシギゾウムシではもっとも多い。
- ジュウジチビシギゾウムシ *Curculio pictus*
カシワ、コナラなどに多い。
- ムモンチビシギゾウムシ *Curculio antennatus*
ムラカミチビシギゾウムシ *Curculio murakamii*
県未記録種。諸戸、土沢産は上翅斑紋が会合部だけのものである。
- エサキチビシギゾウムシ *Curculio esakii*
かなり稀な種と思われる。県未記録種。
- クヌギチビシギゾウムシ *Curculio kunugi*
クヌギに見られるが、多くはない。
- ウスモンチビシギゾウムシ *Curculio minutissimus*
キマダラシギゾウムシ *Curculio cerasorum*
セダカシギゾウムシ *Curculio convexus*
シギゾウムシの中ではもっとも多い種で、色彩にかなりの変化がある。
- チャバナセダカシギゾウムシ *Curculio fulvipennis*
ヒメシギゾウムシ *Curculio hime*
ケヤキにいるという。
- ツヤヒメシギゾウムシ *Curculio okumai*
Morimotoが記録したShigesawaは東沢の誤りのようである。
- クロシギゾウムシ *Curculio distinguendus*
クヌギにいるが、多くはない。
- エゴシギゾウムシ *Curculio styracis*
エゴの実に産卵する。
- キオビシギゾウムシ *Curculio ochrofasciatus*
少ない種である。
- ナツグミシギゾウムシ *Curculio elaeagni*
ナツグミの実に産卵する。
- ミヤマシギゾウムシ *Curculio koreanus*
県未記録種。
- ツバキシギゾウムシ *Curculio camelliae*
♀の吻は体長よりも長い種で、ツバキの実に産卵する。
- クヌギシギゾウムシ *Curculio robustus*
クヌギやアベマキの実に産卵する。
- コナラシギゾウムシ *Curculio dentipes*
ナラ類の実に産卵する。

クリシギゾウムシ *Curculio sikkimensis*

コナラ、クリ、アベマキなどの実に産卵する。

Curculio morimotoi Notsu, 1994

最近、西丹沢産の標本をもとに、著者の一人、野津裕が記載したもので、珍しいものである。

7.1.30.ヒメゾウムシ亜科 *Baridinae*

シラホシヒメゾウムシ *Baris dispilota*

セリ科の花などによく集まっているが、最近は少なくなったようである。

クワヒメゾウムシ *Baris deplanata*

ヒメゾウムシの中ではもっとも多い普通種。

タテスジアカヒメゾウムシ *Baris rubricata*

あまり多くない。

Acythopeus parabaimaculatus Morimoto et Lee, 1992

最近、記載されたヒメゾウムシで、ガマズミ類に見られる。

ツヤケシヒメゾウムシ *Paracythopeus melancholicus*

サルナシ、ブドウなどに見られ多い。

カナムグラヒメゾウムシ *Psilarthroides humuli*

その名の通りカナムグラに多い。

ツヤチビヒメゾウムシ *Centrinopsis nitens*

光沢のある黒色で、菱形をしているので、微小だが同定は容易。

ツヤハダヒメゾウムシ *Phrissoderes rufitarsis*

玄倉ではイチョウランの花から得られた。かなりの稀種である。

7.1.31.サルゾウムシ亜科 *Ceutorhynchinae*

タデノクチプトサルゾウムシ *Rhinoncus sibiricus*

タデ類に多い普通種。

アカアシクチプトサルゾウムシ *Rhinoncus cribricollis*

本種もタデ類に見られる。

マルメサルゾウムシ *Phytobius quadricornis roelofsi*

ツツジゲムネサルゾウムシ *Mecysmoderes fulvus*

この属は前胸背の基部が後方に鋭く突き出ている。この仲間ではもっとも多い種。ツツジ類にいる。

キボシゲムネサルゾウムシ *Mecysmoderes ater*

少ない種である。

チャイロアカサルゾウムシ *Coeliodes brunneus*

本種も少ない種である。

ジュウジコブサルゾウムシ *Craponius bigibbosus*

前胸背にこぶがあつて、わかりやすい種で、やや多い。

トゲカタビロサルゾウムシ *Cyphosenus bouvieri*

この仲間としてはやや大きく、各地に見られる。

タデサルゾウムシ *Homorosoma asperum*

その名のごとくタデ類に多い。

キイチゴトゲサルゾウムシ *Scleropteroides hypocrita*

サルゾウムシの仲間ではもっとも多い種で、各地に普通。

ダイコンサルゾウムシ *Ceuthorhynchidius alboturalis*

アブラナ科の植物に多く見られる。

カナムグラサルゾウムシ *Ceuthorhynchus shaowuensis*

カナムグラによく見られる。

ムネミゾサルゾウムシ *Ceuthorhynchus sulcithorax*

ケマンサルゾウムシ *Sirocalodes umbrinus*

珍しい種である。

アルマンサルゾウムシ *Wagnerinus harmandi*

各地に多い普通種。

クロツヤサルゾウムシ *Wagnerinus costatus*

本種も多い。

7.1.32.クモゾウムシ亜科 *Zygopinae*

ミヤマヒシガタクモゾウムシ *Lobotrachelus minor*

山地に多い。

ヤマトヒメクモゾウムシ *Ellatocerus japonicus*

かなり少ない種である。

ミツオビヒメクモゾウムシ *Telephae trifasciatus*

あまり多くない。

アカオビタマクモゾウムシ *Egiona konoii*

少ない種である。県未記録種。

クロホシタマクモゾウムシ *Egiona picta*

ビロード状の黒紋が顕著な種で、多くない。

トウキョウクモゾウムシ *Euryommatus tokioensis*

少ない種である。

コヒラセクモゾウムシ *Metialma pusilla*

ヤマトヒラセクモゾウムシ *Metialma* sp.

ノコギリクモゾウムシ *Mecopomorphus griseus*

やや大型の種で、この仲間ではもっとも多い。山地に普通。

7.1.33. ツツゾウムシ亜科 *Carciliinae*

ツツゾウムシ *Carcilia strigicollis*

次種よりかなり少ない。県未記録種。

コゲチャツツゾウムシ *Carcilia tenuistriata*

各地に見られる普通種。

7.1.34. キボシゾウムシ亜科 *Pissodinae*

クロキボシゾウムシ *Pissodes obscurus*

マツに見られるというが、少ない。

ツチイロゾウムシ *Cotasteromimus morimotoi*

あまり多くない。

7.1.35. カレキゾウムシ亜科 *Acicnemidinae*

ダルマカレキゾウムシ *Trachodes subfasciatus*

この仲間ではもっとも多い普通種。枯れ木などから得られる。

Trachodes ovipennis Morimoto et Miyakawa, 1995

最近、記載された種で、箱根台ヶ岳産のものがパラタイプの1つになっている。多くない。

Trachodes sasajii Morimoto et Miyakawa, 1995

本種も最近、記載されたもので、少ない種である。

Trachodes simulator Morimoto et Miyakawa, 1995

本種も同様に、最近記載されたもので、丹沢にはかなり分布しているようである。県未記録種である。

シロカレキゾウムシ *Karekizo impressicollis*

かなり稀な種である。

ウスモンカレキゾウムシ *Acicnemis palliata*

クロカレキゾウムシ *Acicnemis albofasciata*

マダラカレキゾウムシ *Acicnemis maculaalba*

アトジロカレキゾウムシ *Acicnemis dorsonigrita*

ナカスジカレキゾウムシ *Acicnemis suturalis*

各地に見られる普通種。

Acicnemis nohirai Morimoto et Miyakawa, 1995

最近、記載されたもので、少ない種である。

7.1.36. アナアキゾウムシ亜科 *Hylobiinae*

アカコブコブゾウムシ *Kobuzo rectirostris*

珍しいものである。

ナガアナキゾウムシ *Dyscerus laeviventris*
クリアナキゾウムシ *Dyscerus exsculptus*
リンゴアナキゾウムシ *Dyscerus shikokuensis*

少ない種である。

ガロアナキゾウムシ *Dyscerus galloisi*
ホソアナキゾウムシ *Dyscerus elongatus*
アナキゾウムシではもっとも多い種である。

タマゴゾウムシ *Dyscerus orientalis*
アザミ類に見られるが、多くはない。

イワキオチバゾウムシ *Otibazo morimotoi*

この属は日本からは3種しか記載されていないが、多くの種があるという。県内では次の記録があるが、この種にあてはめるのが妥当かは今後の研究による。オチバゾウの名のごとく、落葉から発見される。

クロコブゾウムシ *Niphades variegatus*
針葉樹の枯れ木に集まる。

チビアアナキゾウムシ *Nipponiphades foveolatus*
各地に見られる。

チュウジョウアナキゾウムシ *Seleuca chujoi chujoi*
各地に多い。

7.1.37.クチカクシゾウムシ亜科 *Cryptorhynchinae*

クロクチカクシゾウムシ *Catagmatus japonicus*
アラムネクチカクシゾウムシ *Mechistocerus rugicollis*
マダラメカクシゾウムシ *Mechistocerus nipponicus*

やや大型の種で、枯れ木に多い。

コホシメカクシゾウムシ *Mechistocerus parcimaculatus*
かなり少ない種である。

ウンモンナガクチカクシゾウムシ *Rhadinomerus unmon unmon*
マエバラナガクチカクシゾウムシ *Rhadinomerus maebarai*

クチカクシゾウムシの仲間では、もっとも多い普通種。朽木などに見られる。

チビクチカクシゾウムシ *Deiradocranus setosus*
各地に見られる。

ウスモントゲトゲゾウムシ *Colobodes konoii*
タカオマルクチカクシゾウムシ *Orochlesis takaosanus*
コブマルクチカクシゾウムシ *Acallinus tuberculatus*
ミヤマクチカクシゾウムシ *Protacalles monticola*

山地に多い。

マダラアシゾウムシ *Ectatorhinus adamsii*

大型のわかりやすい種で、平地にも多く、アラカシやヌルデなどから採れる。

ヒメクチカクシゾウムシ *Catarrhinus umbrosus*

平地にも多い普通種。

オオクチカクシゾウムシ *Syrotelus septentrionalis*

多くない。

モンクチカクシゾウムシ *Sclerolips maculicollis*

枯れ木に多い普通種。

アラハダクチカクシゾウムシ *Rhadinopus sulcatostriatus*

ヒウラシラホシゾウムシ *Shirahoshizo hiurai*

非常に珍しい種である。この類はマツの枯れ木などに集まり、害虫とされるものもある。

ニセマツノシラホシゾウムシ *Shirahoshizo rufescens*

シラホシゾウの仲間ではもっとも多い種である。

マダラクチカクシゾウムシ *Cryptorhynchus electus*

アタマクチカクシゾウムシ *Caenocryptorrhynchus frontalis*

ハスジクチカクシゾウムシ *Cryptorhynchus fasuciculatus*

ユリコヒメクチカクシゾウムシ *Anaechmura yurikoae*

山地の朽木などによく見られる。本種によく似たやや大型の別種も見られるが、これにはまだ名前が付いていない。

コブダルマカレキゾウムシ *Lobosoma rausense*

今まで、カレキゾウムシ亜科に含まれていたが、クチカクシゾウムシ亜科に変更された。

山地に見られるが、少ない。

7.1.38.キクイゾウムシ亜科 *Cossoninae*

マツクチブトキクイゾウムシ *Stenoscelis gracilitarsis*

ケナガクチブトキクイゾウムシ *Stenoscelis longisetosus*

県未記録種。

ムツヒゲキクイゾウムシ *Hexarthrum brevicorne*

筆者が次の報告をしたが、同定に疑問がある。

マツチャイロキクイゾウムシ *Ochronanus pallidus*

ワシバナヒラタキクイゾウムシ *Cossonus gibbirostris*

平野が記録し、別種として訂正したが、さらに検討した結果、この処理は誤りのようで、もともどすことにする。少ない種である。

アシブトヒラタキクイゾウムシ *Cossonus tibialis*

♂はその名の通り、後脛節が後方へ広がっているが、♀は単純である。どういう訳か♀

は多いが、みは極端に少ない。堂平ではブナの朽木などの樹皮下に多く見られる。

カグヤヒメキクイゾウムシ *Pseudocossonus brevitarsis*

マダケやメダケなどの中に潜入している。

チャバネキクイゾウムシ *Heterarthrus lewisi*

クズやフジの枯れ枝に多い普通種。

マツコブキクイゾウムシ *Xenomimetes destructor*

多くない。

ハンノキコブキクイゾウムシ *Xenomimetes alni*

ハンノキ、シナノキ、ブナなどの材部に穿孔する。各地に多い。

ワシバナヒメキクイゾウムシ *Phloeophagosoma curvirostre*

ヤシヤブシなどの広葉樹の枯れ木に多い。各地に普通。

マツオオキクイゾウムシ *Macrorhyncholus crassiusculus*

松などの樹皮下に見られるが、それほど多くはない。

Sphaerocorynes sulcirostris(Voss), 1957

サルナシににいるというが、少ない種らしい。

7.1.39.オオゾウムシ科 *Rhynchophoridae*

生態などはゾウムシと同じだが、貯穀害虫やバナナやヤシ子の害虫とされる種もある。最近、ノシバに大害を与えるシバオサゾウムシが神奈川県でも増えつつある。日本では37種の記録があり、県内からは11種の報告がある。丹沢では6種の生息を確認できた。

7.1.40.ホソキクイサビゾウムシ亜科 *Dryophthorinae*

スギキクイサビゾウムシ *Dryophthorus japonicus*

アトボソキクイサビゾウムシ *Dryophthorus konishii*

Konishi, M. は *D. corticalis*(Paykull)として記録したが、本種のことである。

キクイサビゾウムシ *Dryophthorus sculpturatus*

稀ではない。

7.1.41.キクイサビゾウムシ亜科 *Stromboscerinae*

オオゾウムシ *Sipalinus gigas*

県内最大のオサゾウムシで、各地にもっとも普通に見られる。広葉樹や針葉樹の枯木を食害する。

アトマルキクイサビゾウムシ *Tetrasyntommatus thompsoni*

少ない種である。

7.1.42.オサゾウムシ亜科 *Rhynchophorinae*

トホシオサゾウムシ *Aplotes roelofsi*

わかりやすい種だが、最近はあまり見られない。

8.脈翅類

8.1.ヘビトンボ科 *Corydalidae*

ヘビトンボ *Prothohermes grandis*

幼虫は孫太郎虫と呼ばれ、乾燥個体は古くから子供の疳の妙薬として知られている。幼虫が水棲であるので成虫は沢沿いで見ることが多い。

8.2.センブリ科 *Sialidae*

ネグロセンブリ *Sialis japonica*

この幼虫も水棲で、比較的清らかな流れや池沼が生息地である。確認場所は東丹沢地域だけであるが、他にも発生している可能性は充分ある。成虫の発生が春、比較的短い期間に限られるため確認しにくい。また、山地に分布すると予想されるクロセンブリは確認できなかった。

8.3.キスジラクダムシ科 *Raphididae*

キスジラクダムシ *Raphidia harmandi*

全国的に採集例の少ない種である。川瀬(1986)によれば標高1000m前後のブナやモミの原生林が生息地という。今回の調査では一番気になった種であったが、調査の機会を失し確認できなかった。他の調査員が採集された古い標本を検査することができ、本種が生息していたことを確認し得た。

8.3.1.1.コナカゲロウ科 *Coniopterygidae*

キバラコナカゲロウ *Coniopteryx abdominalis*

コナカゲロウの仲間はいずれも翅長 2~4mm と小型種であるので、野外での確認作業はいささか困難をともなったが、一度コツを覚えると後は確実となった。なお、性別の判定は現状では困難をともない行っていない。

アトコバネコナカゲロウ *Conwentzia pineticola*

後翅が極端に小さいので判別は比較的容易である。成虫で越冬するようで、早春や晩秋常緑樹に絡みついた枯れ葉をスweepすると良く得られる。

シロコナカゲロウ *Semidalis aleyrodiformis*

コナカゲロウは翅全体に白粉状のロウ物質を装うので、外見上白くと映るが、シロコナカゲロウはとくに白く感ずる。

マダラコナカゲロウ *Coniocompa japonica*

原記載が神奈川で得られた標本に基づいてなされた種である。コナカゲロウの生活史はほとんど判っていないが、とくに、この種についての情報はないに等しい。今回の調査では1例しか確認できなかった。山地に広く分布しているのかどうかは不明である。

8.3.1.2.ヒロバカゲロウ科 *Osmylidae*

ウンモンヒロバカゲロウ *Osmylus tessellatus*

ヒロバカゲロウの幼虫は、水棲、半水棲とされており、成虫は水辺で得られることが多

い。ウンモンヒロバカゲロウは今回の調査では 1 例しか確認されていないが、他県の情報から判断するとそう稀な種ではないと思われる。

ツマモンヒロバカゲロウ *Plethosmylus decoratus*

次種と区別のつきにくい種であるが、区別点がいくつかあるので確認できる。

スカシヒロバカゲロウ *Plethosmylus hyalinatus*

ヒロバカゲロウの中でわりと広く分布するようである。

オガタヒロバカゲロウ *Lysmus ogatai*

全国的に採集例の稀な種である。情報が少なく評価しにくい種であるが、現在のまでのところ丹沢の記録が分布の東限にあたる。

キマダラヒロバカゲロウ *Spilosmylus flavicornis*

発生地ではわりと数多く確認できる。スカシヒロバカゲロウとともに年二化するのではないかと思われるが、詳細は今のところ不明である。

カスリヒロバカゲロウ *Spilosmylus nipponensis*

比較的広い範囲に分布しているようである。水辺から離れた尾根筋でも見られる。

ヤマトヒロバカゲロウ *Spilosmylus tuberculatus*

前翅後縁中央に表面側に膨らんだ部分があり、同定は容易である。比較的暖地系のヒロバカゲロウといわれている。

8.3.1.3. ヒメカゲロウ科 *Hemerobiidae*

エグリヒメカゲロウ *Drepanopteryx phalaenoides*

前翅形が特異な大型のヒメカゲロウで、山地帯上部に生息する種である。

クビカクシヒメカゲロウ *Drepanopteryx punctatus*

本種も大型のヒメカゲロウであり、斑紋に特徴がある。あまり採集例のない種である。

キバネヒメカゲロウ *Hemerobius harmandinus*

平地では松林に多いヒメカゲロウであるが、山地ではどのような生活を送っているのか不明である。

ミヤマヒメカゲロウ *Hemerobius humulinus*

次種と混生している場合が多い。♂は交尾器で明確に区別できるが、♀は明確な区別点が現状では見つかっておらず、多数の両種の♀を各地で得ているが、同定不可能として、本目録には収録していない。ミヤマと和名がつけられていることがどこにでもいるヒメカゲロウである。但し、次種より数は少ないようである。

ヤマトヒメカゲロウ *Hemerobius japonicus*

もっとも広範囲に分布し、数も多いヒメカゲロウである。

クロヒゲヒメカゲロウ *Hemerobius nigricornis*

触角が黒い。平地にも生息している。

マルバネヒメカゲロウ *Neuronema albstigma*

山地帯上部に生息するヒメカゲロウである。

ブチヘリヒメカゲロウ *Wesmaelius nervosus*

全国的にもあまり採集されたことのない稀種である。

コチャバネヒメカゲロウ *Micromus angulatus*

平地でも記録が出ているが、採集例を増やせない不思議なヒメカゲロウである。

シロタエヒメカゲロウ *Micromus dissimilis*

平地でも確認できるが、いずれにしてもあまり多くない。

アシマダラヒメカゲロウ *Micromus calidus*

ヤマトヒメカゲロウ、チャバネヒメカゲロウと並んで広範囲に分布し、数も多い。

ホソバヒメカゲロウ *Micromus linearis*

どちらかという草地、林縁の下草に多い。

チャバネヒメカゲロウ *Micromus numerosus*

どこにでも普通に見られるヒメカゲロウで、成虫で越冬するようで初冬、早春常緑樹をピーティングするとよく落ちてくる。

ミドリヒメカゲロウ *Notiobiella subolivacea*

本種も成虫越冬する種のように、夏以降に数を増やしてくる。

ウスクロヒメカゲロウ(仮称) *Symphorobius dilutus*

中原和郎博士によって記載された種であるが、その後記録はほとんどない。

8.3.1.4. クサカゲロウ科 *Chrysopidae*

ヨツボシクサカゲロウ *Chrysopa pallens*

もっともポピュラーな大型のクサカゲロウであるが、数は人里の方が多いためである。

ヒメオオクサカゲロウ *Nineta vittata*

次種とともに山地性の大型のクサカゲロウである。

キタオオクサカゲロウ *Nineta alpicola*

前種とともに山地性の大型のクサカゲロウである。

ムモンクサカゲロウ *Chrysotropia ciliata*

平地にも産するが、山地でもわりと出会う顔面が無紋のクサカゲロウである。

イツホシアカマダラクサカゲロウ *Pseudomallada cognatellus*

夏以降数を増す小型のクサカゲロウである。

ヨツボシアカマダラクサカゲロウ *Pseudomallada parabolus*

前種とよく似ている小型のクサカゲロウであるが、触角間に黒紋を欠くので容易に区別される。

フタモンクサカゲロウ *Pseudomallada formosanus*

顔面頬の黒紋は丸く、両髭とも緑色で、次種に比べるとあまり多くない。

クロヒゲフタモンクサカゲロウ *Pseudomallada ussuriensis*

前種と同じように顔面頬の黒紋は丸いが、両髭は黒いので区別は容易である。
Pseudomallada の 4 種は平地、山地とも広範囲に分布するが、本種は山地で 1 番多いようである。

ヤマトクサカゲロウ *Chrysoperla carnea*

ヨツボシクサカゲロウとともにもっとも普通のクサカゲロウで、成虫で越冬するので 1 年中見られる。山地にも広く分布する。

スズキクサカゲロウ *Chrysoperla suzukii*

ヤマトクサカゲロウによく似ているが、やや大型で翅脈が全体に緑色で、なれば区別は明確にできる。本種も成虫で越冬するようで、秋から春にかけて見ることが多い。平地、山地ともに分布する。

アミメクサカゲロウ *Nacaura matsumurae*

特異な翅形をもつ大型のクサカゲロウで、触角が長く優美である。成虫で越冬するといわれ、秋に多く見られるが越冬状況は知られていない。

8.3.2. クシヒゲカゲロウ科 *Dilaridae*

クシヒゲカゲロウ *Dilar japonicus*

♂触角が櫛状で、♀には糸状の産卵管がある。山地性である。

8.3.3. カマキリモドキ科 *Mantispidia*

キカマキリモドキ *Eumantispa harmandi*

平地にも生息するが、山地帯が主たる生息域で、場所によっては個体数も多い。灯火に飛来する。

ヒメカマキリモドキ *Mantispa japonica*

わりと普通な種と思われるが、どこの生息地でも個体数は少ない。

8.3.4. ウスバカゲロウ科 *Mymeleonidae*

コマダラウスバカゲロウ *Dendroleon jezoensis*

本種は幼虫が特異な生態をもつので、幼虫の探索により効率的に分布が確認できる。平地から山地にかけて広く分布する。

ホシウスバカゲロウ *Glenuroides japonicus*

どこにでもいる普通種と思われるが、案外その生態は明らかでない。山地での記録が少ないが、本来数が少ないのかどうかは詳らかではない。

モイワウスバカゲロウ *Epacanthaclisis moiwana*

山地性のウスバカゲロウで、今のところ丹沢山地の中央部でしか記録がない。

ウスバカゲロウ *Hagenomia micnas*

もっとも普通で数も多い。平地から山地にかけて分布も広く、幼虫の巣(アリジゴク)はいたるところで目に入る。

コウスバカゲロウ *Myrmeleon formicarius*

ウスバカゲロウと違って、日当たりのよい明るい地面に幼虫は巣をつくる。直射日光のをまともに受けている林道の脇、崖が風化で崩れ、細かい土砂を堆積しているところなどが絶好の生息地となっている。

8.3.5.アザミウマ目

8.3.5.1.アザミウマ科 *Thripidae*

食植性の種が多く、主として花から得られる。また、主要な農作物の害虫が多く含まれている。

ヒラズハナアザミウマ *Frankliniella intonsa*

各種の花上にきわめて普通のアザミウマである。

アシグロハナアザミウマ *Taeniothrips oreophilus*

ノイバラの花から得られた。なお、文献によるヤビク峠の記録があるが、ヤビツ峠の誤りと思われる。

ダイズウスイロアザミウマ *Thrips setosus*

クログハナアザミウマ *Thrips nigropilosus* Uzel

ハナアザミウマ *Thrips hawaiiensis*

ビワハナアザミウマ *Thrips coloratus*

ネギアザミウマ *Thrips tabaci*

農作物の害虫として著名な種であるが、今回はハルジョオンの花から得られた。

キイロハナアザミウマ *Thrips flavus*

8.3.5.2.クダアザミウマ科 *Phlaeothripidae*

Podothrips odonaspicola

文献による記録が1例ある。ササに寄生するようである。

Holothrips japonicus

ブナの枯れ枝より脱出。

Holothrips yuasai

ブナの枯れ枝より脱出。

Plectothrips hiromasai

ブナの枯れ枝より脱出。

8.3.6.半翅類

8.3.6.1.同翅目(ヨコバイ目) *HOMOPTERA*

8.3.6.1.1.セミ型類 *Cicadomorpha*

8.3.6.1.1.1.セミ科 *Cicadidae*

ニイニイゼミ *Platypleura kaempferi*

アブラゼミ *Graptosaltria nigrofuscata*

エゾゼミ *Tibicen japonicus*

アカエゾゼミ *Tibicen flammatus* (神・危惧種D)

コエゾゼミ *Tibicen bihamatus*

クマゼミ *Cryptotympana facialis*

ミンミンゼミ *Oncotympana maculaticollis*

ヒグラシ *Tanna japonensis*

エゾハルゼミ *Terpnosia nigricosta*

ハルゼミ *Terpnosia vacua* (神・減少種H)

ツクツクボウシ *Meimuna opalifera*

チッチゼミ *Cicadetta radiator*

8.3.6.1.1.2.コガシラアワフキムシ科 *Cercopidae*

コガシラアワフキ *Eoscarta assimilis*

アワフキムシ科 *Aphrophoridae*

シロオビアワフキ *Aphrophora intermedia*

マツアワフキ *Aphrophora flavipes*

モンキアワフキ *Aphrophora major*

ハマベアワフキ *Aphrophora maritima*

ヒメシロオビアワフキ *Aphrophora obliqua*

コガタアワフキ *Aphrophora obtusa*

ホシアワフキ *Aphrophora stictica*

クロスジアワフキ *Aphrophora vittata*

イシダアワフキ *Aphrophora ishidae*

オオアワフキ *Aphropsis galloisi*

コミヤマアワフキ *Peuceptyelus medius*

マダラアワフキ *Awafukia nawae*

クロフアワフキ *Sinophora submacula*

マルアワフキ *Lepyronia grossa*

オカダアワフキ *Lepyronia okadae*

テングアワフキ *Philagra albinotata*

ソウウンアワフキ *Phlaronia nigrifrons*

クロスジホソアワフキ *Aphilaenus nigripectus*

トドマツホソアワフキ *Aphilaenus abieti*

8.3.6.1.1.3.トゲアワフキムシ科 *Machaerotidae*

タケウチトゲアワフキ *Machaerota takeuchii*

ムネアカアワフキ *Hindoloides bipunctatus*

8.3.6.1.1.4.ツノゼミ科 *Membracidae*

ツノゼミ *Butragulus flavipes*

トビイロツノゼミ *Machaerotypus sibiricus*

オビマルツノゼミ *Gargara katoi*

ハコネマルツノゼミ *Gargara doenitzi*

8.3.6.1.1.5.ヨコバイ科 Cicadellidae

8.3.6.1.1.5.1.シダヨコバイ亜科 Agalliinae

シダヨコバイ *Japanagallia pteridis*

オヌキシダヨコバイ *Onukigallia onukii*

8.3.6.1.1.5.2.ヒロズヨコバイ亜科 Macropsinae

マエジロハトムネヨコバイ *Macropsis costalis*

カシハトムネヨコバイ *Macropsis quercus*

フタオビハトムネヨコバイ *Macropsis matsumurana*

ハンノヒロズヨコバイ *Oncopsis alni*

オモゴヒロズヨコバイ *Oncopsis omogonis*

クルミヒロズヨコバイ *Pediopsoides juglans*

8.3.6.1.1.5.3.ミミズク亜科 Ledrinae

ミミズク *Ledra auditura*

コミミズク *Ledropsis discolor*

8.3.6.1.1.5.4.オオヨコバイ亜科 Cicadellinae

ヨモギシロテンヨコバイ *Mileewa margheritae*

オオヨコバイ *Cicadella viridis*

ツماغロオオヨコバイ *Bothrogonia ferruginea*

マエジロオオヨコバイ *Kolla atramentaria*

キスジカンムリヨコバイ *Evacanthus intrruptus*

テングオオヨコバイ *Tengirhinus tengu*

シロズオオヨコバイ *Oniella leucocephala*

オヌキヨコバイ *Onukia onukii*

オオクワキヨコバイ *Pagaronia grossa*

コクワキヨコバイ *Pagaronia minor*

8.3.6.1.1.5.5.ズキンヨコバイ亜科 Idiocerinae

ズキンヨコバイ *Podulmorinus vitticollis*

ムナグロズキンヨコバイ *Metidiocerus rutilans*

8.3.6.1.1.5.6.アオズキンヨコバイ亜科 Iassinac

アオズキンヨコバイ *Batracomorphus mundus*

セグロアオズキンヨコバイ *Trocnadella suturalis*

8.3.6.1.1.5.7.ヒラタヨコバイ亜科 Aphrodinae

クロサジヨコバイ *Planaphrodes nigricans*

8.3.6.1.1.5.8.クロヒラタヨコバイ亜科 Penthimiinae

クロヒラタヨコバイ *Penthimia nitida*

8.3.6.1.1.5.9.ブチミヤクヨコバイ亜科 Selenocephalinae

ニトベブチミヤクヨコバイ *Drabescus nitobei*

ホシサジヨコバイ *Parabolopona guttata*

8.3.6.1.1.5.10.ホシヨコバイ亜科 Xestocephalinae

ホシヨコバイ *Xestcephalus japonicus*

ニッコウホシヨコバイ *Xestcephalus nikkoensis*

イグチホシヨコバイ *Xestcephalus iguchii*

8.3.6.1.1.5.11.ヨコバイ亜科 Deltocephalinae

キンミドリコバネヨコバイ *Aconurella japonica*

アカカスリヨコバイ *Balclutha rubrinervis*

カスリヨコバイ *Balclutha punctata*

ヒメフタテンヨコバイ *Macrosteles striifrons*

ヨツテンヨコバイ *Macrosteles quadrimaculatus*

ヤマトヨコバイ *Yamatotettix flavovittatus*

アライヒシモンヨコバイ *Hishimonus araii*

トバヨコバイ *Alobaldia tobae*

ヒロズマダラヨコバイ *Recilia latifrons*

モジヨコバイ *Amimenus mojiensis*

コチャイロヨコバイ *Matsumurella kogotensis*

リンゴマダラヨコバイ *Orientus ishidae*

シラホシスカシヨコバイ *Scaphoideus festivus*

シロセスジヨコバイ *Scaphoideus albivittatus*

モモグロヨコバイ *Paralaevicephalus nigrifemoratus*

シロミヤクイチモンジヨコバイ *Paramesodes albinervosus*

マダラヨコバイ *Psammotettix striatus*

タケナガヨコバイ *Bambusana bambusae*

ミドリヒロヨコバイ *Laburris impictifrons*

キマダラヒロヨコバイ *Ophiola flavopictus*

フタスジトガリヨコバイ *Futasujinus candidus*

ヒトツメヨコバイ *Phlogotettix cyclops*

ツマグロヨコバイ *Nephotettix cincticeps*

8.3.6.1.1.5.12.ヒメヨコバイ亜科 Typhlocybiinae

オビヒメヨコバイ *Naratettix zonatus*

カシヒメヨコバイ *Agriahana quercus*
スズキヒメヨコバイ *Arboridia suzukii*
ヤノヒメヨコバイ *Arboridia yanonis*
サッポロヒメヨコバイ *Alnetoidia sapporoensis*
ヨツモンヒメヨコバイ *Empoascanara limbata*
マダラヒメヨコバイ *Platyttix pulchrus*
チマダラヒメヨコバイ *Tautoneura mori*
ヤマシロヒメヨコバイ *Zygina yamashiroensis*
ヒトツメヒメヨコバイ *Ishiharella polyphemus*
カンキツヒメヨコバイ *Apheliona ferruginea*
トドマツヒメヨコバイ *Empoasca abietis*
アカシヒメヨコバイ *Paracyba akashiensis*
ムツテンヒメヨコバイ *Linnavuoriana sexmaculata*
シロヒメヨコバイ *Eurhadina pulchella*
ホシヒメヨコバイ *Limassolla multipunctata*

8.3.6.1.2.ハゴロモ型類 *Fulgoromorpha*

8.3.6.1.2.1.ヒシウンカ科 *Cixiidae*

ヨモギヒシウンカ *Oecleopsis artemisiae*
オビカワウンカ *Andes harimensis*
ハスオビヒシウンカ *Betacixius obliquus*
キガシラヒシウンカ *Kuvera flaviceps*

8.3.6.1.2.2.ウンカ科 *Delphacidae*

タテヤマナガウンカ *Stenocranus tateyamanus*
タケウンカ *Epeurysa nawaii*
セジロウンカ *Sogatella furcifera*
ヒエウンカ *Sogatella kolophon*
トビイロウンカ *Nilaparvata lugens*
タテゴトウンカ *Toya lyraeformis*
ナガラガウンカ *Garaga nagaragawana*
クワヤマウンカ *Kakuna kuwayamai*
エゾトビウンカ *Paradelphacodes paludosa*
サッポロトビウンカ *Unkanodes sapporona*

8.3.6.1.2.3.ハネナガウンカ科 *Derbidae*

マエグロハネナガウンカ *Zoraida pterophoroides*
シリアカハネナガウンカ *Zoraida horishana*

マダラハネナガウンカ *Pamendanga matsumurae*

アカフハネナガウンカ *Epotiocerus flexuosus*

クロフハネナガウンカ *Mysidioides sapporensis*

アカメガシワハネビロウンカ *Vekunta malloti*

8.3.6.1.2.4.コガシラウンカ科 *Achilidae*

ナワコガシラウンカ *Rhotala nawae*

スジコガシラウンカ *Rhotala vittata*

ウチワコガシラウンカ *Catanidia sobrina*

グンバイウンカ科 *Tropiduchidae*

トビイログンバイウンカ *Ommatissus lofuensis*

8.3.6.1.2.5.マルウンカ科 *Issidae*

カタビロクサビウンカ *Issus harimensis*

クサビウンカ *Sarima amagisana*

マルウンカ *Gergithus variabilis*

8.3.6.1.2.6.アオバハゴロモ科 *Flatidae*

アオバハゴロモ *Geisha distinctissima*

8.3.6.1.2.7.ハゴロモ科 *Ricaniidae*

ベッコウハゴロモ *Orosanga japonicus*

アミガサハゴロモ *Pochazia albomaculata*

8.3.6.2.異翅目(カメムシ目) *HETEROPTERA*

8.3.6.2.1.ムクゲカメムシ亜目 *Dipsocoromorpha*

8.3.6.2.1.1.オオムクゲカメムシ科 *Ceraocombidae*

8.3.6.2.2.タイコウチ亜目 *Nepomorpha*

8.3.6.2.2.1.タイコウチ科 *Nepidae*

タイコウチ *Laccotrephes japonesis*

ミズカマキリ *Ranatra chinensis*

8.3.6.2.2.2.コオイムシ科 *Belostomatidae*

オオコオイムシ *Appasus major*

8.3.6.2.2.3.マツモムシ科 *Notonectidae*

マツモムシ *Notonecta triguttata*

コマツモムシ *Anisops ogasawarensis* (神・危惧種F)

8.3.6.2.2.4.ミズムシ科 *Corixidae*

エサキコミズムシ *Sigara septemlineata* (神・減少種H)

ヒメコミズムシ *Sigara matsumurai* (神・減少種H)

8.3.6.2.2.5.ナベブタムシ科 *Aphelocheiridae*

ナベブタムシ *Aphelocheirus vittatus*

8.3.6.2.3.アメンボ亜目 *Gerromorpha*

8.3.6.2.3.1.アメンボ科 *Gerridae*

オオアメンボ *Aquarius elongatus* (神・減少種H)

ナミアメンボ *Aquarius paludum paludum*

コセアカアメンボ *Gerris gracilicornis*

ヤスマツアメンボ *Gerris insularis*

ヒメアメンボ *Gerris latiabdominis*

シマアメンボ *Metrocoris histrio*

8.3.6.2.3.2.イトアメンボ科 *Hydrometridae*

ヒメイトアメンボ *Hydrometra procera* (神・減少種H)

8.3.6.2.4.ミズギワカメムシ亜目 *Leptopodomorpha*

8.3.6.2.4.1.ミズギワカメムシ科 *Saldidae*

ミズギワカメムシ *Saldula saltatoria*

タニガワミズギワカメムシ *Macrosaldula miyamotoi*

8.3.6.2.5.トコジラミ亜目 *Cimicomorpha*

8.3.6.2.5.1.グンバイムシ科 *Tingidae*

マルグンバイ *Acalypta sauteri*

ヒゲブトグンバイ *Copium japonicum*

コアカソグンバイ *Cysteochila fieberi*

クルミグンバイ *Uhlerites latius*

マルミヤマグンバイ *Derephysia ovata*

トサカグンバイ *Stephanitis takeyai*

8.3.6.2.5.2.メクラカメムシ科 *Miridae*

ズアカシダメクラガメ *Monalocoris filicis*

ヒコサンテングメクラガメ *Termatophyllum hikosanum*

オオモンキメクラガメ *Deraeocoris olivaceus*

モンキクロメクラガメ *Deraeocoris ater*

ヒョウタンメクラガメ *Pilophorus setulosus*

クロヒョウタンメクラガメ *Pilophorus typicus*

クロマルメクラガメ *Orthocephalus funestus*

カタグロミドリメクラガメ *Cyrtorhynchus lividipennis*

マツケブカメクラガメ *Tinginotum pini*

アカアシメクラガメ *Onomaus lautus*

ブチヒゲクロメクラガメ *Adelphocoris triannulatus*
ウスモンメクラガメ *Adelphocoris demissus*
ナカグロメクラガメ *Adelphocoris suturalis*
アカスジオオメクラガメ *Gigantomiris jupiter*
アシアカクロメクラガメ *Arbolygus rubripes*
フタモンウスキメクラガメ *Lygocoris hnshuensis*
マダラメクラガメ *Lygus saundersi*
モンキマキバメクラガメ *Orthops sachalinus*
メンガタメクラガメ *Eurystylus coelestialium*
アカミヤクメクラガメ *Stenodema rubrinerve*
オオセダカメクラガメ *Proboscidocoris varicornis*
ヒメセダカメクラガメ *Charagochilus gyllenhalii*

8.3.6.2.5.3.ハナカメムシ科 Anthocoridae

キモンクロハナカメムシ *Anthocoris miyamotoi*
ヤサハナカメムシ *Amphiareus obscuriceps*

8.3.6.2.5.4.マキバサシガメ科 Nabidae

アカマキバサシガメ *Gorpis brevilineatus*
ハラビロマキバサシガメ *Himacerus apterus*
クロマキバサシガメ *Stalia daurica*
コバネマキバサシガメ *Nabis apicalis*
ハネナガマキバサシガメ *Nabis stenoferus*

8.3.6.2.5.5.サシガメ科 Reduviidae

オオアシナガサシガメ *Gardena melinarthrum*
クビアカサシガメ *Reduvius humeralis*
クビグロアカサシガメ *Haematoloecha delibuta*
アカシマサシガメ *Haematoloecha nigrorufa*
クロバアカサシガメ *Labidocoris pectoralis*
クロモンサシガメ *Peirates turips*
アカサシガメ *Cydnocoris russatus*
ハネナシサシガメ *Coranus dilatatus*
アカヘリサシガメ *Rhynocoris ornatus*
シマサシガメ *Sphedanolestes impressicollis*
ヤニサシガメ *Velinus nodipes*
トビイロサシガメ *Oncoccephalus assimilis*
ホソサシガメ *Pygolampis cognata*

ビロウドサシガメ *Ectrychotes andreae*

オオトビサシガメ *Isyndus obscurus*

8.3.6.2.6.カメムシ亜目 *Pentatomomorpha*

8.3.6.2.6.1.ヒラタカメムシ科 *Aradidae*

ノコギリヒラタカメムシ *Aradus orientalis*

エサキヒラタカメムシ *Aradus esakii*

ヒラタカメムシ *Aradus consentaneus*

ニッポンヒメヒラタカメムシ *Aneurus nipponicus*

クロヒラタカメムシ *Brachyrhynchus taiwanicus*

オオヒラタカメムシ *Mezira scabrosa*

ケブカオオヒラタカメムシ *Mezira setosa*

トビイロオオヒラタカメムシ *Neuroctenus castaneus*

8.3.6.2.6.2.イトカメムシ科 *Berytidae*

ヒメイトカメムシ *Metacanthus pulchellus*

8.3.6.2.6.3.ナガカメムシ科 *Lygaeidae*

アカヘリナガカメムシ *Arocatus sericans*

ジュウジナガカメムシ *Tropidothorax cruciger*

ムラサキナガカメムシ *Pylorgus colon*

イシハラナガカメムシ *Pylorgus ishiharai*

ヒメナガカメムシ *Nysius plebejus*

ニッポンコバネナガカメムシ *Dimorphopterus japonicus*

コガシラコバネナガカメムシ *Pirkimerus japonicus*

オオメナガカメムシ *Piocoris varius*

ヒメオオメナガカメムシ *Geocoris proteus*

ヒゲナガカメムシ *Pachygrontha antennata*

チビナガカメムシ *Stigmatonotum rufipes*

イチゴチビナガカメムシ *Stigmatonotum geniculatum*

キベリヒョウタンナガカメムシ *Paraparomius lateralis*

サビヒョウタンナガカメムシ *Pamerarma rustica*

ヒョウタンナガカメムシ *Caridops albomarginatus*

ウスチャヒョウタンナガカメムシ *Pachybrachius flavipes*

クロアシホソナガカメムシ *Paromius exiguus*

チャモンナガカメムシ *Paradieuches dissimilis*

チャイロナガカメムシ *Neolethaeus dallasi*

クロナガカメムシ *Drymus marginatus*

チャイロホソナガカメムシ *Prosemoeus brunneus*
オオモンシロナガカメムシ *Metochus abbreviatus*

8.3.6.2.6.4.メダカナガカメムシ科 *Malcidae*

メダカナガカメムシ *Chauliops fallax*

8.3.6.2.6.5.オオホシカメムシ科 *Largidae*

ヒメホシカメムシ *Physopelta cincticollis*

オオホシカメムシ *Physopelta gutta*

8.3.6.2.6.6.ホシカメムシ科 *Pyrrhocoridae*

クロホシカメムシ *Pyrrhocoris sinuaticollis*

フタモンホシカメムシ *Pyrrhocoris sibiricus*

8.3.6.2.6.7.ホソヘリカメムシ科 *Alydidae*

クモヘリカメムシ *Leptocorisa chinensis*

ヒメクモヘリカメムシ *Paraplesius unicolor*

ホソヘリカメムシ *Riptortus clavatus*

8.3.6.2.6.8.ヘリカメムシ科 *Coreidae*

ヒメトゲヘリカメムシ *Coriomerus scabricornis*

オオヘリカメムシ *molipteryx fuliginosa*

ホシハラビロヘリカメムシ *Homoeocerus unipunctatus*

ハラビロヘリカメムシ *Homoeocerus dilatatus*

ツマキヘリカメムシ *Hygia opaca*

オオツマキヘリカメムシ *Hygia lativentris*

ホソハリカメムシ *Cletus punctiger*

キバラヘリカメムシ *Plinactus bicoloripes*

ホオズキヘリカメムシ *Acanthocoris sordidus*

オオクモヘリカメムシ *Anacanthocoris striicornis*

8.3.6.2.6.9.ヒメヘリカメムシ科 *Rhopalidae*

アカヒメヘリカメムシ *Rhopalus maculatus*

ケブカヒメヘリカメムシ *Rhopalus sapporensis*

ブチヒメヘリカメムシ *Stictopleurus punctatonervosus*

8.3.6.2.6.10.マルカメムシ科 *Plataspidae*

マルカメムシ *Megacopta punctatissima*

ヒメマルカメムシ *Coptosoma biguttulum*

8.3.6.2.6.11.ツチカメムシ科 *Cydnidae*

ヨコヅナツチカメムシ *Adrisa magna*

ツチカメムシ *Macrosytus japonensis*

ヒメツヤツチカメムシ *Chilocoris piceus*

ヒメツチカメムシ *Geotomus pygmaeus*

8.3.6.2.6.12.クヌギカメムシ科 Urostylidae

ヘラクヌギカメムシ *Urostylis annulicornis*

ナシカメムシ *Urochela lateovaria*

8.3.6.2.6.13.キンカメムシ科 Scutelleridae

アカスジキンカメムシ *Poecilocoris lewisi*

8.3.6.2.6.14.カメムシ科 Pentatomidae

イネクロカメムシ *Scotinophara lurida*

アカスジカメムシ *Graphosoma rubrolineatum*

オオクチブトカメムシ *Picromerus bidens*

クチブトカメムシ *Picromerus lewisi*

アオクチブトカメムシ *Dinorhynchus dybowskyi*

アカアシクチブトカメムシ *Pinthaeus sanguinipes*

シモフリクチブトカメムシ *Eocanthecona japonicola*

チャイロクチブトカメムシ *Arma custos*

シロヘリカメムシ *Aenalia lewisi*

イネカメムシ *Lagynotomus elongatus*

オオトゲシラホシカメムシ *Eysarcoris lewisiaeneus*

トゲシラホシカメムシ *Eysarcoris aeneus*

シラホシカメムシ *Eysarcoris ventralis*

ツヤマルシラホシカメムシ *Eysarcoris annamita*

ヒメナガメ *Eurydema dominulus*

ミヤマカメムシ *Hermolaus amurensis*

ナカボシカメムシ *Menida musiva*

スコットカメムシ *Menida scotti*

ツマジロカメムシ *Menida violacea*

ブチヒゲカメムシ *Dolycoris baccarum*

トゲカメムシ *Carbula humerigera*

チャバネアオカメムシ *Plautia stali*

エゾアオカメムシ *Palomena angulosa*

ツヤアオカメムシ *Glaucias subpunctatus*

クサギカメムシ *Halyomorpha picus*

ヨツボシカメムシ *Homalogonia obtusa*

ウシカメムシ *Alcimocoris japonesis*

アカアシカメムシ *Pentatoma rufipes*
ツノアオカメムシ *Pentatoma japonica*
トホシカメムシ *Lelia decempunctata*
エビイロカメムシ *Gonopsis affinis*

8.3.6.2.6.15.ツノカメムシ科 *Acanthosomatidae*

セアカツノカメムシ *Acanthosoma denticauda*
オオツノカメムシ *Acanthosoma giganteum*
ツノアカツノカメムシ *Acanthosoma haemorrhoidale angulatum*
ハサミツノカメムシ *Acanthosoma labiduroides*
ヒメハサミツノカメムシ *Acanthosoma forficula*
エゾツノカメムシ *Acanthosoma expansum*
モンキツノカメムシ *Sastragala scutellata*
エサキモンキツノカメムシ *Sastragala esakii*
ヒメツノカメムシ *Elasmucha putoni*
アカヒメツノカメムシ *Elasmucha dorsalis*
クロヒメツノカメムシ *Elasmucha amurensis*
セグロヒメツノカメムシ *Elasmucha signoreti*
ベニモンツノカメムシ *Elasmotherus humeralis*
アオモンツノカメムシ *Dichobothrium nubilum*
トゲツノカメムシ *Lindbericoris gramineus*

8.3.7.チャタテムシ目

8.3.7.1.チャタテムシ目 *PSCOPTERA*

8.3.7.1.1.コナチャタテ科 *Liposcelidae*

一般に屋内害虫として有名な種を含む。野外でもケヤキ等の樹皮下などからみつかることがある。

ヒラタコナチャタテ *Liposcelis bostrychophilus*

本種は屋内害虫として著名な種であり、室内に保管している間に侵入した個体である可能性も考えられる。すべてブナの枯れ枝より脱出した。

カツブシチャタテ *Liposcelis entomophilus*

ブナの枯れ枝より脱出。

ソウメンチャタテ *Liposcelis simulans*

ブナの枯れ枝より脱出。

8.3.7.1.2.ウスイロチャタテ科 *Ectopsocidae*

クイロチャタテ *Ectopsocopsis cryptomeriae*

モミの枯れ枝より脱出。

マドチャタテ科 *Peripsocidae*

基本的に食菌性の科で、常緑樹の葉裏や樹の樹皮上に発生する菌類を好む種が多い。

Peripsocus didymus

ブナの枯れ枝より脱出。

モミの枯れ枝より脱出。

クロヒメマドチャタテ *Peripsocus pumilus*

ブナの枯れ枝より脱出。

8.3.7.1.3.チャタテ科 *Psocidae*

カバイロチャタテ *Metylophorus nebulosus*

ブナの枯れ枝より脱出。比較的少ない種である。

リンゴチャタテ *Psococeratis mali*

樹幹に生息する代表的なチャタテムシである。幼虫は非常に強い集合性を持ち常に群れで生活する。なお、この属はさらに何種か追加される可能性が高い。ブナの枯れ枝より脱出。

ヒメムツテンチャタテ *Trichadenotecnum sexpunctellum*

ブナの枯れ枝より脱出。

モミの枯れ枝より脱出。

8.3.8.バッタ目および近縁の諸目

8.3.8.1.ゴキブリ目 *BLATTARIA*

8.3.8.1.1.ゴキブリ科 *Blattidae*

クロゴキブリ *Periplaneta fuliginosa*

人家性。本調査では西丹沢のみで記録されたが、南丹沢(叢毛)の過去の記録もあり、山麓部の人家には広く見られると考えられる。

ヤマトゴキブリ *Periplaneta japonica*

平地から丘陵地の林に生息し、時に人家内にも入る。本調査では記録されなかったが、南丹沢(叢毛)の過去の記録がある。

8.3.8.1.2.チャバネゴキブリ科 *Blattellidae*

モリチャバネゴキブリ *Blattella nipponica*

低山帯の林床に生息する。本調査では、南丹沢のみで記録されたが、山麓部には広く分布すると考えられる。

8.3.8.2.カマキリ目 *MANTODEA*

8.3.8.2.1.カマキリ科 *Mantidae*

コカマキリ *Statilia maculata*

低山帯から平地の草地に生息する。本調査では、西丹沢のみで記録されたが、山麓

の集落周辺には広く分布すると考えられる。

オオカマキリ *Tenodora aridifolia*

低山帯から平地の草地に生息し、他種よりも山地の奥にまで分布する。本調査では、東丹沢・西丹沢(地蔵平)の標高 600m 以下で記録された。

チョウセンカマキリ *Tenodera angustipennis*

平地から丘陵地の草地に生息する。本調査では記録されなかったが、東丹沢(七沢)の過去の記録がある。

8.3.8.3. バッタ目 ORTHOPTERA

8.3.8.3.1. キリギリス科 Tettigoniidae

ツユムシ *Phaneroptera falcata*

湿った草地を好み、平地に多いが、山地の草地にも少数が見られる。本調査では、東丹沢・西丹沢(地蔵平)の標高 600m 以下で記録された。

アシグロツユムシ *Phaneroptera nigroantennata*

丘陵地から低山地の林縁に生息する。本調査では東丹沢・北丹沢(青野原;神ノ川林道)・西丹沢(玄倉;浅瀬)で記録された。

セスジツユムシ *Ducetia japonica*

平地から低山地の林縁や茂った草地に生息する。本調査では、東丹沢・北丹沢(神ノ川林道)・西丹沢(玄倉)の標高 400m 以下で記録された。

エゾツユムシ *Ducetia chinensis*

丘陵地から山地の林縁や茂った草地に生息する。本調査では、東丹沢(金沢林道)・北丹沢・南丹沢・西丹沢の標高 1200m 以下で記録された。

ホソクビツユムシ *Shirakisotima japonica*

山地の林縁や明るい林に生息し、おもに高い樹上に見られる。本調査では、南丹沢・西丹沢の標高 400~1300m で記録された。

ヘリグロツユムシ *Psyrana japonica*

丘陵地から山地の林縁や明るい林に生息し、しばしば林内を飛翔する。本調査では、東丹沢・西丹沢の標高 400~1100m で記録された。

サトクダマキモドキ *Holochlora japonica*

平地から丘陵地の林縁や明るい林に生息する。本調査では記録されなかったが、東丹沢の過去の記録がある。

ヤマクダマキモドキ *Holochlora longifissa*

丘陵地から低山地の林縁や明るい林に生息する。本調査では、西丹沢の 1 例のみが記録された。過去に東丹沢の記録もある。

クツワムシ *Mecopoda niponensis*

丘陵地の林縁や茂った草地に生息する。本調査では、東丹沢・西丹沢で記録された

のみで、山麓に局地的に分布すると考えられる。(神・減少種H)

ハヤシノウマオイ *Hexacentrus japonicus*

丘陵地から低山地の林縁に生息する。本調査では東丹沢のみで鳴く雄が記録された。東丹沢・北丹沢・西丹沢でそれぞれ記録された雌もおそらく本種と考えられる。

ハタケノウマオイ *Hexacentrus sp.*

おもに平地の草地に生息する。本調査では記録されなかったが、東丹沢の過去の記録がある。

クビキリギリス *Euconocephalus javanicus*

平地から低山地の草地や林縁に生息する。本調査では、東丹沢で記録されたのみだが、山麓には広く分布すると考えられる。

シブイロカヤキリモドキ *Xestophrys javanicus*

平地から丘陵地の茂った草地やササやぶに生息する。本調査では、東丹沢の1例のみが記録された。

ヒメクサキリ *Ruspolia jezoensis*

丘陵地から山地の明るい林や茂った草地に生息する。本調査では、東丹沢・西丹沢の標高 500~1200m で記録され、個体数も多かった。なお、山地産の本種は小型であるが、時に大型の個体もあり、長者舎の個体は体長が 48mm であった。

クサキリ *Ruspolia lineosa*

平地から低山地の草地に生息する。本調査では、東丹沢・南丹沢・西丹沢で記録され、前種よりも低標高地に少数が生息していた。

ホシササキリ *Conocephalus maculatus*

おもに平地の草地に生息する。本調査では記録されなかったが、東丹沢の過去の記録がある。

オナガササキリ *Conocephalus gladius*

丘陵地の土堤などに生息する。本調査では、東丹沢・北丹沢・南丹沢で記録されたが、山麓には広く分布すると考えられる。(神・減少種H)

ウスイロササキリ *Conocephalus chinensis*

平地から丘陵地の湿った草地に生息する。本調査では記録されなかったが、東丹沢の過去の記録がある。

ササキリ *Conocephalus melas*

平地から低山地の林床に生息する。本調査では記録されなかったが、過去の東丹沢の記録がある。

ヒメツユムシ *Leptotera albicornis*

山地の林縁に生息する。本調査では、東丹沢・南丹沢・西丹沢で記録され、全域の低山帯に広く分布することが明らかになった。

セスジササキリモドキ *Xiphidiopsis spathulata*

低山地の林縁に生息する。本調査では、東丹沢の1例のみが記録された。

ヒメヤムキリモドキ *Tettigoniopsis forcipicercus*

山地のブナ林などの林床に生息する。本調査では、東丹沢・南丹沢・西丹沢の標高600~1500mで記録された。

クロスジコバネササキリモドキ *Cosmetura ficifolia*

丘陵地から山地の明るい林に生息する。本調査では、東丹沢・西丹沢で記録された。

コバネヒメギス *Melipotera bonneti*

平地から山地の草地に生息する。本調査では、東丹沢・南丹沢・西丹沢の標高200~1200mで記録された。

ヒメギス *Eobiana engelhardti subtropica*

平地から山地の湿原に生息する。本調査では、東丹沢・西丹沢の標高400~1500mで記録された。主稜線上で記録された3例はいずれも長翅型であった。

ヤブキリ *Tettigonia orientalis*

平地から山地の草地や林縁に生息する。本調査では、東丹沢・南丹沢・西丹沢で記録された。神奈川県に分布する本種には、ジャー——と連続的に鳴くタイプとチキチキチキの音節の区切りがあるタイプがあり、丹沢では低標高地には前者が、稜線部には後者が分布している。1993.9.10の南丹沢の烏尾山(標高1100m)での観察では、同一地点で両者が鳴いており、後者がやや小型なこと以外は顕著な形態の差は認められなかった。また、同様の2タイプは、北丹沢の長者舎付近でも同時に聞かれている。これらが同一種の変異であるのか別種であるのかは、松浦一郎氏によってタンザワヤブキリと仮称されているタイプも含めて検討が必要である。

8.3.8.3.2. コロギス科 *Gryllacrididae*

ハネナシコロギス *Nippancistroger testaceus*

丘陵地から山地の広葉樹林に生息する。本調査では、東丹沢・西丹沢で記録された。

コロギス *Prosopogryllacris japonica*

丘陵地から山地の広葉樹林に生息する。本調査では、東丹沢が記録されたのみだが、南丹沢の過去の記録がある。

8.3.8.3.3. カマドウマ科 *Rhaphidophoridae*

カマドウマ *Diestrammena apicals*

丘陵地から山地の林床や建造物などに生息する。本調査では記録されなかったが、東丹沢の過去の記録がある。

マダラカマドウマ *Diestrammena japonica*

平地から山地に広く分布し、樹洞や洞窟などに生息し、しばしば建造物にも住み着く。

本調査では、東丹沢・南丹沢で記録された。

コノシタウマ *Tachycines elegantissimus*

平地から山地の林床に生息する。本調査では、南丹沢・西丹沢の標高 1300m 以下で記録された。

クチキウマ *Anoplophilus acuticercus*

山地の森林内の枯れ木などに生息する。本調査では、東丹沢・西丹沢で記録された。クチキウマ類の分類は未完成だが、上記の個体は黒っぽくて金属光沢をもち、石川均氏に同定して頂いたところ、本種にあたることとであった。本種は県内からの初記録である。

チビクチキウマ(石川均氏仮称) *Anoplophilus* sp.

前種と同様の環境に生息し、本調査では西丹沢で記録された。前種よりやや小型で、褐色味が強く金属光沢を欠く。未記載種で石川均氏の同定によるとチビクチキウマにあたることである。本種も、県内からの初記録となる。なお、石川氏によると、本県にはクチキウマよりもさらに大型の別種も分布している可能性があることと、今後の精査が必要である。

8.3.8.3.4. コオロギ科 *Gryllidae*

クロツヤココオロギ *Phonarellus ritsemae*

丘陵地の土壌に深い穴を掘って生息する。本調査では、南丹沢の 1 か所のみで記録された。(神・減少種G)

ツツレサセココオロギ *Velarifictorus micado*

平地から低山地の草地に生息する。本調査では、北丹沢・西丹沢で記録されただけであったが、山麓には広く分布すると考えられる。

クマココオロギ *Mitius minor*

平地から丘陵地の湿った草地や水田に生息する。本調査では記録されなかったが、東丹沢の過去の記録がある。

ヒメココオロギ *Nemobiodes nipponensis*

丘陵地から低山地の茂った草地に生息する。本調査では、東丹沢・南丹沢・西丹沢の標高 400m 前後で記録された。

モリオカメココオロギ *Loxoblemmus sylvestris*

丘陵地から低山地の林床に生息する。本調査では、東丹沢・北丹沢・南丹沢・西丹沢で記録された。

ハラオカメココオロギ *Loxoblemmus campestris*

平地から低山地の草地に生息する。本調査では、東丹沢・西丹沢で記録され、前種よりも山麓部に多かった。

ミツカドココオロギ *Loxoblemmus doenitzii*

平地から低山地の草地に生息する。本調査では、北丹沢で記録された 1 例のみだったが、山麓には広く分布すると考えられる。

エンマコオロギ *Teleogryllus emma*

平地から低山地の草地に生息する。本調査では、東丹沢・北丹沢・南丹沢・西丹沢の標高 800m 以下で記録された。なお、山地型は顔の黒っぽいもので、上記の記録は県内は県内初記録である。

マツムシ *Xenogryllus marmoratus*

平地から丘陵地の草地に生息する。本調査では、南丹沢の 1 例のみが記録された。
(神・減少種H)

アオマツムシ *Trujalia hibinonis*

中国原産の帰化種で、市街地を中心に分布を広げている。本調査では、南丹沢・西丹沢が記録されただけだが、山麓の集落には普通である。秦野自然研究会(1983)によると、1982 年に丹沢林道では菜の花台と表丹沢林道分岐では声が聞かれたが、ヤビツ峠では聞かれなかったという。また、佐藤(1981)は 1979 年に東丹沢の宮ヶ瀬での多数目撃例をあげている。

スズムシ *Homoeogryllus japonicus*

平地から丘陵地のよく茂った草地に生息する。本調査では、南丹沢の 1 例のみが記録された。(神・減少種H)

カンタン *Oecanthus longicauda*

平地から山地のヨモギやクズの茂った草地に生息する。本調査では、東丹沢・北丹沢・南丹沢・西丹沢の標高 600m 以下で記録された。

クサヒバリ *Paratrigonidium bifasciatum*

平地から丘陵地の林縁に生息する。本調査では、西丹沢の 1 例のみが記録されたが、山麓部には広く分布すると考えられる。

キンヒバリ *Anaxipha* sp.

平地から丘陵地のヨシ原などに生息する。本調査では記録されなかったが、東丹沢の過去の記録がある。(神・減少種G)

ヤマトヒバリ *Homoeoxipha lycoides*

丘陵地の林床に生息する。本調査では、北丹沢の 1 例のみが記録された。

キアシヒバリモドキ *Trigonidium* sp.

丘陵地から低山地の林縁の草地に生息する。本調査では、東丹沢・西丹沢の標高 700m 以下で記録された。

ヤチスズ *Pteronemobius ohmachi*

平地から丘陵地の湿った草地や水田に生息する。本調査では記録されなかったが、東丹沢の過去の記録がある。

エゾスズ *Pteronemobius yezoensis*

山地の湿った草地に生息する。本調査では、東丹沢・西丹沢の標高 400~600m で記録された。本県では従来、箱根山地でしか分布が知られていなかったため、上記の記録は丹沢山地としての初記録となる。

マダラスズ *Dianemobius nigrofasciatus*

平地から山地の疎らな草地に生息する。本調査では、東丹沢・北丹沢・南丹沢・西丹沢の標高 1000m 以下で記録された。

カワラスズ *Dianemobius furumagiensis*

川の上中流の川原の砂礫地に生息する他、鉄道線路にも生息する。本調査では、東丹沢・北丹沢・西丹沢で記録され、各河川の上流部に分布する。なお、三保ダム本体の石積みの間には多数の本種が生息している。

ヒゲシロスズ *Polionemobius flavoantennalis*

丘陵地の土壌に生息する。本調査では、北丹沢・南丹沢・西丹沢の標高 400m 以下で記録された。

シバズ *Pteronemobius mikado*

平地から低山地の背の低い草地に生息する。本調査では、東丹沢・西丹沢の標高 600m 以下で記録された。

8.3.8.3.5.カネタタキ科 *Mogoplistidae*

カネタタキ *Ornebius kanetataki*

平地から丘陵地の森林に生息する。本調査では記録されなかったが、東丹沢の過去の記録がある。山麓部には広く分布していると考えられる。

8.3.8.3.6.ノミバッタ科 *Tridactylidae*

ノミバッタ *Xya japonica*

平地から丘陵地の畑などに生息する。本調査では、東丹沢・西丹沢で記録された。

8.3.8.3.7.オンブバッタ科 *Pyrgomorphidae*

オンブバッタ *Atractomorpha lata*

平地から丘陵地の草地に生息する。本調査では西丹沢のみで記録されたが、山麓に広く分布していると考えられる。

8.3.8.3.8.イナゴ科 *Catantopidae*

ハネナガイナゴ *Oxya japonica*

おもに水田に生息する。本調査では記録されなかったが、東丹沢の過去の記録がある。

コバネイナゴ *Oxya yezoensis*

平地から低山地の湿った草地や水田に生息する。本調査では、東丹沢・南丹沢・西丹沢の標高 600m 以下で記録された。なお、上記の杉平橋産の雌は翅が腹端を著しく越

えていた。

ツチイナゴ *Patanga japonica*

平地から丘陵地のクズなどの茂った草地に生息する。本調査では、東丹沢のみで記録された。

ハネナガフキバツタ *Eirenephilus longipennis*

山地の林縁に生息する。本調査では、北丹沢・西丹沢で記録された。上記の記録は本県からの初記録となる。

アオフキバツタ *Parapodisma subaptera*

山地の林縁や草地に生息する。本調査では、南丹沢で記録された。丹沢山地は本種の南限であり、従来、菩提峠のみに産することが知られていたが、今回上記の記録が得られ、分布域がやや広いことが明らかになった。

ヤマトフキバツタ *Parapodisma yamato*

丘陵地から低山地の林床や林縁に生息する。本調査では、東丹沢・南丹沢・西丹沢の標高 700m 以下で記録された。

タンザワフキバツタ *Parapodisma sp.*

丘陵地から低山地の林床や林縁に生息する。本調査では、東丹沢・北丹沢・南丹沢・西丹沢で記録され、山麓から稜線までの広い範囲に分布していた。低標高地では前種と混生し、高標高地では本種のみが見られた。本種には、全体が緑色の型と胸部背面または全身が赤褐色の型が見られるが、丹沢では雌の約 4 割、雄の約 3 割が胸部背面が赤褐色で、雌の全身赤褐色の個体は記録されなかった。なお、本種はメスアカフキバツタに近縁で、その亜種と考える説もあるが、その分類学的な位置づけは未確定である。

8.3.8.3.9.バツタ科 *Acrididae*

ショウリョウバツタ *Acrida cinerea antennata*

平地から丘陵地の草地に生息する。本調査では、南丹沢・西丹沢で記録されたが、山麓には広く分布すると考えられる。本種は眼の大きさにより 2~3 タイプに分けられるという説があるが、本調査では分けることができなかった。

ショウリョウバツタモドキ *Gonista bicolor*

丘陵地の土堤に生息する。本調査では、南丹沢の 1 例のみが記録された。(神・減少種H)

トノサマバツタ *Locusta migratoria*

平地から丘陵地の草地に生息する。本調査では、南丹沢でのみ記録されたが、山麓部には広く分布すると考えられる。

クルマバツタモドキ *Oedaleus infernalis*

平地から丘陵地の草地に生息する。本調査では、北丹沢・西丹沢でのみ記録されたが、山麓部に広く分布すると考えられる。

クルマバツタ *Gastrimargus marmoratus*

平地から丘陵地の草地に生息する。本調査では、記録されなかったが、東丹沢での確認例がある。

カワラバツタ *Eusphingonotus japonicus*

中流域の川原の砂礫地だけに生息する。本調査では記録されなかった。浅瀬の世附川には 1992 年には本種が見られたが、その後の河川工事の影響で絶滅した。また、北丹沢と西丹沢の記録も報告されている。(神・危惧種D)

イナゴモドキ *Mecostethus alliaceus*

山地の草地に生息する。本調査では、西丹沢で記録された。本種は、県内では従来箱根と湯河原のみから知られていたため、上記は丹沢山地としての初記録となる。また、暗色型としたのは、本来黄褐色の部分が暗い汚褐色になった個体であり、こうした色彩のものが報告されたことはないと考えられる。

ナキイナゴ *Mongolotettix japonicus*

丘陵地から山地のススキ草地に生息する。本調査では、東丹沢・南丹沢・西丹沢の標高 1200m 以下で記録された。

ヒロバネヒナバツタ *Megalaucobothrus latipennis*

山地の草地と林縁に生息する。本調査では、東丹沢・北丹沢・南丹沢・西丹沢で記録され、山麓から稜線部まで広く分布していた。

ヒナバツタ *Chorthippus biguttulus maritimus*

平地から低山地の草地に生息する。本調査では、東丹沢のみで記録された。

タカネヒナバツタ *Chorthippus nipponmontanus*

山地の草地に生息する。本調査では、西丹沢で記録されたが、これは県内初記録であり、本種の南限にあたる。丹沢山地に最も近い本種の分布地は、山梨県大菩薩山地であり、東京都からは記録がないため、分布上興味を持たれる。

8.3.8.3.10. ヒシバツタ科 *Tetrigidae*

トゲヒシバツタ *Criotettix japonicus*

平地の湿地や水田に生息する。本調査では、南丹沢で記録されたが、本種の生息環境から考えて例外的な記録である。

ハネナガヒシバツタ *Euparattettix insularis*

平地から丘陵地の湿った草地に生息する。本調査では記録されなかったが、東丹沢に過去の記録がある。

ハラヒシバツタ *Tetrix japonica*

平地から丘陵地の背の低い草地や畑に生息する。本調査では、東丹沢・南丹沢・西丹沢の標高 400m 以下で記録された。

ヤセヒシバツタ *Tetrix macilenta*

丘陵地から山地の林縁の草地などに生息する。本調査では、東丹沢・北丹沢・西丹沢の標高 400~800m で記録された。山麓の集落付近では前種が、山地内では本種が見られ、ほぼ住み分けていた。本種については市川顕彦氏に一部の標本を同定して頂いた。

コバネヒシバツタ *Formosatettix larvatus*

丘陵地から山地の林床に生息する。本調査では、東丹沢・南丹沢・西丹沢の標高 600~1500m で記録された。本種については市川顕彦氏に一部の標本を同定して頂いた。

8.3.8.4. ナナフシ目 *PHASMIDA*

8.3.8.4.1. ナナフシ科 *Phasmatidae*

トゲナナフシ *Neohirasea japonica*

丘陵地から低山地の林床に生息する。本調査では、西丹沢の 1 例のみが記録された。

エダナナフシ *Phraortes illepidus*

丘陵地から山地の広葉樹林に生息する。本調査では、東丹沢・西丹沢で記録された。

トビナナフシ *Micadina phluctaenoides*

丘陵地の常緑広葉樹の多い林に生息する。本調査では、東丹沢のみで記録された。

ヤスマツトビナナフシ *Micadina yasumatui*

丘陵地から山地の広葉樹林に生息する。本調査では記録されなかったが、過去に西丹沢の大又沢・大山下社の記録がある。

ナナフシモドキ *Baculum irregulariterdentatum*

丘陵地から低山地の広葉樹林に生息する。本調査では、北丹沢・東丹沢・西丹沢で記録された。

8.3.8.5. ハサミムシ目 *DERMAPTERA*

8.3.8.5.1. ハサミムシ科 *Anisolabididae*

ヒゲシロハサミムシ *Gonolabis marginalis*

平地から丘陵地の林床に生息する。本調査では、西丹沢のみで記録された。

8.3.8.5.2. クギヌキハサミムシ科 *Forficulidae*

コブハサミムシ *Anechura harmandi*

山地の林縁や明るい林の低木上に生息し、樹皮下や崖の石の間に成虫越冬する。本調査では、北丹沢・南丹沢・西丹沢の標高 400~800m で記録された。本種の雄のはさみの形状には、2 型があるが、丹沢山地では約 3 分の 2 がルイス型、3 分の 1 がアルマン型であった。

エゾハサミムシ *Eparchus yezoensis*

山地の林縁に生息する。本調査では西丹沢で記録された。

キバネハサミムシ *Forficula mikado*

山地の林縁の低木上に生息する。本調査では、東丹沢・北丹沢・西丹沢の標高 600～1200m で記録された。

8.3.9.カワゲラ類

8.3.9.1. ヒロムネカワゲラ科 *Peltoperlidae*

ノギカワゲラ *Cryptoperla japonica*

飛沫のあたる岩盤や礫面にすむ。低地から高地まで広く分布するが、標高のあまり高くない所の方が多い。

ミヤマノギカワゲラ *Yoraperla uenoi*

主に流れの速い礫間、落葉の間にしがみついですむ。ノギカゲワラよりも標高の高い所に分布する。

8.3.9.2. アミメカワゲラ科 *Perlodidae*

アミメカワゲラ科は現在十分な分類学的検討がなされておらず、特に *Isoperla* 属は種の同定に問題がある。

アサカワミドリカワゲラモドキ "*Isoperla*" *asakawae*

緩やかな流れの礫、落葉の間に多くすむ。低地から高地まで広く分布する。

フタスジミドリカワゲラモドキ *Isoperla nipponica*

緩流部の落葉中や植物の根の間などにすむ。主に低地に分布する。

ミドリカワゲラモドキ属の 1 種 *Isoperla* sp.2 = ? *Isoperla towadensis*

コグサアミメカワゲラ *Ostrovus mitsukonis*

河川の上流から中流域にかけて見つかる。

ヤマトヒロバネアミメカワゲラ *Pseudomegarcys japonica*

緩流部の落葉や礫の間にすむ。低地から高地まで広く分布する。

ニッコウアミメカワゲラ *Sopkalia yamadae*

礫間や岩盤の隙間にすむ。河川の源流部の近くに多い。

ヤマトアミメカワゲラ *Stavsolus japonicus*

比較的大きな河川のみから見つかっている。

コウノアミメカワゲラ *Tadamus kohnonis*

高地に多いが、小さな沢などには生息しない。

8.3.9.3. カワゲラ科 *Perlidae*

ジョウクリカワゲラ *Acroneuria joukliei*

キカワゲラ *Acroneuria fulva*

モンカワゲラの 1 種 *Calineuria* sp.1

キアシクロフタツメカワゲラ *Gibosia hagiensis*

キフタツメカワゲラ *Gibosia hatakeyamae*

オオメフタツメカワゲラ "*Gibosia*" *thoracica*

フタツメカワゲラ *Neoperla geniculata*

ハルフタツメカワゲラ *Neoperla* sp.1

ヤマトカワゲラ *Niponiella limbatella*

カワゲラ *Kamimuria tibialis*

流れのある礫間にすむ。本種は標高 500m 以下に多くなる。次種に比べ本流の河川に多く生息するようである。

ウエノカワゲラ *Kamimuria uenoi*

流れのある礫間にすむ。本種は前種に比べ、支流や上流域の河川に多く生息するようである。

クロヒゲカワゲラ *Kamimuria quadrata*

流れのある礫間にすむ。低山から高地までの広い範囲に分布する。

オオヤマカワゲラ *Oyamia lugubris*

緩い流れの礫間にすむ。本種は標高の低いところに分布する。

スズキクラカケカワゲラ *Paragnetina suzukii*

速い流れの礫間や岩盤の隙間にすむ。

クラカケカワゲラ *Paragnetina tinctipennis*

速い流れの礫間や岩盤の隙間にすむ。

ミドリカワゲラ科 *Chloroperlidae*

ミドリカワゲラ科は現在十分な分類学的検討がなされておらず、属の所属と種の同定の両方に問題がある。したがって、この報告ではなるべく種名の使用をさけた。

ミドリカワゲラ科の 1 種 *Suwallia* sp.1

ミドリカワゲラ科の 1 種 *Suwallia* sp.2

セスジミドリカワゲラ *Sweltsa abdominalis*

ミドリカワゲラ科の 1 種 *Sweltsa* sp.1="Isoperla" *kinbunensis*

ミドリカワゲラ科の 1 種 *Sweltsa* sp.2

ミドリカワゲラ科の 1 種 *Sweltsa* sp.3

ミドリカワゲラ科の 1 種 *Sweltsa* sp.4

8.3.9.4. トワダカワゲラ科 *Scopuridae*

ミネトワダカワゲラ *Scopura montana*

本州の東北地方より南の山岳域の細流に生息する。

8.3.9.5. ミジカオカワゲラ科 *Taeniopterygidae*

イマニシシタカワゲラ *Mesyatsia* sp.1

山地溪流域に生息する。

8.3.9.6. オナシカワゲラ科 *Nemouridae*

ジュッポンオナシカワゲラ *Amphinemura decemseta*

低山地渓流域から丘陵地帯にかけての様々な環境に生息する。

ヤジリオナシカワゲラ *Amphinemura sagittata*

山地の標高約 1000m 以上の渓流域などに生息する。

モンオナシカワゲラ *Amphinemura flavostigma*

山地渓流域などに生息する。

ナガトゲオナシカワゲラ *Amphinemura longispina*

山地渓流域などに生息する。

サトオビナシカワゲラ *Amphinemura dichotoma*

河川の緩流部に生息し、平地から低山にかけて分布する。

アカギオナシカワゲラ *Nemoura akagii*

山地渓流域などに生息する。

チノオナシカワゲラ *Nemoura chinonis*

山地渓流域などに生息する。

ウエノオナシカワゲラ *Nemoura uenoi*

山地渓流域などに生息する。

カワイオナシカワゲラ *Nemoura sp.1*

山地渓流域などに生息する。

ナラオナシカワゲラ *Nemoura naraiensis*

源流などの細い沢に多い。

ナガオナシカワゲラ *Nemoura longicercia*

山地渓流域などに生息する。

ハルミスジオナシカワゲラ *Nemoura redimiculum*

山地渓流域などに生息する。

イワミスジオナシカワゲラ *Nemoura trivittata*

本種の幼虫は水に濡れた垂直な岩盤上に生息する。

マルオミスジオナシカワゲラ *Nemoura ovocercia*

本種の幼虫は水に濡れた垂直な岩盤上に生息する。

トゲオナシカワゲラ *Nemoura fulva*

河川の緩流部に生息し、平地から高山にかけて広く分布する。

オナシカワゲラ属の 1 種 *Nemoura cercispinosa* Group sp.1

オナシカワゲラ属の 1 種 *Nemoura cercispinosa* Group sp.2

ホタカオナシカワゲラ *Protonemura hotakana*

山地渓流域などに生息する。

トワダオナシカワゲラ *Protonemura towadensis*

山地溪流域などに生息する。

ユビオナシカワゲラ属の1種 *Protonemura* sp.1

クロオナシカワゲラ *Indonemoura nohirae*

細流などに多い。

8.3.9.7. クロカワゲラ科 *Capniidae*

クロカワゲラ科は現在十分な分類学的検討がなされておらず、属の所属と種の同定の両方に問題がある。したがって、この報告ではなるべく種名の使用をさけた。

クロカワゲラ属の1種 *Capnia* sp.1

クロカワゲラ属の1種 *Capnia* sp.2

ミジカオクロカワゲラ属の1種 *Eucapnopsis stigmatica*

ミジカオクロカワゲラ属の1種 *Eucapnopsis quattuorsegmentata*

ミジカオクロカワゲラ属の1種 *Eucapnopsis* sp.1

チビクロカワゲラ *Isocapnia japonica*

8.3.9.8. ハラジロオナシカワゲラ科 *Leuctridae*

ハラジロオナシカワゲラ科は現在十分な分類学的検討がなされておらず、属の所属と種の同定の両方に問題がある。したがって、この報告ではなるべく種名の使用をさけた。

モンハラジロオナシカワゲラ *Paraleuctra cercia*

山地溪流域などに生息する。

オカモトハラジロオナシカワゲラ "*Rhopalopsale*" *okamotoa*

山地溪流域などに生息する。

ハルホソカワゲラの1種 *Perlomyia* sp.1

ハルホソカワゲラの1種 *Perlomyia* sp.2

ハルホソカワゲラの1種 *Perlomyia* sp.3

ホソカワゲラの1種 *Rhopalopsale* sp.1

ホソカワゲラ *Rhopalopsale japonica*

8.3.10. トンボ類

8.3.10.1. イトトンボ科 *Coenagrionidae*

モートンイトトンボ *Mortonagrion selenion*

低茎草本が生える湿地に生息する種類で、県内では休耕田での発生例が多いが、近年激減している。山麓部の谷戸で確認された。(神・危惧種E)

キイトンボ *Ceriagrion melanurum*

県内では休耕田を主とした湿地や池に見られるが、近年激減している。(神・減少種G)

アジアイトトンボ *Ischnura asiatica*

止水に広く分布する種類で、移動力は強い。山麓部の谷戸及び山中の新たに造られた池で確認された。

アオモンイトトンボ *Ischnura senegalensis*

沿岸に多い種であり移動力は大きい。ときに内陸部でも採集される。

セスジイトトンボ *Cercion hieroglyphicum*

止水や流水の緩流部に生息する種類で、山中の新たに造られた池で確認された。

クロイトトンボ *Cercion calamorum calamorum*

止水や流水の緩流部に生息する。

オオイトトンボ *Cercion sieboldii*

池や湿地に生息する種類で、山中の新たに造られた池で確認された。

8.3.10.2.アオイトトンボ科 *Lestidae*

アオイトトンボ *Lestes sponsa*

止水に生息する種類で、山中の新たに造られた池で確認された。(神・減少種G)

オオアオイトトンボ *Lestes temporalis*

比較的小規模な止水に好んで生息する種類で、山麓の谷戸、山中の小止水及び山中の新たに造られた池などで確認された。

オツネントンボ *Sympecma paedisca paedisca*

止水に生息する種類で、成虫で越冬する。山麓の堰堤及び山中の新たに造られた池などで確認された。

ホソミオツネントンボ *Indolestes peregrinus*

止水に生息する種類で、成虫で越冬する。山麓の林道沿いで確認された。

8.3.10.3.カワトンボ科 *Calopterygidae*

ハグロトンボ *Calopteryx atrata*

主として河川の中・下流域に生息する種類であるが、本調査では河川上流域で確認された。(神・減少種H)

ミヤマカワトンボ *Calopteryx cornelia*

流水に生息する種類で、河川上流域で確認された。丹沢山地に見られる流水性種の中では、最も普通に見られるが、西丹沢での記録は少ない。

カワトンボ *Mnais pruinosa costalis*

流水に生息する種類で、河川上流域で確認された。一般に山地の溪流には普通に見られるが、西丹沢では確認できない沢があるのは興味深い。なお、本種の分類については未だ諸説入り乱れた状態であり、結論はでていない。ここでは便宜的に亜種ヒガシカワトンボをあてておく。(神・減少種H)

8.3.10.4.ムカシトンボ科 *Epiophlebiidae*

ムカシトンボ *Epiophlebia superstes*

渓流域に産するが、丹沢では既知産地も少なく、特に西丹沢での記録はほとんどなかった。本種は砂防ダムによる流水の分断の影響を強く受けているのではないかと考えられる。

8.3.10.5. ムカシヤンマ科 *Petaluridae*

ムカシヤンマ *Tanypteryx preyeri*

丘陵地から山地の水のしみだす斜面に幼虫が穴を掘って生息するという、変わった生活史をもつトンボで、県内での記録はごく少ない。(神・危惧種D)

8.3.10.6. サナエトンボ科 *Gomphidae*

ヤマサナエ *Asiagomphus melaenops*

丘陵地の小流などに生息する。(神・減少種H)

ミヤマサナエ *Anisogomphus maacki*

平地から低山地の河川に生息するが、羽化後山頂部に集まる習性がある。成熟するとまた低地に降りる。

アオサナエ *Nihonogomphus viridis*

河川中流域に見られるが、全国的にも激減している。(神・危惧種D)

ダビドサナエ *Davidius nanus*

河川に広く分布する。

クロサナエ *Davidius fujiama*

河川源流域に生息する種類である。これまで記録の少なかった種であるが、丹沢山地には広く分布するものと考えられる。

ヒメクロサナエ *Lanthus fujiacus*

河川源流域に生息する種類である。県内での記録は少ない。

オジロサナエ *Stylogomphus suzukii*

渓流域に生息する種であるが、産地は限られる。

ヒメサナエ *Sinogomphus flavolimbatus*

成虫は河川上流域で活動するが、幼虫は中流で見られることが多い。県内では記録の少ない種である。

オナガサナエ *Onychogomphus viridicostus*

中流域に生息するが、県内の記録は少ない。(神・減少種G)

コオニヤンマ *Sieboldius albardae*

河川上流から中流にかけて生息する。丹沢山地の山麓部には広く分布するものと考えられる。

ウチワヤンマ *Ictinogomphus clavatus*

池沼に生息する。県内では少ない種である。(神・減少種G)

8.3.10.7. オニヤンマ科 *Cordulegastridae*

オニヤンマ *Anotogaster sieboldii*

流水に生息する種類で、小川から溪流まで広く生息する。丹沢山地各地で確認された。

8.3.10.8. ヤンマ科 *Aeshnidae*

サラサヤンマ *Oligoaeschna pryeri*

丘陵地の湿地に生息するが、県内では数か所しか記録のない稀種である。(神・危惧種D)

コシボソヤンマ *Boyeria maclachlani*

ゆるやかな流れの中小河川に棲息する種類で、山麓の河川で確認された。(神・減少種G)

ミルンヤンマ *Planaeschna milnei*

上流域に広く見られる種類で、山中から山麓の河川で確認された。

アオヤンマ *Aeschnophlebia longistigma*

抽水植物の豊富な池沼に生息するが、全国的にも減少著しい種である。県内の記録はこの七沢での採集例を最後に途絶えている。(神・絶滅種B)

カトリヤンマ *Gynacantha japonica*

止水に生息する種類で、山麓の湿地で確認された。(神・減少種H)

ヤブヤンマ *Polycanthagyna melanictera*

薄暗い池や貯水槽などに発生する。成虫は黄昏活動性が強い。

ルリボシヤンマ *Aeshna juncea*

山地の池・湿地・休耕田に見られる。県内ではかつて珍しい種と考えられていたが、近年山麓部で発見例が増えている。新たに出現した水域へも早い時期に飛来・定着するようである。丹沢山地には広く分布するものと考えられる。なお、従来西丹沢での記録はなかったが、1995年8月5日、高桑によって本種と思われる2羽が山北町白石沢の堰堤で目撃されている。ただし、これは目撃場所が遠く確実に本種と特定できる記録ではないので参考までに記した。

オオルリボシヤンマ *Aeshna nigroflava*

本種も近年になって記録が増えた種類で、今のところ厚木市北部から相模湖町にかけての池で発見されている。東沢の池のように新たに造成した池にも飛来するようなので、今後各地の堰堤のたまり水なども調査する必要がある。(神・危惧種D)

マルタンヤンマ *Anaciaeschna martini*

丘陵地の湿地に生息し、本県では休耕田をおもな発生源としている。今回の調査では新たに造成された池への飛来も確認されている。本種も黄昏飛翔性が強い。

ギンヤンマ *Anax parthenope julius*

県内各地に分布するヤンマであるが、面積の広い池がほとんど存在しない丹沢では、記録も少ない。(神・減少種H)

クロスジギンヤンマ *Anax nigrofasciatus nigrofasciatus*

薄暗い池を好むヤンマで、小規模な水域にも生息する。

8.3.10.9. エソトンボ科 *Corduliidae*

コヤマトンボ *Macromia amphigena amphigena*

中小河川に生息する。山麓部には広く分布するものと考えられる。(神・減少種H)

オオヤマトンボ *Epoptalmia elegans*

開放的な池に生息する。池のほとんどない丹沢では少ない。

タカネトンボ *Somatochlora uchidai*

樹陰の多い止水に生息する種類で、小規模な池や湿地で確認された。

8.3.10.10. トンボ科 *Libellulidae*

ハラビロトンボ *Lyriothemis pachygastra*

休耕田などの湿地に生息する。

シオカラトンボ *Orthetrum albistylum speciosum*

止水や緩やかな流水に生息する種類で、尾根から山麓にかけての地域で確認された。

シオヤトンボ *Orthetrum japonicum japonicum*

谷戸の湿田や湿地などに生息する種類で、山麓の湿地で確認された。

オオシオカラトンボ *Orthetrum triangulare melania*

止水に生息する種類で、山中の新たに造られた池及び山麓の小規模な池や湿地で確認された。

ヨツボシトンボ *Libellula quadrimaculata asahinai*

休耕田等の湿地に生息する。県内では 80 年代に一時増加したが、近年減少している。

コフキトンボ *Deiilia phaon*

抽水植物のある池沼に生息する。(神・減少種G)

ショウジョウトンボ *Crocothemis servilia mariannae*

止水に生息する種類で、山中の新たに造られた池及び山麓の小規模な水たまりで確認された。

アキアカネ *Sympetrum frequens*

止水に生息する種類で、尾根部から山麓で確認された。初夏に平地で羽化後、未熟な時期を山岳地帯ですごし、秋になるとふたたび平地に戻るといった生活史をもっている。

ナツアカネ *Sympetrum darwinianum*

山麓の水田に生息する。

マユタテアカネ *Sympetrum eroticum eroticum*

山麓の水田や湿地などに生息する。

ヒメアカネ *Sympetrum parvulum*

山麓の水田や湿地に生息するが、産地は限られる。

ミヤマアカネ *Sympetrum pedemontanum elatum*

池や湿地、河原などで確認された。

ノシメトンボ *Sympetrum infuscatum*

低地の止水に生息する種類で、かなり移動を行うことで知られている。沢沿いの林道や池・湿地で確認された。

コノシメトンボ *Sympetrum baccha matutinum*

県内では北部を分布の中心とする種で、一般に個体数は少ないが調査地域に隣接する愛川町・相模原市などには多産する。今回の調査では山中、山麓の池や湿地、水田などで確認された。

リスアカネ *Sympetrum risi risi*

一般に樹陰の多い池に生息する種類で、山麓の比較的小規模な止水で確認された。

キトンボ *Sympetrum croceolum*

晩秋にあらわれるアカトンボで、水質の良い池に生息する。県内でも減少著しく、近年の記録はほとんどない。

ネキトンボ *Sympetrum speciosum speciosum*

丘陵地から山地にかけての池に見られ、造成直後の池など新しい環境への進出も早い種である。また、羽化後は一時池を離れて尾根筋の見晴らしの良い場所に集まる習性がある。今回の調査でも山麓部各地の池及び尾根部で確認された。

コシアキトンボ *Pseudothemis zonata*

樹陰のある池を好み、水質汚染にも強い種である。

チョウトンボ *Rhyothemis fuliginosa*

環境の良い池沼に生息するが、ときおり意外な場所でも移動個体と思われるものが見られることがある。偶産と考えられる2例のみ。(神・危惧種D)

ウスバキトンボ *Pantala flavescens*

非常に移動力が強い種で世界中の温暖な地域ならどこでも見られる種である。特に盛夏から初秋のころには多数の群飛を見る機会が多い。

8.3.11.カゲロウ類

8.3.11.1.コカゲロウ科 *Baetidae*

ミジカオフタバコカゲロウ属の1種 *Acentrella* sp.

小型のコカゲロウ(約 1.5mm)で、中胸前縁が上に大きく膨らんでいる。幼虫は不詳である。

フタバコカゲロウ *Baetiella japonica*

日本に広く分布するコカゲロウで、幼虫は流速の速い石の表面に生息する。

サホコカゲロウ *Baetis sahoensis*

比較的有機汚染に強い種で、相模川の本流では春から秋にかけて幼虫がよくみられる。

シロハラコカゲロウ *Baetis thermicus*

溪流でよくみられる種であり、幼虫は流速の速い川底の石の表面に生息する。丹沢では幼虫は垂直な砂防堰堤上でしばしば採集された。本流では秋から冬にかけてよく見られる。

コカゲロウ属の1種 *Baetis* sp.F

小林(1987)の整理番号によった。シロハラコカゲロウによく似ていて、上流域の緩やかな流れに生息する。

コカゲロウ属の1種 *Baetis* sp.G

小林(1987)の整理番号によった。幼虫はコカゲロウ属のなかでも大型で細長く、湧水の流れによくみられる。

フタバカゲロウ *Cloeon dipterum*

緩やかな流れの水際、湖沼などでみられる。一般に溪流では少ないようで、湧水から得られた。

8.3.11.2. ヒメフタオカゲロウ科 *Ameletidae*

マエグロヒメフタオカゲロウ *Ameletus costalis*

山地溪流に普通で、早春に羽化するヒメフタオカゲロウである。丹沢では、成虫は3・4月に採集された。

ヒメフタオカゲロウ *Ameletus montanus*

山地溪流に普通で、初夏に羽化するヒメフタオカゲロウである。丹沢では、成虫は5・6月に多く採集された。

ヒメフタオカゲロウ属の1種 *Ameletus* sp.1

マエグロヒメフタオカゲロウ *Ameletus costalis* によく似ているが、雄交尾器が異なり、大型である。山地溪流に普通で、早春に羽化する。丹沢では、成虫は3・4月に採集された。

ヒメフタオカゲロウ属の1種 *Ameletus* sp.2

中型(約 10mm)のヒメフタオカゲロウである。現在まで、日本では秋に採集されたヒメフタオカゲロウの例はない。原小屋沢で11月に採集された。

8.3.11.3. ガガンボカゲロウ科 *Dipteromimudae*

ガガンボカゲロウ *Dipteromimus tipuliformis*

日本特産種で 1 科 1 属 1 種。本州中部以南から琉球列島にかけて分布し、幼虫の生息場所は森林内の小流である。丹沢では、山地溪流の枝沢で採集された。現在までの記録では、分布の東限に当たる。なお、石綿、野崎(1980)、石綿(1981a)は酒匂川、金目川に本種の分布記録をあげているが、コカゲロウ属 *Baetis* spp. の誤同定である。

8.3.11.4. オフトオカゲロウ科 *Siphonuridae*

オフトオカゲロウ *Siphonurus binotatus*

中下流の水質のやや汚染された水域に分布する種である。丹沢では採集例が少ない。

ナミフタオカゲロウ *Siphonurus sanukensis*

上中流に分布する種である。丹沢では中流域で採集された。

ヨシノフタオカゲロウ *Siphonurus yoshinoensis*

上中流に分布する種である。丹沢では上流域で採集されているが、中流の岡田でも採集された。成虫は 6・7 月に採集された。

8.3.11.5. チラカゲロウ科 *Isonychiidae*

チラカゲロウ *Isonychia japonica*

北海道から沖縄に分布し、年 2 世代(5・6 月, 9・10 月)である。しかし、沖縄の分布は疑問視される。神奈川県内での分布は広い。

8.3.11.6. ヒラタカゲロウ科 *Heptageniidae*

オビカゲロウ *Bleptus fasciatus*

日本の固有種とあるが、韓国からの報告がある。カゲロウ幼虫のなかで特異な場所に生息するヒラタカゲロウで、小谷や滝など水の飛沫を浴びる石上にはい上がって生活する。丹沢では、本川や支川の源流部で採集された。境川のような低標高の丘陵地帯の源流部にも生息している。

ミヤマタニガワカゲロウ属の 1 種 *Cinygmula* sp.1

胸部側面に黒斑がある。ミヤマタニガワカゲロウ *Cinygmula hirasana* の成虫と思えるが詳細は検討していない。

ミヤマタニガワカゲロウ属の 1 種 *Cinygmula* sp.2

胸部側面に黒斑がない。雄交尾器も前種とは異なる。

キブネタニガワカゲロウ *Ecdyonurus kibunensis*

日本に広く分布し、幼虫は山地溪流の石レキ底に生息し、成虫は初夏に羽化する(年 1 世代)。しかし、雄交尾器の形態からこの成虫と思われるものが相模川下流域で初夏に、また、上流域で初冬に採集された。

シロタニガワカゲロウ *Ecdyonurus levis*

日本に広く分布する普通種で、河川の中下流の流れの緩やかな川岸のレキ下、湖沼の湖岸に分布し、5・6月に羽化する(年1世代)。後で述べるタニガワカゲロウ属の1種 *Ecdyonurus* sp.1 と混同されている可能性が高い。丹沢では成虫は4月から9月に採集され中下流に多い。以前、使われていた学名 *Ecdyonurus yoshidae* は Bae et al.(1994)によって標記学名に変更されている。

マダラタニガワカゲロウ *Ecdyonurus tigris*

日本に広く分布する普通種で、山地溪流に生息し、晩秋から初夏に羽化する(年1世代)。丹沢では成虫は9・10月に採集された。

クロタニガワカゲロウ *Ecdyonurus tobiironis*

日本に広く分布し、山地溪流に生息し、4・5月に羽化する(年1世代)。丹沢では幼虫は枝沢の緩やかな流れで採集された。

タニガワカゲロウ属の1種 *Ecdyonurus* sp.1

前種に酷似している。成虫の胸部側面に黒斑がない。丹沢では成虫は6月から9月に採集され上中流部に多い。

タニガワカゲロウ属の1種 *Ecdyonurus* sp.2

キブネタニガワカゲロウの幼虫によく似ている。雄交尾器が異なる。丹沢では成虫は5月から11月に採集された。

キヒロヒラタカゲロウ *Epeorus aesculus*

日本に広く分布し、幼虫は山地溪流の急流の石の表面に生息する。丹沢では成虫は5月から7月に採集された。

ユミモンヒラタカゲロウ *Epeorus curvatulus*

日本に広く分布し、幼虫は山地溪流の激流部に生息するといわれているが、山崎(1987)の多摩川の報告では中速流に生息する。丹沢では成虫は6月から10月まで採集された。

オナガヒラタカゲロウ *Epeorus hiemalis*

日本に広く分布し、幼虫は山地溪流の激流部に生息する。晩秋に羽化する(年1世代)。

ナミヒラタカゲロウ *Epeorus ikanonis*

日本に広く分布し、幼虫は山地溪流の激流部に生息する。早春に羽化する(年1世代)。

エルモンヒラタカゲロウ *Epeorus latifolium*

日本に広く分布し、幼虫は山地溪流に広く分布する普通種で、晩春から初夏、初秋から晩秋に羽化する(年2世代)。後で述べるヒラタカゲロウ属の1種 *Epeorus* sp.2 によく似ていることから、これら2種は混同されている可能性が高い。丹沢では成虫は5月から7月と9月から11月に採集された。